



# キリストへの道 聖書研究ガイド

[www.Bible-Lessons.org](http://www.Bible-Lessons.org)

から無料でダウンロードできます。

発行者：Merlin Beerman（著作権所有）

テキストはエレン・ホワイト著「キリストへの道」  
（福音者発行）からの抜粋です。

この無料聖書研究は数ヶ国語に訳されており、自由に  
コピーして家族、友人などと分かち合えるようになって  
います。

内容の変更、講座の販売を固く禁じます。これを他言  
語に翻訳する場合は発行者の許可を得てください。  
なお、翻訳の著作権は発行者が所有します。このガイ  
ドを不特定多数に配布する場合は、下記から注文して  
ください。

[www.RevelationPublications.com](http://www.RevelationPublications.com)

## 目次

- 01 - 神の愛
- 02 - キリストの必要
- 03 - 自分の状態の認識
- 04 - 悔い改め
- 05 - 告白
- 06 - 献身
- 07 - 信仰と受容
- 08 - 弟子としての証拠
- 09 - キリストに向かっでの成長
- 10 - 人生と活動
- 11 - 神についての知識
- 12 - 祈りの特権
- 13 - 祈りの力
- 14 - 疑いをどうするべきか
- 15 - 主にある喜び
- 16 - 今と永遠の喜び



# 第1課 神の愛

(質問1) 神はご自分が造られた者に、どのようにご自分の愛を示されるでしょう？

詩篇 145 : 15、16

よろずのものの目はあなたを待ち望んでいます。あなたは時にしたがって彼らに食物を与えられます。あなたはみ手を開いて、すべての生けるものの願いを飽かせられます。

関連聖句

ピリピ人への手紙 4 : 19

詩篇 104 : 21、27

詩篇 136 : 25  
マタイによる福音書 6 : 26  
ヨエル書 2 : 22  
エペソ人への手紙 3 : 20  
創世記 1 : 30

自然と啓示は、神の愛をあかししています。天の父なる神は、生命と知恵と喜びの源です。自然のすばらしく美しいものを見てごらんください。また、自然が人間ばかりではなく、あらゆる生物の必要と幸福を驚くほど満たしていることを考えてごらんください。輝かしい日の光、地をうるおす雨、山、丘、海、平原、それらはみな神の愛を物語っています。このように、すべてのつくられたものの必要をお満たしになるのは神です。

**(質問2) 神はどのようなお方だと聖書には書いてありますか?**

ヨハネの第一の手紙 4 : 16  
わたしたちは、神がわたしたちに対して持つておられる愛を知り、かつ信じている。神は愛である。愛のうちにいる者は、神におり、神も彼にいます。

#### 関連聖句

哀歌 3 : 22、23  
ローマ人への手紙 8 : 38、39  
詩篇 36 : 7-9  
ヨハネの第一の手紙 4 : 8、12、13 ; 3 : 1

神は初め、人をまったく清く幸福なものにおつくりになりました。そして、この美しい地球が創造主のみ手で行われたときには、一点の衰えの兆しも、呪いの影もありませんでした。愛の掟である神の掟を人が犯したために、死と悩みが生じたのです。けれども、罪の結果として生じた苦しみの中にさえ、神の愛はあらわされています。聖書にも、神は人のために土を呪われた、と記されています(創世記 3 : 17)。茨とあざみ、つまり、いろいろな困難や試みがこの世の生涯を心配や苦勞の多いものにしてはいますが、これは人のためであって、罪のもたらした破滅と墮落から救い出すためには、是非なくてはならない訓練として神がお定めになったのです。世界は墮落したとはいえ、悲惨なことばかりではありません。自然そのものに希望と慰めの訪れを読むことができます。その証拠に、あざみにも花が咲き、茨も花でおおわれています。

神は愛であるということが、どのつぼみにも、どの草にも記されています。かわいい小鳥は楽しい歌声で空気を震わせ、美しい色の花は良いかおりをあたりに漂わせ、森の大木は青々と茂り、それぞれにみな、神は優しい父親のように私たちを守ってくださることや、私たちの幸福を望んでおられることを示しています。

### （質問3）神のご品性の特徴は何でしょう？

ミカ書 7：18、19

だれかあなたのように不義をゆるし、その嗣業の残れる者のために とがを見過ごされる神があろうか。神はいつくしみを喜ばれるので、その怒りをながく保たず、再びわれわれをあわれみ、われわれの不義を足で踏みつけられる。あなたはわれわれのもろもろの罪を 海の深みに投げ入れ、

#### 関連聖句

出エジプト記 15：11； 34：6、7

詩篇 103：9； 112：4； 145：

8； 71：19； 86：5

イザヤ書 55：7

ヨナ書 4：2

神のみ言葉は、神のご性質をあらわしています。神はみずから、ご自身の限りない愛とあわれみについてお語りになりました。モーセが、「どうぞ、あなたの栄光をわたしにお示してください」と言ったとき、神はそれに答えて、「わたしはもろもろの善をあなたの前に通らせ、」（出エジプト記 33：18、19）と言われました。

神は、天にも地にも、数えきれないほどの愛のしるしをまき散らして、私たちの心をご自分に結びつけられました。自然界のいろいろなもの、または人の心が感じることのできる深い優しい地上のきずなによって、神は私たちにご自分を示そうとなさいました。しかし、これらは神の愛のただ一部を示しているにすぎません。

（質問4）もし神の品性に関するサタンの偽りの主張を信じるなら、私たちは神をどう見るようになるでしょう？

ミカ書 7：17

彼らはへびのように、地に這うもののようにちりをなめ、震えながらその城から出、おののきつつ、われわれの神、主に近づいてきて、あなたのために恐れる。

#### 関連聖句

出エジプト記 15 : 14-16  
ヨシュア記 2 : 9-11 ; 9 : 24  
詩篇 9 : 20  
イザヤ書 2 : 19-21  
エレミア書 33 : 9  
ヨハネの黙示録 6 : 15-17

このような証拠が与えられているにもかかわらず、善の敵である悪魔は人の心をくらまし、神を恐ろしい者のように見せかけ、残酷で人を決してゆるさない者、厳しい裁判官か強欲な金貸しのよう、頑として動かない者のように思わせています。また創造主を、常に人類のあやまちを拾い上げて厳罰に処している者のように思わせています。イエスが人類の間にお住みになったのは、この暗い影を取り除いて神の限りない愛を示すためでした。

**(質問5) 人は罪を選んだためにどのような特権を失ったでしょう？**

ヨハネによる福音書 1 : 18  
神を見た者はまだひとりもない。ただ父のふところにいるひとり子なる神だけが、神をあらわしたのである。

#### 関連聖句

ヨハネによる福音書 6 : 46  
出エジプト記 33 : 20  
テモテへの第一の手紙 6 : 16  
ヨハネの第一の手紙 4 : 12、20

**(質問6) 父なる神がどのようなお方か、どのようにして知ることができるでしょう？**

ヨハネによる福音書 14 : 7  
もしあなたがたがわたしを知っていたならば、わたしの父をも知ったであろう。しかし、今は父を知っており、またすでに父を見たのである」。

#### 関連聖句

ヨハネによる福音書 17 : 4-8、26 ;  
5 : 19、20  
テモテへの第一の手紙 3 : 16  
コロサイ人への手紙 1 : 15

神のみ子が天からおいでになったのは、天の父をあらわすためでした。「神を見た者はまだひとりもいない。ただ父のふところにいるひとり子なる神だけが、髪を表したのである」（ヨハネによる福音書 1 : 18）。「子を知る者は父のほかになく、父を知る者は、子と、父をあらわそうとして子が選んだ者とのほかに、だれもありません」（マタイによる福音書 11 : 27）。弟子の一人が、「わたしたちに御父をお示してください」とイエスに願ったとき、「ピリポよ、こんなに長くあなたがたと一緒にいるのに、わたしがわかっていないのか。わたしを見た者は、父を見たのである。どうして、『わたしたちに父を示してほしい』と言うのか」（ヨハネによる福音書 14 : 8、9）と言われました。

**（質問7） イエスはどのような理由でこの世に来られたのでしょうか？**

ルカによる福音書 4 : 18、19

「主の御霊がわたしに宿っている。 貧しい人々に福音を宣べ伝えさせるために、 わたしを聖別してくださいからである。 主はわたしをつかわして、 囚人が解放され、 盲人の目が開かれることを告げ知らせ、 打ちひしがれている者に自由を得させ、 主のめぐみの年を告げ知らせるのである」。

関連聖句

使徒行伝 10 : 38 ; 26 : 18  
マタイによる福音書 11 : 5  
イザヤ書 50 : 4-6 ; 29 : 18 ; 35 : 5、6  
詩篇 147 : 3 ; 107 : 13-20 ; 146 : 7-9

これがイエスの使命でした。彼は広くめぐり歩いて良いことをし、悪魔に苦しめられている者をいやされました。こうしてあらゆる病気をいやしながら、村々をお通りになったので、村中だれ一人、病で苦しむ者がいなくなったほどでした。こうした働きは、イエスが神からつかわされたことのしるしでした。イエスの生

涯のあらゆる行為には愛と情とあわれみが見られ、その心は優しい同情となって人々の上に差し伸べられたのです。イエスが人となられたのも、人間の必要に応じることができるためでした。どんなに貧しい者も、どんなに卑しい者も、恐れずにイエスに近づくことができました。また、幼い子どもでさえ彼に引きつけられ、そのひざによじ登って愛にあふれた物静かなみ顔に見入るのでした。

**（質問8）**キリストはご自身と福音のメッセージについて何とされていますか？

ヨハネによる福音書 1 : 14

そして言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であって、めぐみとまこととに満ちていた。

関連聖句

ヨハネによる福音書 1 : 16、17

詩篇 45 : 2 ; 85 : 10、11

コロサイ人への手紙 1 : 19

テモテへの第一の手紙 1 : 14

イエスは真実を何の遠慮もなく口にされましたが、そういうときにはいつも愛をもってお語りになりました。また、人と交際するにあたっては、いかにも上手に、深い思いやりと細かい注意を払い、荒々しい言葉を用いたり、何の理由もないのに言葉を鋭くしたり、何の必要もないのに感じやすい心を傷つけたり、人の弱さを責めたりなさいませんでした。常に愛をもって真実を語られました。また、偽善、不信、不義をお責めになりましたが、そうした鋭い譴責の言葉を語ったときにも、そのみ声は涙に震えていました。道であり、真理であり、命である自分を拒んだ愛する町エルサレムのことを考えて、主イエスは泣かれました。人々はイエスを拒んだのですが、イエスは優しく彼らをあわれまれたのです。彼は一生の間、自己をまったく捨てて人のために尽くされました。イエスの目には、どの魂もみな尊く映ったのです。彼は神の子の威厳を備えていましたが、へりくだって、神の家族の一人ひとりを優しく思いやり、どの人を見ても、この罪に堕ちた魂を救うことこそ自分の使命であると思われたのです。キリストの生涯はこうした性質のものでしたが、これこそ神のご性質です。キリストのうちにあらわされ、人類の上にあふれ出た天からの愛の流れは、天の父の

み心から出たものです。優しい、思いやり深い救い主イエスは、「肉において現れ」（テモテへの第一の手紙 3：16）た神でした。

（質問9）イエスは私たちの救いのために、この世でどのような扱いを受けられたでしょう？

イザヤ書 53：3-5

彼は侮られて人に捨てられ、悲しみの人で、病を知っていた。また顔をおおって忌みきらわれる者のように、彼は侮られた。われわれも彼を尊ばなかった。まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。しかるに、われわれは思った、彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだと。しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。

関連聖句

イザヤ書 53：11、12

マタイによる福音書 26：67、68； 27：39-44

マルコによる福音書 15：15-20

ヘブル人への手紙 12：2、3

ヨハネによる福音書 1：10, 11

ローマ人への手紙 4：25

ペテロの第一の手紙 3：18； 2：23、24

キリストが地上で生活し、苦しみ、十字架上で死なれたのは、私たちがあがなうためでした。彼は、私たちが永遠の喜びにあずかることができるように、「悲しみの人」となられました。神は、恵みと真理に満ちた独り子を栄光に輝くみ国から、罪にそこなわれ、死と呪いに暗く閉ざされたこの世に降されたのです。神は、イエスが愛のふところを離れ、天使たちの賛美の声をあとにして、苦しみと恥、無礼、屈辱、憎しみ、最後には死をさえ受けることをおゆるしになりました。荒野の、ゲツセマネの園の、または十字架上のイエスをご覧ください。一点の汚れもない神のみ子が罪の重荷を負い、また神とともにおられた方が罪の結果である神と人との間の恐ろしいまでの隔たりを経験されたのです。

（質問10）イエスは十字架の苦しみの中で、父なる神に何と叫ばれたでしょう？

マタイによる福音書 27 : 46

そして三時ごろに、イエスは大声で叫んで、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」と言われた。それは「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

#### 関連聖句

詩篇 22 : 1

イザヤ書 59 : 2

箴言 15 : 8、29

エレミヤ記 5 : 25

ミカ書 3 : 4

罪の重荷、罪の恐ろしさ、神から遮断されることが、神の子の心を砕いたのです。

**(質問 1 1) 父なる神がみ子をこの世に送られた二つの重要な理由は何でしょう？**

ヨハネによる福音書 3 : 16

神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。

コリント人への第二の手紙 5 : 19

すなわち、神はキリストにおいて世をご自分に和解させ、その罪過の責任をこれに負わせることをしないで、わたしたちに和解の福音をゆだねられたのである。

#### 関連聖句

ヨハネによる福音書 17 : 23 ; 1 : 29

ローマ人への手紙 3 : 24-26 ;

5 : 10、11

ヨハネの第一の手紙 2 ; 1、2 ; 4 : 10

ペテロの第一の手紙 4 : 14

コリント人への第二の手紙 5 : 18-21

しかし、この大きな犠牲が払われたのは、天の神のみ心に、人に対する愛の気持ちを起こさせ、人を救いたいと神に思わせるためではありませんでした。いいえ、そうではなく、「神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛」(ヨハネによる福音書 3 : 16)されたからです。神は、その大きななだめの供え物のために、私たちを愛されたのではなく、私たちを愛するために、なだめの供え物を与えられたのです。キリスト

は、罪に堕ちた世界に神の限りない愛を注がれる仲介者でした。「神はキリストにおいて世を御自分に和解させ……られた」（コリント人への第二の手紙 5：19）とあります。神はみ子とともにお苦しみになりました。ゲツセマネの苦しみ、カルバリーの死を通して、限りない愛を持たれる神は、私たちのあがないの価をお払いになったのです。

（質問 12）堕落した人類を救うイエスの働きと、その働きに父なる神はどう応えられたでしょう？

ヨハネによる福音書 10：17

父は、わたしが自分の命を捨てるから、わたしを愛して下さるのである。命を捨てるのは、それを再び得るためである。

関連聖句

ピリピ人への手紙 2：6-9

テトスへの手紙 2：14

ヨハネによる福音書 17：4、5、21-26

ヘブル人への手紙 2：9、14、15

「私の父は、あなたがたをこの上なく愛しておられるので、私があなたがたの救いのために命を捨てることで、以前にも増して私を愛してください。あなたがたの負債と罪を背負って命を捨て、あなたがたの身代わり、保証人となることで、私は父に一層愛されるようになります。なぜなら、私の犠牲によって神は義となり、同時に、私を信じる者をも義とすることがおできになるからです」神の子のほかには、だれも私たちのあがないを成し遂げることはできません。というのは、神のふところにいた者でなければ、神をあらわすことができないからです。神の愛の高さ、深さを知る者だけが、それを明らかにできるのです。堕落した人類のためにキリストが払われた限りない犠牲ほど、失われた人類に対する神の愛をあらわすことのできるものはありません。

「神は、そのひとり子を賜ったほどに、この世を愛された」。神はキリストを、ただ人々の間に生活し人々の罪を負い、彼らの犠牲となって死ぬためにお与えになったばかりではなく、キリストそのものを堕落した人類にお与えになったのです。キリストは人類の利害や必要を人々とともに味わわれました。

**(質問 1 3) イエスは私たちを何と呼び、なぜそう呼ぶことを恥とされないのでしょうか？**

ヘブル人への手紙 2 : 1 1

実に、きよめるかたも、きよめられる者たちも、皆ひとりのかたから出ている。それゆえに主は、彼らを兄弟と呼ぶことを恥とされない。

関連聖句

マタイによる福音書 12 : 48-50 ;

25 : 40

ヨハネによる福音書 17 : 21 ;

20 : 17

マルコによる福音書 8 : 38

ローマ人への手紙 8 : 29

神と一つであったキリストは、人々と切っても切れないきずなで結ばれ、「彼らを兄弟と呼ぶことを恥」

(ヘブル人への手紙 2 : 1 1) とされません。彼は、私たちの犠牲、また助け主、私たちの兄弟です。神のみ座の前に人間の姿で立ち、永遠にみずからあがなわれた人類の一人となられた「人の子」です。これはみな、罪の淵、罪の滅びから人が引き上げられ、神の愛を反映し、清い者となる喜びにあずかるためでした。

**(質問 1 4) 神の驚くべき愛によって私たちにどのような栄誉が与えられるのでしょうか。**

ヨハネの第一の手紙 3 : 1

わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜ったことか、よく考えてみなさい。わたしたちは、すでに神の子なのである。世がわたしたちを知らないのは、父を知らなかったからである。

関連聖句

コリント人への第二の手紙 6 : 18

ローマ人への手紙 9 : 25、26

ガラテヤ人への手紙 4 : 5、6

ホセア書 1 : 10

私たちのあがないのために払われた価、私たちのためにその独り子に死をさえおゆるしになった天の神の計り知れない犠牲を考えると、キリストによって私たちは非常に高潔な状態に到達することができるという観念を起さずにはられません。靈感に動かされた

使徒ヨハネは、滅びゆく人類に対する天の父の愛の高さ、深さ、広さをながめて、心が敬愛と敬虔の念でいっぱいになり、その愛の偉大さ、優しさを表現するのにふさわしい言葉を見いだすことができずに、「わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜ったことか、よく考えてみなさい」（ヨハネの第一の手紙 3：1）と世界に呼びかけています。

**（質問15） 私たちはどのようにして神の子になれるでしょう？**

ヨハネによる福音書 1：12

しかし、彼を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。

関連聖句

ローマ人への手紙 8：14-17、21

ガラテヤ人への手紙 3：26

エレミア書 3：14、19、22

罪を犯して人の子らは悪魔の奴隷になりましたが、キリストのあがないの犠牲を信じることによって、アダムの子らは神の子となることができます。キリストは人性を取って、人類を引き上げてくださいました。罪に堕ちた人類はキリストにつながって初めて、「神の子」という、その名にふさわしい尊い者となれるのです。

このような愛に比べられるものは何もありません。天の王子になるというのです。なんと尊いみ約束でしょう。これは深い瞑想に値する主題です。神を愛さなかった人類へのたぐいもない神の愛です。この愛を考えると、心はへりくだり、神のみ旨のままに従うようになります。そして、十字架の光に照らされて、神のご性質を学べば学ぶほど、神の恵みとあわれみとゆるしが、神の公平や正義と一つになっていることがわかるとともに、放蕩息子を思いやる母親にもまさる優しい同情と果てしない愛の数知れない証拠を、一層はつきり認めることができます。

美しい自然を創られ、私や生きている全てのものの必要を満たして下さる天の父なる神に感謝します。

（ ）はい （ ） まだ分かりません。

私のためにひとり子を与えるほどの神の愛、忍耐、同情心を知って、私の心は神の愛に満たされています。





## 第2課 キリストの必要

(質問1) 私たちが神を敬い、神に従うならどのような祝福が与えられるでしょう？

詩篇 111 : 10

主を恐れることは知恵のはじめである。これを行う者はみな良き悟りを得る。主の誉は、とこしえに、うせることはない。

関連聖句

箴言 1 : 7 ; 9 : 10 ; 10 : 27

ヨブ記 28 : 28

申命記 4 : 5、6

ヨハネによる福音書 3 : 17

初め、人は優れた能力と調和の取れた精神を与えられていました。彼はまた、人として完全で神と調和し、

思想も純潔で清い目的を持っていました。けれども、神に背いたためにその能力はゆがめられ、愛は利己心になってしまいました。罪のために人の性質はすっかり弱められ、自分の力では悪の勢力と戦うことができなくなりました。こうして悪魔のとりこになってしまったのですから、もし神が特別に救ってくださらなかったならば、いつまでもそのままの状態でしたことでしょう。悪魔は、人を創造なさった神のご計画を妨害し、この世を悲しみと破壊で満たそうと思いました。そして、こうした災いはみな、神が人を創造された結果であると言おうとしたのです。

**(質問2) アダムとエバはなぜ神から身を隠したのでしょうか？**

創世記 3 : 10

彼は答えた、「園の中であなたの歩まれる音を聞き、わたしは裸だったので、恐れて身を隠したのです」。

関連聖句

創世記 2 : 9 25

ヨハネの第一の手紙 3 : 20

イザヤ書 59 : 2

出エジプト記 3 : 6

ヨブ記 23 : 15、16

詩篇 119 : 120

ヨハネの黙示録 3 : 17 ; 16 : 15

人は罪を犯す前には、「知恵と知識の宝」が「内に隠れてい」（コロサイ人への手紙2 : 3）るキリストとの交わりを楽しむことができました。けれども罪を犯したあとは、もはや清いことを楽しめなくなり、神のみ前から隠れようとしてしましました。今日でも、新生を経験しない人の状態は同じで、彼らは神と一致していないために、神と交わることを喜ばないのです。

**(質問3) イエスが再び来られる時、悔い改めていない者たちはどのような反応をするのでしょうか？**

ヨハネの黙示録 6 : 16

そして、山と岩とにむかって言った、「さあ、われわれをおおって、御座にいますかたの御顔と小羊の怒りとから、かくまってくれ。

## 関連聖句

ルカによる福音書 23 : 30

エレミア書 8 : 3

ヨハネの黙示録 20 : 11

ホセア書 10 : 8

罪人は神のみ前では楽しむことができません。彼らは清い人々との交わりを避けようとします。たとえ天国に入ることがゆるされても、少しも喜びとはならないでしょう。天国には無私の愛の精神が満ち満ちていて、限りない神の愛をすべての心が反映していますが、そうした精神も、罪人の心には何の感動も与えないでしょう。そして、その思想も、興味も、動機も、天国に住む罪のない人々の気持ちとは、まったく異なっていることでしょう。彼らは天国の調べと調和しない者となるのです。天国はあたかも苦しいところのように思われ、光であり、喜びの中心である神のみ顔を避けようとするでしょう。悪人が天国に入れないというのは、何も神が独断的にお定めになったのではありません。それは、彼らがみずからそうした交わりに不適当な者となってしまったからです。神の栄光は、罪人にとっては焼き尽くす火です。罪人は、自分たちをあがなうために死なれたキリストのみ顔を避けて、滅ぼされたいと望むようになるのです。

## （質問4）罪人にはなぜ自分の心を清める力がないのでしょうか？

ヨブ記 14 : 4

だれが汚れたもののうちから清いものを 出すことができようか、ひとりもない。

## 関連聖句

ローマ人への手紙 5 : 12

詩篇 51 : 5

マタイによる福音書 15 : 19

私たちは、自分の力で一度沈んだ罪の淵から逃れることはできません。また、私たちの悪い心を変えることもできません。「だれが汚れたもののうちから清いものを 出すことができようか、ひとりもない」（ヨブ記 14 : 4）。「なぜなら、肉の思いは神に敵するからである。すなわち、それは神の律法に従わず、否、従い得ないのである」（ローマ人への手紙 8 : 7）とあります。教育、教養、意志の力、人間の努力など、

いずれも大切な役割を持ってはいますが、心を新たに  
する能力はまったくありません。もちろん、私たちの  
行動にただ外面的な正しさは与えるかもしれませんが、  
心を変えることもできなければ、命の源を清めること  
もできないのです。天からの新しい命がその人の内部  
に働かなければ、人は罪から清められることはできま  
せん。この力というのはキリストです。キリストの恵  
みだけが力のない人の魂を生き返らせ、これを神と聖  
へ導くことができるのです。

**(質問5) 神の国に入る備えのために、私たちの人生  
にどのような変化が必要ですか？**

ヨハネによる福音書 3 : 3

イエスは答えて言われた、「よくよくあなたに言っ  
ておく。だれでも新しく生れなければ、神の国を見るこ  
とはできない」。

関連聖句

ヨハネによる福音書 1 : 12、13

ペテロの第一の手紙 1 : 23

エペソ人への手紙 2 : 5、10

救い主も、「だれでも新しく生まれなければ」と言わ  
れました。すなわち、新しい生涯を送るための新しい  
心、新しい希望、目的、動機などが与えられなければ、  
「神の国を見ることはできない」(ヨハネによる福音  
書 3 : 3) のです。人は生まれながらに持っている  
良いところを伸ばせばよいという考えは、恐ろしい誤  
りです。

**(質問6) 霊的なことを理解できるただ一つの道は何  
でしょう？**

コリント人への第一の手紙 2 : 10

そして、それを神は、御霊によってわたしたちに啓示  
して下さったのである。御霊はすべてのものをきわめ、  
神の深みまでもきわめるのだからである。

関連聖句

コリント人への第一の手紙 2 : 14

ヨハネによる福音書 2 : 27

ローマ人への手紙 8 : 5-7

マタイによる福音書 16 : 17

聖書には次のように書かれています。「生まれながらの人は、神の御霊の賜物を受け入れない。それは彼には愚かなものだからです」（コリント人への第一の手紙 2：14）。「あなたがたは新しく生まれなければならないと、わたしが言ったからとて、不思議に思うには及ばない」（ヨハネによる福音書 3：7）。また、キリストについては、「この言に命があった。そしてこの命は人の光であった」（ヨハネによる福音書 1：4）、「この人による以外に救いはない。私たちが救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである」（使徒行伝 4：12）と記されています。

（質問7）神の義が何であるかを理解した後でも、なぜ私たちは罪と闘い続けなければならないのでしょうか？

ローマ人への手紙 7：14

わたしたちは、律法は霊的なものであると知っている。しかし、わたしは肉につける者であって、罪の下に売られているのである。

関連聖句

イザヤ書 50：1； 59：2

ローマ人への手紙 5：12-14

エレミア書 17：9； 13：23

人はただ、神の愛とつくしみ、父親のような優しさを悟っただけでは十分ではありません。また、神の掟にあらわれた知恵と正義を認め、掟がいつまでも変わらない愛の原則に基づいていることを認めただけでも十分とは言えません。使徒パウロはこのことをすべて理解し、「もし、自分の欲しない事をしているとすれば、わたしは律法が良いものであることを承認していることになる」、「このようなわけで、律法そのものは聖なるものであり、戒めも聖であって、正しく、かつ善なるものである」（ローマ人への手紙 7：16、12）と叫びました。彼は純潔と正義を求めてやみませんでしたでしたが、彼自身にはそこまで達する力がありませんでした。そしてついに、「わたしは、なんというみじめな人間なのだろう。だれが、この死の体から、わたしを救ってくれるだろうか」（ローマ人への手紙 7：24）と叫んだのです。こうした叫びは、どこにおいても、どんな時代にも、罪の重荷に悩む人々の心から等しくほとばしり出るものです。

**（質問8）神と罪人の交わりを元の状態に回復することのできるただ一人の仲保者はどなたでしょう？**

テモテへの手紙一 2 : 5

神は唯一であり、神と人との間の仲保者もただひとりであって、それは人なるキリスト・イエスである。

関連聖句

ヘブル人への手紙 9 : 15

ローマ人への手紙 5 : 1、2

ヨハネによる福音書 17 : 3

コリント人への第一の手紙 8 : 6

神の霊は、罪の重荷から逃れたいと望んでいる魂に、いくつも例をあげてこの真理をわかりやすく説明しています。ヤコブはエサウを欺いて罪を犯し、父の家を逃れたとき、言い知れない罪の重荷で押さえつけられるように感じました。今までの楽しかった生活をあとにして、一人寂しく家を追われていく彼に、何よりもまず気になったのは、犯した罪のために神から切り離され、天からまったく見捨てられてしまったのではないかということでした。こうした悲しさの中、着のみ着のままで土の上に横たわる彼の周囲には、寂しさが漂う丘がある一方で、空には星が明るくまたたいていました。彼が眠ったとき、不思議な光がまぼろしのうちに目の前に輝き出しました。それは、今自分が眠っている原野から、謎めいた大きなはしごが天の門まで通じているかのように見え、その上を天使が昇ったり降りたりしていました。そして輝く栄光のかなたから、慰めと希望に満ちた神のみ声が聞こえてきて、彼の心の求めと望みを満たすのは救い主であることを知らされたのです。彼は、罪人である自分がもう一度神と交わることができる道を示されて、喜びと感謝に満たされました。ヤコブの夢にあらわれた不思議なはしごは、神と人類の間のただ一人の仲保者、イエスをあらわしたものでした。

キリストがナタナエルと語られたとき、「よくよくあなたがたに言うておく。天が開けて、神の御使たちが人の子の上に上り下りするのを、あなたがたは見るであろう」（ヨハネによる福音書 1 : 51）と言われたのは、これと同じことを指していたのです。

**（質問9）私たちが父なる神のもとに行ける唯一の道は何でしょう？**

ヨハネによる福音書 14 : 6

イエスは彼に言われた、「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。

#### 関連聖句

ヨハネによる福音書 10 : 9

ローマ人への手紙 5 : 10

エペソ人への手紙 2 : 18

マタイによる福音書 11 : 27

使徒行伝 4 : 12

人間は神に背いてみずから神から遠ざかり、ついに地は天から切り離されてしまいました。このだれも渡ることができない深い淵をふたたびつないで、地と天を結びつけてくださったのがキリストです。キリストは、みずからの功績によって罪の結果である深い淵に橋をかけ、奉仕の天使が人との交わりを続けることができるようにしてくださいました。キリストは、罪に沈んだ弱い無力な人間を限りない力の源につないでくださるのです。

**（質問 10） 墮落した運命から自分の力で抜け出そうとする努力はなぜ無駄なのでしょう？**

エペソ人への手紙 2 : 8、9

あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である。

決して行いによるのではない。それは、だれも誇ることがないためなのである。

#### 関連聖句

ローマ人への手紙 6 : 23 ; 3 : 20、23

ガラテヤ人への手紙 2 : 16

テモテへの第二の手紙 1 : 9

人間がいかに進歩を夢想し、人類向上のためにいかに努力を惜しまないとしても、墮落した人類にとってただ一つの希望と助けの源に頼らなければ、何の役にも立ちません。「良い贈り物、あらゆる完全な賜物は」（ヤコブの手紙 1 : 17）、神から与えられます。神から離れては、真にすぐれた品性を持つことはできません。そして、神へのただ一つの道はキリストです。

(質問 1 1) 罪人を救うため神はどれほど尽力されているでしょう？

ヘブル人への手紙 9 : 2 6

もしそうだとすれば、世の初めから、たびたび苦難を受けねばならなかったであろう。しかし事実、ご自身をいけにえとしてささげて罪を取り除くために、世の終りに、一度だけ現れたのである。

関連聖句

ヘブル人への手紙 9 : 1 2 ; 7 : 2 7

ペテロの第一の手紙 2 : 2 4 ; 3 : 1 8

ヨハネによる福音書 1 0 : 1 1

神は、死よりも強い愛をもって、地上の子らに思いを寄せておられます。神が独り子をお与えになったということは、全天を注ぎ出して、一つの賜物として与えられたということなのです。救い主の生涯、死、その執り成し、天使の奉仕、聖霊の懇願、これらいっさいのものを通じて働いておられる父なる神と、天の住民たちの絶えまない関心などが、ことごとく人の救いのために力を添えているのです。

私たちのために払われた驚くほどの犠牲を静かに瞑想してみましょう。ひとたび失われたものを呼び返し、父なる神の家に連れ戻すために、天があらゆる努力を惜しまないことを感謝しましょう。これにまさる動機や力ある方法は、ほかではどこにも見いだすことができません。正しい行為に対する大いなる報酬、天上の喜び、天使との交わり、神やみ子との愛と交わり、また永遠にわたって私たちのあらゆる能力が伸ばされ、高められていくことなどは、私たちの創造主、あがない主に心から愛の奉仕をさせずにはおかない動機であり、励ましではないでしょうか。

ところが一方、罪に対する神の審判、必然的な報い、品性の墮落、そして最後の滅亡などがみ言葉に記されているのは、私たちに悪魔の働きを警告するためです。私たちは神のあわれみを見無視するのでしょうか。いったい神は、これ以上何をなすことができになるのでしょうか。驚くばかりの愛をもって私たちを愛された神との正しい関係に立ち帰りましょう。そして、与えられた方法を用いて神のみかたちに変えられ、もう一度天使と交わり、父なる神とみ子と一致し、その交わりに入ることができるようにしたいものです。





## 第3課 自分の状態の認識

(質問1) 罪人の私たちはどうしたら罪から清められるでしょう？

使徒行伝 2 : 38

すると、ペテロが答えた、「悔い改めなさい。そして、あなたがたひとりびとりが罪のゆるしを得るために、イエス・キリストの名によって、バプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊の賜物を受けるであろう。

関連聖句

使徒行伝 3 : 19

箴言 28 : 13

エゼキエル書 36 : 31 ; 20 : 43

コリント人への第二の手紙 7 : 9-11

詩篇 38 : 18

私たちは、ただキリストによってのみ神と一致し、清くなることができます。それでは、どうすればキリストのもとに行くことができるのでしょうか。五旬祭の日に群衆が罪を悟って、「わたしたちはどうしたらよいのでしょうか」と叫んだように、今日、多くの人々が同じ質問をしています。ペトロは、「悔い改めなさい」（使徒行伝 2：38）と言い、また「だから、自分の罪をめぐい去っていただくために、悔い改めて本心に立ち帰りなさい」（使徒行伝 3：19）とも言っています。

悔い改めとは、罪を悲しむことと罪を離れることを含みます。人は、罪の恐ろしさを知るまでは罪を捨てません。心の中でまったく罪から離れなければ、生活に本当の変化は起こらないのです。

悔い改めの意味を本当にわかっていない人がたくさんいます。罪を犯したことを嘆き、外面的には改める人もいますが、それはその悪事のために苦しみに遭わなければならないことを恐れるからです。しかし、これは聖書に教えられている悔い改めではありません。彼らは罪そのものよりも、むしろ罪から来る苦しみを悲しむのです。エサウが家督の権利を永久に失ってしまったと気づいたときの苦しみがそうでした。またバラムは、自分の行く手に剣を抜いた天使が立ちふさがっているのを見て、命が奪われるのではないかと恐れ、自分の罪を認めました。けれども、それは罪に対する純真な悔い改めではなく、目的をまったく変えるものでもなければ、悪を嫌悪するものでもありませんでした。イスカリオテのユダは主を裏切ったあと、「わたしは罪のない人の血を売るようなことをして、罪を犯しました」（マタイによる福音書 27：4）と叫びました。

ユダは、恐ろしい裁きと自分の犯した罪のため、自責の念に耐えかねてこういう告白をしないではいられなかったのですが、それは自分の身に降りかかってくる結果を恐れたためで、傷のない神のみ子を裏切り、イスラエルの聖者を拒んだことを深く心の底から悔いたではありませんでした。ファラオも神の刑罰を受けて苦しんだとき、それ以上の刑罰を逃れるために自分の罪を認めましたが、災いがやむと、また前のように神に背いたのです。これらの人々はみな、罪の結果を嘆いたのであって、罪そのものを悲しんだではありませんでした。

（質問2）キリストは聖霊によって闇を退け、人々の心の秘密を明らかにされましたが、そのキリストを聖書はどう描いて居ますか？

ヨハネによる福音書 1 : 9

すべての人を照すまことの光があって、世にきた。

### 関連聖句

ヨハネによる福音書 12 : 46 ; 8 : 12

コリント人への第二の手紙 4 : 6

ヨハネの第一の手紙 2 : 8

テサロニケ人への第一の手紙 5 : 5

マタイによる福音書 6 : 23

けれども、人の心が神の霊の感化に服従するならば、良心は呼びさまされ、罪人は、神の聖い掟がいかに深く、また聖なるものであるかを悟り、これこそ天地を治めておいでになる神の政治の基礎であると知るようになるのです。「すべての人を照らすまことの光があって、世にきた」（ヨハネによる福音書 1 : 9）とあります。その光に心の奥底を照らされ、また暗闇に隠れた事柄を照らし出されて、心も、魂も、自分は罪のある者だという思いでいっぱいになります。そして、エホバの正しさを実感し、また人の心を探られる神の前に、罪と汚れのまま立つことを恐れます。こうして神の愛、聖潔の美、純潔の喜びを認め、自分も清められて天との交わりに立ち帰りたいと切望するようになるのです。

**（質問3）** ダビデ王と同じように罪を心から反省するなら、私たちはどのような祈りをするでしょう？

詩篇 51 : 1-4

神よ、あなたのいつくしみによって、わたしをあわれみ、あなたの豊かなあわれみによって、わたしのもろもろのとがをぬぐい去ってください。

わたしの不義をことごとく洗い去り、わたしの罪からわたしを清めてください。わたしは自分のとがを知っています。わたしの罪はいつもわたしの前にあります。わたしはあなたにむかい、ただあなたに罪を犯し、あなたの前に悪い事を行いました。それゆえ、あなたが宣告をお与えになるときは正しく、あなたが人をさばかれるときは誤りがありません。

詩篇 51 : 10

神よ、わたしのために清い心をつくり、わたしのうちに新しい、正しい霊を与えてください。

## 関連聖句

詩篇 32 : 5 ; 38 : 18

エゼキエル書 36 : 31 ; 20 : 43

ヨハネの第一の手紙 1 : 7-9

ダビデが罪を犯したあとにささげた祈りは、罪に対する悲しみをよくあらわしています。彼は真面目に、心の底から悔い改めたのです。自分の罪を弁解しようとするのでもなければ、恐ろしい刑罰から逃れようという気持ちから祈ったのでもありません。ダビデは自分の罪の恐ろしさと魂の汚れを認めて、自分の罪を憎んだのです。彼が祈ったのは、罪のゆるしばかりではなく、心が清められることでした。また聖潔の喜びを切望し、もう一度神とやわらぎ、神との交わりに入りたいと願ったのです。このような悔い改めは、自分の力ではとてもできません。これは、天に昇って人類に聖霊の賜物を与えてくださるキリストによるほかないのです。

## (質問4) 真の悔い改めと罪の告白はどのような結果を得るでしょう？

詩篇 32 : 1

そのとががゆるされ、その罪がおおい消される者はさいわいである。

## 関連聖句

イザヤ書 1 : 18

詩篇 128 : 1

申命記 5 : 33 ; 11 : 13-15

マタイによる福音書 5 : 8

ミカ書 7 : 18、19

## (質問5) 罪の告白をする前に、人の心に何が起きるでしょう？

マタイによる福音書 11 : 28、29

すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。

わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。

## 関連聖句

イザヤ書 55 : 1-3 ; 45 : 22-25

ヨハネによる福音書 6 : 37

ヨハネの黙示録 22 : 17

ペテロの第一の手紙 5 : 7

ところが、ここで考え違いをして、せっかくキリストが与えようとしておられる助けを受けない人がたくさんいます。つまり彼らは、まず悔い改めなければキリストに近づけない、悔い改めは罪のゆるしを受ける準備である、と知っているのです。もちろん悔い改めおれた心だけが救い主の必要を感じるのですから、悔い改めが罪のゆるしに先立つのは当然です。では、罪人は悔い改めるまではイエスのもとに行けないのでしょうか。悔い改めが罪人と救い主との間の障害物となってよいものでしょうか。

「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう」

(マタイによる福音書 11 : 28) というキリストの招待は、罪を悔い改めなければ受けることができないと、聖書は教えていません。

### (質問6) 罪を悲しむ心はどこから来るのでしょうか？

使徒行伝 5 : 30、31

わたしたちの先祖の神は、あなたがたが木にかけて殺したイエスをよみがえらせそして、イスラエルを悔い改めさせてこれに罪のゆるしを与えるために、このイエスを導き手とし救主として、ご自身の右に上げられたのである。

### 関連聖句

使徒行伝 3 : 26 ; 11 : 18、

エレミア書 31 : 31-33

エゼキエル書 36 : 25-31

ゼカリア書 12 : 10

ローマ人への手紙 11 : 26、27

テモテへの第二の手紙 2 : 25、26

罪人が真に悔い改めるようになるのは、キリストから出る力によるのです。ペテロはこの点をはっきり述べて、「そして、イスラエルを悔い改めさせてこれに罪のゆるしを与えるために、このイエスを導き手とし救主として、ご自身の右にあげられたのである」(使徒行伝 5 : 31) とイスラエル人に言っています。私たちは、キリストなくしてはゆるしが与えられないように、キリストの霊が良心を呼びさまさなければ、悔い改めることができないのです。

キリストはすべての正しい動機の源であって、彼だけが人の心のうちに罪を憎む心を植えつけることができになります。真理や純潔を求めること、自分の罪深さを認めることなどはみな、キリストの霊が私たちの心に働いている証拠です。

(質問7) 主は悔い改めと救いの賜物によって、誰をご自分の元に引き寄せられるでしょう？

ヨハネの福音書 12 : 32

そして、わたしがこの地から上げられる時には、すべての人をわたしのところに引きよせるであろう」。

#### 関連聖句

イザヤ書 49 : 6

ローマ人への手紙 5 : 17-19

テモテへの第一の手紙 2 : 6

ヘブル人への手紙 2 : 9

ヨハネの第一の手紙 2 : 2

ヨハネの黙示録 5 : 9

ルカによる福音書 15

キリストは世の罪のために死なれた救い主として、罪人の前に示されなければなりません。カルバリーの十字架にかけられた神の小羊をながめるときに初めて、説明することのできないあがないの神秘が私たちの心にも理解され、神の恵み深いことが私たちを悔い改めへと導くのです。キリストは罪人のために死なれ、計り知れない大きな愛をあらわしてくださいました。罪人がこの愛を知るとき、深い感銘を受けて心はやわらげられ、悔い改めへと導かれるのです。

もちろん人は、自分がキリストに導かれていることを意識する前に、罪深い行為を恥じて悪い習慣をやめることがあります。けれども、人が正しいことをしたいと切望して改めようと努力するときはいつでも、キリストの力が働いて彼らを引きつけているのです。自分たちが意識していなくても、その力が心のうちに働いて良心を呼びさまし、行為が改められるのです。やがてキリストに導かれて十字架を見せられ、自分たちの罪が彼を刺し通したことを知るとき、掟が何であるかが良心にはっきりと焼きつけられ、悪に満ちた生活や心の底深くに根ざした罪が示されます。彼らは、キリストの義が何であるかをいくらかでも理解するようになり、「ああ、なんと罪は恐ろしいものだろう。罪のとりこになった者を救うためには、これほど大きな犠

性が払われなければならなかったのか。私たちが滅びず、永遠の命を受けるためには、このような大きな愛、恐ろしい苦しみ、はずかしめが必要だったのか」と叫ばずにはいられなくなります。

罪人はこの愛を拒み、キリストに引かれることを拒否することもできますが、逆らいさえしなければ自然にイエスに引き寄せられるのです。そして、救いの計画を知るようになると、自分の罪が神の愛するみ子をこのように苦しめたことを悔いて、十字架のもとにひざまづくのです。

**（質問8）この世が提供するものに満たされず、渴きを覚える人に主はどのような素晴らしい招きをさせているでしょう？**

ヨハネの黙示録 22 : 17

御霊も花嫁も共に言った、「きたりませ」。また、聞く者も「きたりませ」と言いなさい。かわいている者はここに来るがよい。いのちの水がほしい者は、価なしにそれを受けるがよい。

関連聖句

ヨハネによる福音書 7 : 37、38 ; 4 : 10  
イザヤ書 55 : 1-3 ; 12 : 3

自然界にも働いているこの同じ神のみ心は、人の心に呼びかけ、人が持ち合わせていない何かに対する表現しがたい渴望を起こさせます。この世のものでは、どうしても彼らの渴望を満たすことはできません。聖霊は、心に真の平安を与えることができる唯一のものであるキリストの恵みと、清めの喜びを求めようように訴えておられます。私たちの救い主は絶えず、見ると見えないにかかわらず、さまざまな力を用いて、満足のない罪の快樂を離れ、キリストによって与えられる限りない祝福を求めよう、私たちの心に働いておいでになります。この世の渴ききった泉のほとりで、飲もうとしても飲むことのできない人々に、「かわいている者はここに来るがよい。命の水がほしい者は、価なしにそれを受けるがよい」（ヨハネの黙示録 22 : 17）と、み言葉は呼びかけています。

あなたがたのうちで、この世の与えるものよりもさらに良いものを心の中で求めている人は、その心の願いが魂へ呼びかける神のみ声であることに気づくでしょう。どうかそのときは、神が悔い改めを与えてくださるよう、そして、限りない愛にあふれたまったく純

潔そのものの姿のキリストを示してくださるように、祈っていただきたいのです。

**(質問9) キリストのご品性を見つめた罪人は何に気づくでしょう？**

イザヤ書 64 : 6

われわれはみな汚れた人のようになり、われわれの正しい行いは、ことごとく汚れた衣のようである。われわれはみな木の葉のように枯れ、われわれの不義は風のようにわれわれを吹き去る。

関連聖句

イザヤ書 53 : 6

ヨブ記 14 : 4 ; 15 : 14-16 ;  
25 : 4

詩篇 51 : 5

ローマ人への手紙 7 : 18、24

エペソ人への手紙 2 : 1、2

エゼキエル書 36 : 31

救い主は、神の掟の原則、すなわち神と人を愛するということをその生涯において完全に実行されました。また、慈しみと無我の愛が救い主の命でした。ですから、私たちが救い主をながめ、救い主の光に照らされるとき、初めて自分の心の罪深さが見えてくるのです。私たちもニコデモのように、自分の生活は正しくて道徳的にも間違っていないとうぬぼれ、ふつうの罪人のように神の前にへりくだる必要がないと考えているかもしれませんが、ひとたびキリストの光が心の中に差し込むとき、自分たちがどんなに汚れているかがわかります。また、何をすることも自分の利益ばかり考え、神に逆らい、日常のあらゆる行動が汚れていたことを悟ります。そして、私たちの義は汚れた衣のようになって、キリストの血だけが罪の汚れから清め、私たちの心を彼のみ姿にかたどって新たにすることを知るのです。神の栄光のただ一筋でも、あるいはキリストの純潔のひらめきでも人の心にさしこむとき、心の汚れの一つひとつが痛々しいまでにはっきりと見せられ、人の性質の欠点、欠陥があますところなく示されます。それは、汚れた欲望、不誠実、汚れたくちびるなどをはっきりと見せるのです。罪人の目には、神の律法を無視した不誠実な行いが、はっきりと見せられ、人の心を探る聖霊に打たれて苦しめられます。そして、キリス

トの純潔無垢のご人格をながめて、自分を忌み嫌うようになります。

(質問 10) 自分の汚れ、品性の不完全さを認めたダニエルはどうなりましたか？

ダニエル書 10 : 8

それでわたしひとり残って、この大なる幻を見たので、力が抜け去り、わが顔の輝きは恐ろしく変って、全く力がなくなった。

関連聖句

ダニエル書 8 : 17、18

ヨハネの黙示録 1 : 17

マルコによる福音書 9 : 6

ルカによる福音書 1 : 12

かつて預言者ダニエルは、自分に天使がつかわされた時、その天使の栄光をながめて、自らの弱さと不完全さを感じ、気を失ってしまったのであります。その驚くべき光景にうたれ、「力が抜け去り、わが顔の輝きは恐ろしく変って、全く力がなくなった」(ダニエル書 10 : 8)と申しました。このように、ひとたび、感動を受けた心は、我欲を憎み、利己心を忌みきらい、キリストの義によって神の律法、またイエスの品性に調和した心の純潔を求めるのであります。

(質問 11) キリストの純潔さ、神の聖なる律法の原則を理解したパウロは何と言っていますか？ あなたなら何と言いますか？

ローマ人への手紙 7 : 9

わたしはかつては、律法なしに生きていたが、戒めが来るに及んで、罪は生き返り

関連聖句

ローマ人への手紙 7 : 7 ; 3 : 20 ;  
8 : 3-7

ヨハネの第一の手紙 3 : 4

ルカによる福音書 10 : 25—28

ガラテヤ人への手紙 3 : 10 ; 2 : 19-21

パウロは、「律法の義については落ち度のない者である」(ピリピ人への手紙 3 : 6)と言いましたが、ひとたび掟の霊的精神が理解されたとき、自分は罪人

である、と悟ったのです。人が掟を外的生活に当てはめ、掟を字義的に解釈すれば、彼は罪を犯していませんでした。しかし、その聖い条文の深い精神を見つめ、神がご覧になるようにみずからを見つめたとき、へりくだってみ前に伏し、自分の罪を告白したのです。彼は、「わたしはかつては、律法なしに生きていたが、戒めが来るに及んで、罪は生き返り、わたしは死んだ」（ローマ人への 7：9、10）と語りました。ひとたび掟の霊的精神がわかったとき、罪の醜さがありありと見え、彼の自尊心は消え去ったのです。

私の元に来て学び、魂の安らぎを得なさいというイエスからの招きが与えられていることに感謝しています。

( ) はい ( ) まだ分かりません。

イエスに引き寄せられて聖書のみ言葉を学び、主との時間を過ごせば過ごすほど主の義が明らかになり、自分の人生と品性が汚れていることに気づくようになりました。

( ) はい。 ( ) まだ分かりません。

イエスは主に似た者になりたいという思いを私の心に植え付けようとされていますが、私自身の力では主に似た者なれないことを知っています。

( ) はい。 ( ) まだ分かりません。

罪深く力もなく、主に頼り切らなければならない私が、あるがままの姿で主の前に立ってもよいということに感謝しています。その私の人生をイエスは変えてくださり、それによって神の栄光が顕わされるという約束を信じています。

( ) はい。 ( ) まだ分かりません。

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---



## 第4課 悔い改め

(質問1) 神が嫌われる罪は何でしょう？

箴言 8 : 13

主を恐れるとは悪を憎むことである。 わたしは高ぶりと、おごりと、悪しき道と、 偽りの言葉とを憎む。

関連聖句

箴言 16 : 5、18、19 ; 6 : 16、17 ; 25 : 27 ;

29 : 23 ; 11 : 2

詩篇 101 : 5

サムエル記上 2 : 3

エレミア書 9 : 23、24  
オバデア書 1 : 4  
マタイによる福音書 23 : 12  
マルコによる福音書 9 : 35

神は、どの罪もみな同じであるとは思われません。人間と同じように、やはり大小、軽重の区別をされます。けれども、人の目にどんなに小さく見える悪事でも、神の目に小さい罪というものはありません。人の判断はかたよって不完全なものですが、神はすべてをそのあるがままにお量りになります。例えば、大酒飲みは軽蔑されて、とても天国には行けないと言われますが、その反面、高慢、自己愛、貪欲などは責められず、見過ごしにされがちです。しかし神は、こうした罪を特に嫌われます。というのは、これは神のあわれみ深い品性に反し、墮落しない宇宙に満ちている無私の愛の精神に反するからです。何か大きな罪を犯した者は、みずから恥じ入り、卑しさを感じ、キリストの恵みの必要を感じますが、高慢な者は何の必要も感じないため、キリストに対して心を閉じてしまい、キリストが来て与えようとなさる無限の祝福を受けることができないのです。

**（質問2）自らの罪を認めた徴税人は胸を打ちながら赦しを祈り求めましたが、あなたならどのように祈りますか？**

ルカによる福音書 18 : 13  
ところが、徴税人は遠く離れて立ち、目を天にむけようともしないで、胸を打ちながら言った、『神様、罪人のわたしをおゆるしてください』と。

#### 関連聖句

ルカによる福音書 5 : 8 ;  
15 : 18-21  
詩篇 51 : 1-12 ; 40 :  
12、13  
ヨハネの第一の手紙 1 : 8-  
10 ; 2 : 1、2

あわれな徴税人は、みずからをととても悪い人間であると認めました。また、ほかの人々も同じように、彼をそう見なしていました。しかし、彼は自分の必要を感じ、罪の重荷と恥をいただいたまま神のみ前に出て、あわれみを請うたのです。彼の心は聖霊の恵みある働き

によって、罪の力から解放されるために開かれています。一方、高ぶって自己を義としていたファリサイ人の祈りは、聖霊の働きに対して心を閉じていたことがわかります。彼は、神から遠く離れていたもので、神の完全な神聖さと比べてみて、自分がどれほど汚れているかを感じませんでした。そして、彼は必要を感じなかったもので、何も受けることができませんでした。

**（質問3）罪を認めても、なぜ私たちは自分の力で清い人生の実を結ぶことができないのでしょうか？**

ヨハネによる福音書 15 : 5

わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人とつながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。

関連聖句

ヨハネによる福音書 15 : 1-8

ペテロの第二の手紙 1 : 2-4

ローマ人への手紙 6 : 22

ヤコブの手紙 1 : 17

ピリピ人への手紙 1 : 11 ; 1 : 6 ;

2 : 13

もし自分の罪深さに気づいたならば、みずから良くしようなどと思って待つてはなりません。自分はキリストのもとに行くにはふさわしくない、と思っている人がなんと多いことでしょうか。自分の力で良くなれるとも思っているのでしょうか。「エチオピアびとは、その皮膚を変えることができようか。ひょうはその斑点を変えることができようか。もしそれができるならば、悪に慣れたあなたがたも、善を行うことができる」（エレミヤ書 13 : 23）とあります。私たちを助けてくださるのは神だけです。もっと強い確信、もっと良い機会、あるいは、もっと清められた性質を持つまで、などと待つてはなりません。私たちは自分の力では何もできないのですから、ありのままキリストのもとに行くほかないのです。

**（質問4）せっかく悔い改めて神の義を得ても、そのあとに罪を犯したらどうなるでしょう？**

エゼキエル書 18 : 24

しかし義人がもしその義を離れて悪を行い、悪人のなすもろもろの憎むべき事を行うならば、生きるであろうか。彼が行ったもろもろの正しい事は覚えられない。彼はその犯したとがと、その犯した罪とのために死ぬ。

#### 関連聖句

エゼキエル書 3 : 20 ;

33 : 12、13、18

ヘブル人への手紙 10 : 38、39

ペテロの第二の手紙 2 : 18-22

しかし、神は愛と恵みに富まれるからといって、その恵みを拒む者まで救ってくださると思ひ、みずからを欺いてはなりません。罪がいかに恐るべきものであるかは、十字架の光に照らされて初めてわかります。神はあわれみ深いお方なので罪人をお捨てにならないと説くとき、カルバリーの十字架を見るべきです。というのは、人の救われる方法、つまり人類が汚れた罪の力から逃れ、聖い者との交わりに立ち帰り、ふたたび霊的生活にあずかる者となるには、キリストご自身が不従順の罪を負い、罪人のかわりにお苦しみになるよりほかに方法がなかったのです。神のみ子の愛と苦難と死はみな、罪がいかに恐ろしいものであるかをあかしし、キリストに心を従わせることによってしか、その罪の力から逃れる方法も、向上した生活への希望もないことを明らかにしています。

(質問5) 私たちはどなたの模範に従うべきでしょうか？

ペテロの第一の手紙 2 : 21

あなたがたは、実に、そうするようにと召されたのである。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、御足の跡を踏み従うようにと、模範を残されたのである。

#### 関連聖句

詩篇 85 : 13

ヨハネによる福音書 13 : 15

コリント人への第一の手紙 11 : 1

エペソ人への手紙 5 : 2

ピリピ人への手紙 2 : 5

ヨハネの第一の手紙 2 : 6

ルカによる福音書 9 : 23

悔い改めない人は、クリスチャンと呼ばれる人々のことを口実にして、「私もあの人たちと同じぐらい善良だと思ふ。あの人たちが自分よりも真面目で、慎重に行動しているとは思えない。私と同じように快樂を愛しているし、わがままもする」と言います。このように彼らは他人の欠点を拾い上げて、自分の義務を行わなくてもよい、と言いわけをするのです。しかし、他人の罪や欠点は言いわけにはなりません。なぜなら、主は私たちに間違いの多い人間を模範としてお与えになったのではないからです。私たちの模範として与えられたのは、傷のない神のみ子です。クリスチャンの間違いをあれこれ言う人こそ、より良い生活、より良い模範を示さなければなりません。クリスチャンはこうでなければならない、とそれほど高尚な意見を持っているとするならば、彼らの罪はかえってそれだけ大きくはないでしょうか。なぜなら、彼らは正しいと知りながら実行しようとしなないからです。

**（質問6）聖霊の声を無視して罪を捨てるのを遅らせることは、どのような危険な結果を招くでしょう？**

箴言 11 : 3、5

正しい者の誠実はその人を導き、不信実な者のよこしまはその人を滅ぼす。

心をつくして主に信頼せよ、自分の知識にたよってはならない。

関連聖句

箴言 6 : 27、28 ;

16 : 25 ; 1 : 18

ガラテヤ人への手紙 6 : 7、8

延ばさないように気をつけましょう。罪を捨てることを延ばし、イエスによって心を清めていただくことを遅らせてはなりません。この点で幾千という人が誤り、永久に滅びてしまいました。私はここで、人生の短さやはかなさを言おうとじているのではありません。聖霊のささやきに従うことを遅らせ、罪の生活を続けていくことには、十分に理解されていない危険、恐ろしい危険が伴うと言っているのです。たとえどんなに小さくても、罪にふけることは、永遠に失われる危険を冒しているのです。私たちが打ち勝たないものは、やがて私たちを打ち破り、ついには私たちを滅びに至らせます。

アダムとエバは、禁断の木の実を食べるといのはささいなことだから、神が宣告されたような恐ろしい結果にはなりえないと確信しました。しかし、このささいなことが神の変わることのない聖い掟を犯し、人を神から引き離し、この世に死と計り知れない災いをもたらしたのです。それ以来、いつの時代にも、嘆き、悲しみの声が地からあがり、すべての被造物が人間の不従順の結果、うめき苦しんできたのです。天そのものさえ、神に対する人間の反逆の結果を感じました。カルバリーの十字架は、神の掟を犯した罪をあがなうために払わなければならなかった驚くべき犠牲の記念碑として立っています。ですから、罪はささいなものだと考えてはならないのです。

**(質問7) 気づいている罪を隠し続けたらどうなるでしょう？**

箴言 5 : 22

悪しき者は自分のとがに捕えられ、自分の罪のなわにつながれる。

関連聖句

詩篇 7 : 15、16 ; 9 : 15

エレミア書 2 : 19

伝道の書 10 : 8

箴言 1 : 31

どんな罪の行為でも、また、キリストの恵みをおろそかにし、拒んだりするどんな行為でも、その一つひとつが自分に返ってきます。そして、心はかたくなになり、意志の力は衰え、理解力は麻痺し、ますます聖霊の優しいささやきに従わなくなるばかりか、従うことができなくなっていきます。

けれども世の中には、悪い行為は変えようと思えばいつでもできる、また、あわれみの招待を軽んじながら、聖霊の声に耳を傾けることはいつでもできると思って、良心の呵責を静めている人々がたくさんいます。彼らは、恵みの霊をあなどり、悪魔に加担していても、いよいよ動くに動けない窮地に陥ったときには方向を変えることができると思っています。しかし、それはそうたやすくできるものではありません。一生涯の経験や教育は、すっかり人の性格を形づくってしまっているので、そのときになって、イエスのみかたちを受けたいと望むことは、ほとんどないのです。

たとえ、それがどんなに小さい悪癖、罪深い欲望であっても、いつまでも心の中でもてあそんでいけば、終わりには福音のすべての力を無にしまいます。魂は罪にふけるごとに、神を嫌う心が強くなります。頑固に神を信じようとせず、真理に対してまったく冷淡な人は、ただ自分のまいた種を収穫しているにすぎません。昔の賢人は、罪人は「自分の罪のわなにつながる」（箴言 5：22）と言いましたが、悪をもてあそぶことが恐ろしいということ、これほど適切に忠告しているものはありません。

**（質問8）** キリストの救いの招きに、いつ応じたらよいのでしょうか？

コリント人への第二の手紙 6：2

神はこう言われる、「わたしは、恵みの時にあなたの願いを聞き入れ、救の日にあなたを助けた」。見よ、今は恵みの時、見よ、今は救の日である。

関連聖句

ヘブル人への手紙 3：7-15； 4：7

イザヤ書 55：6； 48：9

創世記 6：3

キリストは、いつでも私たちが罪から解放しようとしておられます。けれども、私たちの意志を強いることは決してなさいません。もし私たちがどこまでも罪を犯し続け、その結果、意志がまったく悪に傾き、罪から解放されることを望まず、キリストの恵みを受け入れようとしないならば、いったいキリストは、これ以上何をなすことがおできになるのでしょうか。私たちは彼の愛をどうしても受けようとしないために、みずから滅びに陥れるのです。「今は、恵みの時、見よ、今は救いの日である」（コリント人への第二の手紙 6：2）。「今日、あなたがたが神のみ声を聞いたなら、……心をかたくなにしてはいけない」（ヘブル人への手紙 3：7、8）。

**（質問9）** 偽りの心の底に隠されている動機、意図そして目的から解放される唯一の祈りは何でしょうか？

詩篇 139：23、24

神よ、どうか、わたしを探って、わが心を知り、わたしを試みて、わがもろもろの思いを知ってください。

わたしに悪しき道のあるかないかを見て、わたしを  
とこしえの道に導いてください。

### 関連聖句

詩篇 51 : 10 ; 26 : 2

申命記 8 : 2

ヨブ記 31 : 6

箴言 17 : 3

ゼカリア書 13 : 9

ペテロの第一の手紙 1 : 7

「人は外の顔かたちを見、主は心を見る」（サムエル  
記上 16 : 7）。人の心には、喜びと悲しみがある  
かと思えば、横道にそれようとするわがままな心があ  
って、さまざまな不純と虚偽が宿っています。神は、  
その動機、意図、目的をご存じです。汚れたそのま  
まの心で神のみもとに行きましょう。詩人が歌ったよう  
に、すべてをご覧になる神にすっかり心を開け放して、  
「神よ、どうかわたしを探って、わが心を知り、わた  
しを試みて、わがもろもろの思いを、知ってください」  
（詩編 139 : 23、24）と叫びましょう。

宗教を頭だけで、敬虔を形だけで受け入れて、心の清  
められていない人がたくさんいます。私たちは、「神  
よ、わたしのために清い心をつくり、わたしのうちに  
新しい、正しい霊を与えてください」（詩編 51 :  
10）と祈りましょう。自分の魂の状態を吟味し、身  
に危険が迫っていると思って、根気強く、熱心でなけ  
ればなりません。これは、神とあなたの魂との間で解  
決されるべき問題、永遠に決定すべき問題です。ただ、  
そうあればよいと望んでいるだけで、それ以上何もし  
ないならば、滅びるしかありません。

（質問10）悔い改めに導く神のみ言葉を祈りながら学  
ぶことによって得られる恵みを五つあげてみましょう。

テモテへの第二の手紙 3 : 15-17

また幼い時から、聖書に親しみ、それが、キリスト・  
イエスに対する信仰によって救に至る知恵を、あなた  
に与える書物であることを知っている。

聖書は、すべて神の靈感を受けて書かれたものであ  
って、人を教え、戒め、正しくし、義に導くのに有益で  
ある。

それによって、神の人が、あらゆる良いわざに対して  
十分な準備ができて、完全にととのえられた者になる  
のである。

## 関連聖句

ヨハネによる福音書 17 : 17  
詩篇 119 : 9、24、41、  
105、130、160、165  
ローマ人への手紙 15 : 4  
コリント人への第一の手紙 10 : 11  
箴言 4 : 20-22

祈りとともに神のみ言葉を研究してください。み言葉は、神の掟とキリストの生涯を通して、聖さの大原則を教えています。この聖さがなくては、「だれも主を見ることはできない」（ヘブル人への手紙 12 : 14）。それはまた、罪と救いの道を明らかに示します。私たちは、神が魂に語るみ声として、これに耳を傾けなければなりません。

**（質問 11）悔い改めの賜物を下さる神はキリストを通して私たちに何をなさろうとしておられますか？**

コリント人への第二の手紙 5 : 19  
すなわち、神はキリストにおいて世をご自分に和解させ、その罪過の責任をこれに負わせることをしないで、わたしたちに和解の福音をゆだねられたのである。

## 関連聖句

ヨハネによる福音書 17 : 23  
テモテへの第一の手紙 3 : 16  
ローマ人への手紙 5 : 10、11 ;  
3 : 24-26  
ヨハネの第一の手紙 2 : 1、2 ; 4 : 10  
イザヤ書 43 : 25  
詩篇 103 : 10-12  
エペソ人への手紙 2 : 14-16

罪の恐ろしさを知り、自分自身をありのままに見つめるとき、絶望してはなりません。キリストは罪人を救うためにおいでになりました。私たちは自分で神と和解するものではありません。ああ、なんと驚くべき愛でしょう—神がキリストによって、「世をご自分に和解させ」（コリント人への第二の手紙 5 : 19）られたのです。神は優しい愛をもって、道に迷った神の子らの心を求めておられます。世の中のどんな親であっても、神が救おうとしている人々を忍耐されるほどに、子どもたちの失敗やあやまちを忍耐することは、とう

ていできません。だれもこれほどの優しさをもって、罪を犯した者に訴えることはできません。また、迷っている者をこれほど優しく呼び返そうとした人はいません。神のみ約束も、警告もみな、言葉ではあらずことのできない愛の息吹にほかならないのです。

**(質問 1 2) イエスは誰を救うために来られましたか。**

テモテへの第一の手紙 1 : 1 5

「キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世にきて下さった」という言葉は、確実に、そのまま受け入れるに足るものである。わたしは、その罪人のかしらなのである。

関連聖句

ローマ人への手紙 5 : 8-1 1

マタイによる福音書 9 : 1 3 ; 1 8 : 1 1

ルカによる福音書 1 9 : 1 0

ヨハネの第一の手紙 3 : 5 ; 4 : 1 0

悪魔が来て、あなたは恐ろしい罪人であると言うならば、あがない主を仰ぎ、その功績を語ってください。キリストの光をながめることは、大きな助けになります。自分の罪を認めるとともに、「キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世にきて下さった」(テモテへの第一の手紙 1 : 1 5) と敵に告げなければなりません。そして、その計り知れない愛によって救われることを語りなさい。

**(質問 1 3) どのような人が主を最も愛するようになるでしょう？**

ルカによる福音書 7 : 4 3、4 7

シモンが答えて言った、「多くゆるしてもらったほうだと思います」。イエスが言われた、「あなたの判断は正しい」。

それであなたに言うが、この女は多く愛したから、その多くの罪はゆるされているのである。少しだけゆるされた者は、少しだけしか愛さない」。

関連聖句

ローマ人への手紙 5 : 2 0

ヨハネによる福音書 2 1 : 1 5-1 7

ヨハネの第一の手紙 3 : 1 8

イザヤ書 5 5 : 7

マタイによる福音書 18 : 3 ; 10 : 8  
箴言 10 : 12

イエスはシモンに、借財している二人について質問なさいました。一人の負債は少額でしたが、もう一人は多額の負債を負っていました。しかし、主人は二人ともゆるしたのです。さて、キリストはシモンに、どちらが主人を深く愛したであろうか、とお尋ねになりました。シモンは、「多くゆるしてもらったほうだと思います」（ルカによる福音書 7 : 43）と答えました。私たちは大いなる罪人でしたが、私たちがゆるされるためにキリストは死んでくださり、彼の犠牲の功績は、私たちのかわりに神の前にささげられるのに十分でした。最も多くゆるされた者がキリストをいちばん愛するようになり、そのみ座の最も近くに立って、その大きな愛と限りない犠牲をほめたたえるのです。神の愛が本当によくわかったときに、罪の深さがわかります。私たちが救うために下げられている鎖の長さを知り、キリストが身代わりになって払われた限りない犠牲をいくらかでも悟るとき、心は感謝にあふれ、悔いせずおれずにはいられないのです。

救い主に近づけば近づくほど神の義が明らかになり、私の人生と私の品性は不純で汚れていることに気づかされます。それなのでイエスのようになりたいと心から願っています。

( ) はい。 ( ) まだ分かりません。

後悔とは罪の結果の罰への恐れではなく、罪そのものに対する悲しみだということが分かりました。

( ) はい。 ( ) まだ分かりません。

イエスが私の心に悔い改めの賜物を植え付けて下さったことに感謝します。

私は与えられた賜物を実践に移すことにしました。

( ) はい。 ( ) まだ分かりません。

---

---

---

---

---



## 第5課 告白

(質問1) 罪人である私たちが神の憐れみを受けるための条件はなんでしょう？

箴言 28 : 13

その罪を隠す者は栄えることがない、言い表わしてこれを離れる者は、あわれみをうける。

関連聖句

歴代誌下 7 : 14

ルカによる福音書 15 : 18-24

エレミヤ書 3 : 12、13

神のあわれみを受ける条件は簡単で、正しく、合理的です。神は、私たちの罪がゆるされるために、何か面倒なことをするようには要求なさいません。天の神によく思われたり、罪の償いをするために、遠い巡礼の旅に出る必要も、痛々しい苦行をする必要もありません。ただ罪を言いあらわしてこれを離れる者は、あわれみを受けるのです。

## （質問2）私たちの過ちを誰に告白すべきでしょう？

ヤコブの手紙 5：16

だから、互に罪を告白し合い、また、いやされるよう  
にお互のために祈りなさい。義人の祈は、大いに力があり、効果のあるものである。

詩篇 32：5

わたしは自分の罪をあなたに知らせ、自分の不義を隠さなかった。わたしは言った、「わたしのとがを主に告白しよう」と。その時あなたはわたしの犯した罪をゆるされた。〔セラ

## 関連聖句

詩篇 38：18； 41：4

マタイによる福音書 5：24

箴言 28：13

ヨハネの第一の手紙 1：8-10

ローマ人への手紙 10：10

ヤコブの手紙 4：10

使徒ヤコブは、「また、いやされるようにお互いのために祈りなさい」（ヤコブの手紙 5：16）と書いています。罪の告白は神に、つまり罪を赦すことのできる唯一のお方にしなければなりません。そして、あやまちを互いに言いあらわすのです。もし友人や隣人をつまずかせたならば、自分が悪かったと認めて謝るのです。そして、それをこころよくゆるすのは、その人の義務です。そうしたあとで、神のゆるしを求めるのです。というのは、あなたが傷つけた兄弟は神のものであるから、彼を傷つけたことは、彼の創造主、またあがない主に罪を犯したことになるからです。そしてこのことは、真の仲保者であり、大祭司であるイエスの前に持ち出されます。主は、「わたしたちの弱さを思いやることのできないようなかたではない。罪は犯されなかったが、すべてのことについて、わたしたちと同じように試練にあわれた」（ヘブル人への手紙

4 : 15) のですから、どんな罪の汚点をも清めてくださいます。

**(質問3) 真の平和と神との親密な関係を経験するには、私たちの心と精神がどのような状態でなければなりませんか？**

詩篇 34 : 18

主は心の砕けた者に近く、 たましいの悔いくずおれた者を救われる。

関連聖句

詩篇 51 : 17 ; 69 : 32 ;  
10 : 17 ; 147 : 3  
イザヤ書 61 : 1 ; 66 : 2 ;  
57 : 15  
エゼキエル書 36 : 26、31

自分の罪を認めて神の前にへりくだらない者は、神に受け入れられる最初の条件さえ満たしていません。ふたたび悔いることのない悔い改めをし、本当にへりくだった砕けた心で罪を告白し、自分の罪悪を心から憎んでいるのでなければ、真に罪のゆるしを求めたとは言えません。また、罪のゆるしを求めたことがなければ、神からの平和を見いだすことはできません。私たちが過去の罪のゆるしを味わっていないただ一つの理由は、心を低くして真理のみ言葉の条件に従っていないからで(す)。

**(質問4) 私たちはどこまで具体的に罪を告白すべきでしょう？**

レビ記 5 : 5

もしこれらの一つについて、とがを得たときは、その罪を犯したことを告白し、

関連聖句

レビ記 26 : 40 ; 6 : 4-7  
民数記 5 : 7  
ヨシュア記 7 : 19  
コリント人への第一の手紙 11 : 28

罪の告白は、それが公のものであれ、個人的なものであれ、真心から十分に言いあらわされなければなりません。

せん。罪人に無理強いして言わせるものではありません。また告白は、軽率に、不注意になされてはなりません。罪がどんなに忌まわしいものであるかを認めていない人に強いるものでもありません。心の奥底からわき出てきた告白は、限りないあわれみを持つ神へ通じます。詩編記者は、「主は心の碎けて者に近く、たましいの悔いせずおれた者を救われる」（詩編 34：18）と言っています。

真の告白は、常にはっきりと自分の犯した特定の罪を言いあらわします。神にだけ告白すべきものもあるでしょう。だれか害をこうむった人々に告白しなければならぬものもあるでしょう。あるいは、公のものであれば、公に告白しなければならぬこともあるでしょう。いずれにせよ、告白はすべてはっきりとその要点に触れていて、犯した罪そのものを認めなければなりません。

### （質問5）イスラエルの子孫たちが神に告白した特定の罪は何でしたか？

サムエル記上 12：19

民はみなサムエルに言った、「しもべらのために、あなたの神、主に祈って、われわれの死なないようにしてください。われわれは、もろもろの罪を犯した上に、また王を求めて、悪を加えました」。

### 関連聖句

詩篇 51：1-4

申命記 32：49-52

イスラエルの人々は、サムエルの時代に神から迷い出て、罪の結果に苦しんでいました。なぜなら、彼らが神への信仰と、国を治める神の知恵と能力を見失い、さらには神がご自身の働きをあくまで守られることを信じなくなったからです。彼らは宇宙の大いなる統治者を離れ、周囲の国々と同じような統治者を望んだのです。しかし平和を得るためには、次のようなはっきりした告白をしなければなりません。「われわれは、もろもろの罪を犯した上に、また王を求めて、悪を加えました」（サムエル記上 12：19）と。つまり、悪かったと自覚したその罪が告白されなければならなかったのです。彼らの忘恩の精神が彼らの魂を押さえつけ、神から切り離していたのです。

(質問6) 罪の告白が神に受け入れられるために、私たちが本当に罪の赦しを望んでいることをどのようにして示すことができるでしょう？

イザヤ書 1 : 16

あなたがたは身を洗って、清くなり、わたしの目の前からあなたがたの悪い行いを除き、悪を行うことをやめ、

関連聖句

ヤコブの手紙 4 : 8

詩篇 119 : 11

テトスへの手紙 2 : 11-14

ゼカリヤ書 1 : 3

使徒行伝 22 : 16

イザヤ書 55 : 6、7

マタイによる福音書 3 : 8

アモス書 5 : 4、15

ローマ人への手紙 12 : 9

真面目な悔い改めと改革が伴わない告白は、神に受け入れていただけません。はっきりとした変化が生活にあらわれ、神の嫌われるすべてのものを捨てなければなりません。本当に罪を嘆いた結果は、そうなるのです。私たちがすべきことは、はっきり示されています。

「あなたがたは身を洗って、清くなり、わたしの目の前からあなたがたの悪い行いを除き、悪を行うことをやめ、善を行うことをならい、公平を求め、しえたげる者を戒め、みなしごを正しく守り、寡婦の訴えを弁護せよ」(イザヤ書 1 : 16、17)。「すなわち、その悪人が質物を返し、奪ったものをもどし、命の定めにより歩み、悪を行なわないならば、彼は必ず生きる。決して死なない」(エゼキエル書 33 : 15)と。パウロは悔い改めについて、「見よ、神のみこころに添うその悲しみが、どんなにか熱情をあなたがたに起こさせたことか。また、弁明、義憤、恐れ、愛慕、熱意、それから処罰に至らせたことか。あなたがたはあの問題については、すべての点において潔白であることを証明したのである」(コリント人への第二の手紙 7 : 11)と言いました。

(質問7) 感情を害したり、欺いたり、傷つけたりした人たちに私たちはどのように償うべきでしょう？

エゼキエル書 33 : 15

すなわちその悪人が質物を返し、奪った物をもどし、命の定めに進み、悪を行わないならば、彼は必ず生きる。決して死なない。

#### 関連聖句

ルカによる福音書 19 : 8

レビ記 6 : 2-5

エゼキエル書 18 : 7、12、16

民数記 5 : 6-8

サムエル記上 12 : 3

サムエル記下 12 : 6

マタイによる福音書 5 : 24

**(質問8) アダムとエバは自分の罪を誰のせいにしたので、その告白が神に受け入れられなかったでしょう？**

創世記 3 : 12

人は答えた、「わたしと一緒にしてくださったあの女が、木から取ってくれたので、わたしは食べたのです」

創世記 3 : 13

そこで主なる神は女に言われた、「あなたは、なんということをしましたのです」。女は答えた、「へびがわたしをだましたのです。それでわたしは食べました」。

#### 関連聖句

ヤコブの手紙 1 : 13

出エジプト記 32 : 21-24

サムエル記上 15 : 20-22

箴言 28 : 13

罪のために道徳的知覚が鈍くなってしまうと、悪を行う者は自分の品性の欠陥を認めもしなければ、自分が犯した罪の恐ろしさを悟ることもありません。罪を示す聖霊の力に従わなければ、人は自分の罪を部分的にしか見ていないのです。ですから、その人の告白は真面目でもなければ、熱心でもありません。自分の罪を認めて悪かったとは言うものの、そのたびに自分の行為に弁解をつけ加え、ああいう事情さえ起こらなかつたら、自分はああもしなかつたし、こうもしなかつたし、何もしかれることはなかつたのだ、と言います。アダムとエバは、禁断の木の実を食べたあと、言うに言われぬ恐れを強く感じました。最初、どのように自

分たちの罪の言いわけをして、恐ろしい死の宣告を逃れようかと考えました。神が彼らの罪を正されたとき、アダムはその罪を半ば神に、半ば自分の同伴者に負わせて、「わたしと一緒にしてくださったあの女が、木から取ってくれたので、わたしは食べたのです」と答え、女はその責めをへびに負わせて、「へびがわたしをだましたのです。それでわたしは食べました」（創世記 3：12、13）と言いました。

どうしてあなたはへびをおつくりになったのですか、どうしてへびをエデンの園にお入れになったのですかという質問が、この罪の言いわけの中に含まれているのであって、それは、彼らの墮落の責任は神にあると言っているのです。自己を義とする精神は、偽りの父である悪魔から来たもので、アダムの息子、娘はみな、この精神をあらわしました。こうした告白は、聖霊に動かされたものではありませんから、神に受け入れていただけません。

（質問9）徴税人は自分をどのように評価したでしょう？

ルカによる福音書 18：13

ところが、取税人は遠く離れて立ち、目を天にむけようとしないうで、胸を打ちながら言った、『神様、罪人のわたしをおゆるしてください』と。

関連聖句

ルカによる福音書 5：8

エズラ記 9：6

詩篇 40：12

イザヤ書 6：5

エゼキエル書 16：63

真の悔い改めは自分の罪を自分で負い、何の虚飾も偽善もなく、罪を認めるのです。哀れな徴税人のように目を天に向けることさえしないで、「神様、罪人のわたしを憐れんでください」と叫ぶのです。自分の罪を認める者は義とされます。というのは、イエスは悔い改めた魂のために、みずからの血をもって執り成されるからです。

（質問10）罪に対する真の後悔を表す心をパウロとダビデが二人とも使った言葉は何でしょう？

使徒行伝 26：10、11

そしてわたしは、それをエルサレムで敢行し、祭司長たちから権限を与えられて、多くの聖徒たちを獄に閉じ込め、彼らが殺される時には、それに賛成の意を表しました。

それから、いたるところの会堂で、しばしば彼らを罰して、無理やりに神をけがす言葉を言わせようとし、彼らに対してひどく荒れ狂い、ついに外国の町々にまで、迫害の手をのばすに至りました。

詩篇 51 : 3、4

わたしは自分のとがを知っています。わたしの罪はいつもわたしの前にあります。

わたしはあなたにむかい、ただあなたに罪を犯し、あなたの前に悪い事を行いました。それゆえ、あなたが宣告をお与えになるときは正しく、あなたが人をさばかれるときは誤りがありません。

#### 関連聖句

詩篇 32 : 5 ; 38 : 18

ルカによる福音書 15 : 18-21

#### 誠実な告白の例

ルカによる福音書 18 : 13、14 ;  
15 : 18-21

詩篇 51 : 3、4

サムエル記下 12 : 13

ダニエル書 9 : 3-12、18

エレミヤ書 3 : 25

#### 不誠実な告白の例

創世記 3 : 12、13

サムエル記上 15 : 22-26

ヨシュア記 7 : 19-21

神のみ言葉には、悔い改めと謙遜の実例があげられていますが、そこには罪の言いわけをしたり、自己を正しいとするようなことが少しもない、真心からの告白の精神が見られます。パウロは自分を弁護することなく、自分の罪をその恐ろしいままに描き、罪をいくらかでも軽くしようなどとは考えませんでした。「『キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世に来てくださった』……わたしは、その罪人のかしらなのです」(テモテへの第一の手紙 1 : 15) と言ってはばからなかったのです。

(質問 1 1) 私たちが罪を心から悔やみ神に告白する  
なら、どのような素晴らしい約束が与えられているで  
しょう？

ヨハネの第一の手紙 1 : 9

もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は  
真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべ  
ての不義からわたしたちをきよめて下さる。

関連聖句

箴言 28 : 13

使徒行伝 3 : 19

エレミヤ書 33 : 8

ネヘミヤ記 9 : 17

歴代誌下 7 : 14

ヘブル人への手紙 7 : 25

イザヤ書 43 : 25、26 ; 1 : 18

真に悔い改め、謙遜になった心は、神の愛のいくぶん  
かを悟り、カルバリーの十字架の犠牲を心から感謝し  
てやみません。そして、子どもが優しい父親に告白す  
るように、本当に悔い改めた者は、神の前に自分の罪  
をみな持って行きます

悔い改めの賜物を与えて下さる主をほめたたえます。  
私は主の導きに従って罪を告白して罪を捨てる決心を  
します。

( ) はい ( ) まだ分かりません。

神の憐れみによって真の平和を経験するためには、神  
に具体的に罪を告白し、可能な限り私が傷つけた相手  
にも告白しなければならないことが分かりました。

( ) はい ( ) まだ分かりません。

聖書を学び、キリストに近づくと、私は今まで多くの  
人を傷つけ、欺き、差別して来たことに気づきました。  
神の憐れみによって出来る限り償いたいと思います。

( ) はい ( ) まだ分かりません。

神に対し、また神が創造されたものに対して犯した数  
多くの罪を、流された尊い血によって赦して下さいと  
イエスにお願いしたいと思います。





## 第6課 献身

(質問1) 主を知り、主のご品性に似た者として元の状態に回復されるにはどのように主を求めるべきでしょう？

エレミヤ書 29 : 13

あなたがたはわたしを尋ね求めて、わたしに会う。もしあなたがたが一心にわたしを尋ね求めるならば、

関連聖句

申命記 4 : 29 ; 30 : 9

イザヤ書 55 : 6、7

ルカによる福音書 11 : 9、10

エレミヤ書 24 : 7

歴代誌下 31 : 21

詩篇 119 : 2、10、58、69、145  
ヨエル書 2 : 12、13

私たちは心を尽くして神に従わなければなりません。もしそうしなければ、私たちを神のみかたちに回復する変化は起こらないのです。私たちは、生まれながら神から遠ざかっています。

**(質問2) 神の介入がなかったとしたら私たちはどんな状態になるでしょう？**

エペソ人への手紙 2 : 1

さてあなたがたは、先には自分の罪過と罪とによって死んでいた者であって、

#### 関連聖句

エペソ人への手紙 2 : 5

4 : 18 ; 5 : 14

ヨハネによる福音書 11 : 25、26

ローマ人への手紙 8 : 2

コロサイ人への手紙 2 : 13

マタイによる福音書 8 : 22

ルカによる福音書 15 : 24、32

コリント人への第二の手紙 5 : 14

テモテへの第一の手紙 5 : 6

ヨハネの第一の手紙 3 : 14

聖霊は私たちの状態を次のように言っています。「自分の罪過と罪とに死んでいた者で」(エペソ人への手紙 2 : 1) あり、「その頭はことごとく病み、その心全く弱りはてている。足のうらから頭まで、完全なところがなく」(イザヤ書 1 : 5、6) と。私たちはまったく「悪魔に捕えられて」(テモテへの第二の手紙 2 : 26)、彼の思いのままに、しっかりとりにされているのです。神は私たちをいやし、解放しようと望んでおられます。けれども、それには全面的な改革、つまり私たちの性質をまったく新しくする必要がありますので、私たちは自己をすべて神にささげなければなりません。

自己との戦いは最も大きな戦いです。自己に打ち勝ち、神のみ心にまったく従うには、戦いを通らなければなりません。しかし神に服従しなければ、魂が聖化されることはないのです。

**（質問3）私たちが招いておられる神が、私たちに選択の自由を与えておられることがどうしてわかるでしょう？**

イザヤ書 1 : 18

主は言われる、さあ、われわれは互に論じよう。たといあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。紅のように赤くても、羊の毛のようになるのだ。

関連聖句

イザヤ書 44 : 22 ; 41 :  
21 ; 43 : 24-26 ; 55 : 1-3  
ミカ書 6 : 2  
マタイによる福音書 11 : 28  
申命記 30 : 10、19  
ヨシュア記 24 : 15  
ヨハネの第一の手紙 1 : 9

神のみ国は盲従を要求し、不合理な統制を行おうとするものであると、悪魔は私たちに思わせようとしませんが、そうではありません。それは知性と良心に訴えるものです。「われわれは互いに論じよう」（イザヤ書 1 : 18）と、創造主はつくられた者たちを招いておられます。神は、つくられた者たちの意志を強制なさいません。真心から、みずからよく理解したうえでの服従でなければ、神は受け入れられません。単なる強制的服従は、知性や品性の真の発達を妨げるものであって、人を単なるロボットにしてしまいます。創造主はこのようなことを望まれません。神は、創造の極致である人間が最高の発達を遂げることを望んでおられます。神は、私たちの前に最高の祝福を置き、恵みによって私たちをそこまで導こうとなさいます。また、彼の心を私たちのうちに行うことができるように、自己を神にささげるよう、私たちを招かれます。罪のきずなから放たれて、神の子としての栄えある自由を味わうか否かは、私たちの選択にかかっているのです。

**（質問4）自己を神にささげ、キリストの弟子になる時、私たちは意志的に何をしなければならないでしょう？**

ルカによる福音書 14 : 33

それと同じように、あなたがたのうちで、自分の財産をことごとく捨て切るものでなくては、わたしの弟子となることはできない。

## 関連聖句

ルカによる福音書 5 : 11、28 ;  
18 : 22、23、28-30  
ピリピ人への手紙 3 : 7、8 ;  
ヨハネの第一の手紙 2 : 15-17

神に自己をささげるには、私たちが神から引き離すものをすべて捨てなければなりません。ですから、「それと同じように、あなたがたのうちで、自分の財産をことごとく捨て切るものでなくては、わたしの弟子となることはできない」（ルカによる福音書 14 : 33）と、救い主はおっしゃるのです。たとえ、どんなものであっても、神から心を引き離すものは捨てなければなりません。多くの人は富を偶像にしています。金を愛し、富を追求することは、彼らと悪魔をつなぐ黄金の鎖となるのです。ある人々は名声や世的な栄誉を神としています。また、何の責任も負わず、利己的で安楽な生活を偶像にしている人もいます。けれども、こうした奴隷のきずなは断ち切らなければなりません。私たちは、半ば神に、半ば世につくことはできません。まったく神のものでなければ、神の子どもではないのです。

**（質問5）なぜ私たちは救いを自分の力で得ることができないのでしょうか？**

エペソ人への手紙 2 : 8

あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である。

## 関連聖句

エペソ人への手紙 2 : 5  
ローマ人への手紙 3 : 20-26  
ルカによる福音書 7 : 50  
ヨハネによる福音書 3 : 14-18、36

神に仕えていると公言しながら自分の努力によって神の掟に従い、正しい品性を形づくり、救いを得ようとしている人がいます。このような人たちの心は、キリストの愛に強く動かされたものではありません。天国に入るために神が要求されるものであるからという理由で、クリスチャン生活の義務を遂行しようと努めているにすぎません。そのような宗教は、何の役にも立ちません。もしキリストが心に宿るならば、魂は彼の愛と、彼との交わりから来る大きな喜びに満ちあふれて

キリストに結びつき、彼を深く思って自己を忘れてしまいます。そしてキリストへの愛が行動の源泉となります。神の強く迫る愛に感激した者は、どのくらいささげれば神のご要求を満たすことができるかなどと、最低の標準を尋ねたりしないで、あがない主のみ心にまったく服従したいと望みます。熱心に、希望にあふれてすべてをささげ、彼らが求めているものの価値にふさわしい関心を示します。この深い愛がなくては、キリストを信じると告白することは単なる話だけであり、無味乾燥な形式、また重苦しい苦役にすぎません。

**（質問6） 次の聖句は、私たちが救うためにどのような苦しみと侮辱をキリストが耐えられたかを描いていますか？**

イザヤ書 53：5、7

しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。彼はしえたげられ、苦しめられたけれども、口を開かなかつた。ほふり場にひかれて行く小羊のように、また毛を切る者の前に黙っている羊のように、口を開かなかつた。

#### 関連聖句

ペテロの第一の手紙 2：24； 3：18

ローマ人への手紙 4：25； 5：6-8

ダニエル書 9：24、26

マタイによる福音書 20：28

エペソ人への手紙 5：2

テトスへの手紙 2：14

キリストにまったく服従することは、あまりにも大きな犠牲だと、あなたは感じるでしょうか。「キリストは私に何を与えてくださったか」ということを考えていただきたいのです。神のみ子は、私たちがあがなうためにすべてのもの—命と愛と苦しみ—をお与えになりました。こうした大きな愛の対象としてはあまりに無価値な私たちが、自分の心を神にささげないでいられるでしょうか。私たちは、生涯の一瞬一瞬をキリストの恵みにあずかって生きてきました。（そのために）私たちは、無知と悲惨のどん底から救われたのがどれほどのことかを自覚していないのです。私たちは、自分たちの罪が刺し通したキリストをながめながら、彼

の愛と犠牲を侮蔑することができるでしょうか。栄光の主の限りなきへりくだりをよく知りながら、葛藤や卑下を通してでなければ命に入ることができないと言って、つぶやいてもよいのでしょうか。

**（質問7）キリストが私たちに代わってどのような重荷を負われたので、私たちは罪を後悔するのでしょうか？**

イザヤ書 53：12

それゆえ、わたしは彼に大いなる者と共に 物を分かち取らせる。彼は強い者と共に獲物を分かち取る。これは彼が死にいたるまで、自分の魂をそそぎだし、とがある者と共に数えられたからである。しかも彼は多くの人の罪を負い、とがある者のためにとりなしをした。

関連聖句

イザヤ書 53：5、11

ガラテヤ人への手紙 1：4；3：13

コリント人への第二の手紙 5：21

ヘブル人への手紙 9：26、28

ヨハネの第一の手紙 2：2；4：9、10

マルコによる福音書 15：28

ルカによる福音書 22：37

「悔い改めて心を低くしなければ、神に受け入れられたという保証が得られないのは、どうしたことだろう」と尋ねる高慢な人がたくさんいます。そういう人はキリストをご覧なさい。彼は罪を犯されなかったばかりではなく、天の王子でしたが、人類の身代わりとなって罪人になりました。

私たちがすべてをささげると言っても、いったい何をささげるのでしょうか。それは、イエスに清められ、その血によって洗われ、彼の無比の愛によって救われるためにささげる罪に汚れた心だけです。それなのに、人々はそれを捨てがたいと思っています。私はそういう話を聞き、また書くことさえ恥ずかしいのです。

**（質問8）私たちの目標はなんでしょう？そして、その目標を目指す時、どのような約束が与えられているでしょう？**

マタイによる福音書 6：33

まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。

## 関連聖句

マタイによる福音書 6 : 30-32 ;  
19 : 29  
ローマ人への手紙 14 : 17  
ヨハネによる福音書 6 : 27  
列王記上 3 : 11-13 ;  
17 : 13-16  
箴言 3 : 9、10  
ルカによる福音書 12 : 31-34  
詩篇 34 : 9、10 ; 37 : 3-7、18、  
19、20、25  
テモテへの第一の手紙 4 : 8  
ヨハネの第一の手紙 2 : 17

神は、私たちが持っている益になるものは、何一つ捨てるようにとはお求めになりません。何をなさるにも、いつもその子らの幸福を考えておいでになります。自分が今求めているよりはるかに良いものを神は備えておいでになるということ、キリストを選んでいないすべての人が悟るように望みます。人は神のみ心に逆らって考え、行動するとき、自分の心に大きな害を及ぼしています。何が最善であるかを知り、つくられた者たちの幸福を計画しておいでになる神が禁じられる道に、本当の喜びはありません。罪の道は悲惨と滅亡の道です。

**(質問9) 私たちが天国を目指す時、神の子としてどのような約束が与えられているでしょう？**

詩篇 37 : 4、5  
主によって喜びをなせ。主はあなたの心の願いをかなえられる。あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ、主はそれをなしとげ、

## 関連聖句

詩篇 145 : 19 ; 84 : 11 ;  
23 : 1-5 ; 36 : 8  
ヨハネによる福音書 10 : 10 ;  
15 : 7、16  
コリント人への第二の手紙 9 : 8-11  
ルカによる福音書 12 : 30-33  
テモテへの第一の手紙 6 : 17  
ヨハネの第一の手紙 5 : 14、15

神は子らが苦しむのを見てお喜びになると考えるのは、誤りです。全天が人間の幸福に関心を持っているのです。私たちの天の父は、だれに対しても喜びの道を閉じることはありません。しかし、苦しみと失望をもたらし、幸福と天国への戸を閉じてしまうようなことにふけてはならないと私たちを戒めておられます。世の救い主は、不完全で弱く、欠点があるままの姿で人々を受け入れ、これを罪から清め、その血によってあがなわれたばかりではなく、彼のくびきを負い、その荷をになうすべての者の心の願いをかなえてくださいます。命のパンを求める者に、平和と平安をお与えになるのが神のみ心なのです。また、神は私たちに一定の義務を果たすように要求されますが、それは不従順な者たちには決して到達することのできない祝福の高みに私たちを導くためです。心の真の喜びは、栄光の希望であるキリストを心の中に形づくることです。

**(質問 10) どのようにして私は自分を完全に神に明け渡すことができるでしょう？**

ヨシュア記 24 : 15

もしあなたがたが主に仕えることを、こころよしとしないのならば、あなたがたの先祖が、川の向こうで仕えた神々でも、または、いまあなたがたの住む地のアモリびとの神々でも、あなたがたの仕える者を、きょう、選びなさい。ただし、わたしとわたしの家とは共に主に仕えます」。

関連聖句

列王記上 18 : 21

箴言 4 : 25-27

マタイによる福音書 26 : 39 ;

6 : 10、21

ローマ人への手紙 12 : 1

ピリピ人への手紙 2 : 5、13

ヤコブの手紙 4 : 7

ルカによる福音書 1 : 38

ペテロの第一の手紙 4 : 19

「私はどうすれば神に自分をささげることができるのでしょうか」と、尋ねる人がたくさんいます。そして、自分を神にささげたいと望んでいながら、道徳的力が弱く、疑いの奴隷となり、罪の生活の習慣に支配されています。どんな約束も決心も、砂で作ったロープのようにもろく、自分では自分の思想、衝動、愛情を制

御することができません。こうして約束を破り、誓いを裏切って自分の誠実さに自信が持てなくなり、神は自分を受け入れてくださらないのではないかと思うようになります。しかし、絶望するには及びません。ただ必要なのは、本当の意志の力とは何であるかを知ることです。意志とは、人の性質を支配している力、決断力、選択の力です。すべては、ただ意志の正しい行動にかかっているのです。神は人間に選択の力をお与えになりました。つまり、人がそれを用いるようにお与えになったのです。私たちは自分の心を変えたり、また自分で愛情を神にささげたりすることはできません。けれども、神に仕えようと選ぶことはできます。意志は神にささげることができます。そうすれば、神は私たちのうちにお働きになって、神が喜ばれるように望み、行うようにしてください。こうして性質はまったくキリストの霊に支配されるようになり、キリストが愛情の中心となり、思想もまた彼と一致するようになります。

善と聖を望むのは正しいことですが、そこでとどまるなら何の役にも立ちません。クリスチャンになりたいと望みながら滅んでいく人がたくさんいます。それは、彼らが自分の意志を神にささげるところまで到達しないからです。つまり彼らは、今クリスチャンになることを選ばないのです。

**（質問 1 1）私たちの意思と命を完全にキリストに明け渡した結果は何でしょう？**

イザヤ書 41 : 10

恐れてはならない、わたしはあなたと共にいる。驚いてはならない、わたしはあなたの神である。わたしはあなたを強くし、あなたを助け、わが勝利の右の手をもって、あなたをささえる。

関連聖句

イザヤ書 41 : 13、14

40 : 29-31 ; 44 : 2

ヤコブの手紙 4 : 7、8

申命記 31 : 6、8

詩篇 27 : 1 ; 29 : 11

ローマ人への手紙 8 : 31

コリント人への第二の手紙 12 : 9、10

意志を正しく働かせるならば、生活はまったく変わります。意志をキリストにまったく服従させることによ





## 第7課 信仰と受容

(質問1) 私たちが神の平和と調和を望むようになると、私たちは罪の邪悪さにどう反応するようになるでしょう？

エゼキエル書 36 : 31

その時あなたがたは自身の悪しきおこないと、良からぬわざとを覚えて、その罪と、その憎むべきことのために、みずから恨む。

関連聖句

エゼキエル書 6 : 9 ; 20 : 43

ルカによる福音書 18 : 13 ; 5 : 8

ローマ人への手紙 6 : 21

詩篇 40:12

エズラ記 9:6

コリント人への第二の手紙 7:9-11

聖霊によって私たちの良心が目覚めると、罪がいかに忌まわしく、罪の力、罪のとが、また罪から来る災いがどんなものであるかがいくらかわかってきて、罪を憎むようになります。罪によって自分が神から引き離され、悪の力の奴隷になっていることに気づくのです。逃れようともがけばもがくほど、自分の力なさを感じます。動機は不純で、心は不潔で、自分の生活はまったく利己心と罪ばかりであることを知り、何とかしてゆるされ、清められ、自由になりたいと望むのです。神と調和し、神に似るには、いったい何をすればよいのでしょうか。

**（質問2）主は赦しと平和の生ける水を誰のために用意しておられるのでしょうか？**

イザヤ書 55:1

「さあ、かわいている者は みな水にきたれ。 金のない者もきたれ。 来て買い求めて食べよ。 あなたがたは来て、金を出さずに、 ただでぶどう酒と乳とを買い求めよ。

関連聖句

イザヤ書 41:17

ヨハネによる福音書 4:14;

ヨハネの黙示録 21:6

ペテロの第二の手紙 3:9

あなたに必要なものは平和です。つまり、天のゆるしと平和と愛を心にいただくことです。それは金で買うことも、知識で達することも、また知恵で手に入れることもできません。自分の力で手に入れることは絶対に望めません。けれども神は、「金を出さずに……求め」（イザヤ書 55:1）る賜物としてこれを与えてくださるのですから、ただ手を伸ばしてつかみさえすれば、自分のものになります。主は、「たとえ、あなたがたの罪が緋のようであっても／雪のように白くなるのだ。紅のようで赤くても／羊の毛のようになるのだ」（イザヤ書 1:18）、と言われます。

**（質問3）平和を得ようと探し求める私たちに、神はどのような素晴らしい約束を与えておられるのでしょうか？**

エゼキエル書 36 : 26

わたしは新しい心をあなたがたに与え、新しい霊をあなたがたの内に授け、あなたがたの肉から、石の心を除いて、肉の心を与える。

#### 関連聖句

エゼキエル書 11 : 19、20

申命記 30 : 6

エレミア書 32 : 39

コリント人への第二の手紙 5 : 17 ; 3 : 3

ヨハネによる福音書 3 : 3-6

あなたは自分の罪を告白して心からこれを捨て去り、神にみずからをささげようと決心しました。ですから今、神のもとに行き、罪を洗い去って新しい心を与えてください、と願いなさい。そして、神が約束なさったのですから、そうしてくださると信じなさい。これは、イエスが地上におられたときに教えられた教訓であって、神が私たちにお約束になった賜物は、それを得たと信じるときに私たちのものとなるのです。

**(質問4) 聖書はなぜキリストの奇跡やしるしを記録しているのでしょうか？**

ヨハネによる福音書 20 : 31

しかし、これらのことを書いたのは、あなたがたがイエスは神の子キリストであると信じるためであり、また、そう信じて、イエスの名によって命を得るためである。

#### 関連聖句

マタイによる福音書 9 : 6

マルコによる福音書 2 : 7、10

ヨハネによる福音書 5 : 24、39 ;

6 : 40

ヨハネの第一の手紙 5 : 10-13

人々が彼の力を信じたとき、イエスは病気をおいやしになりました。イエスはまず、人々を目で見えるものでお助けになり、目に見えないこと、すなわち罪をゆるす力についても、彼に信頼を置くようにお教えになりました。

**(質問5) 罪の赦しを得るために私たちは何をすべきでしょうか？**

マルコによる福音書 11 : 24

そこで、あなたがたに言うが、なんでも祈り求めることは、すでになえられたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになるであろう。

#### 関連聖句

マタイによる福音書 8 : 13 ;

21 : 22 ; 9 : 6

詩篇 32 ; 10

エペソ人への手紙 2 : 8

テモテへの第一の手紙 4 : 10

イエスが病人をおいやしになった聖書の簡単な記録から、私たちは罪のゆるしを得るためにどのように彼を信じればよいかについて、いくらか知ることができます。ベトザタの池のそばにいた病人のことを考えてみましょう。哀れな病人は、三八年間も体の自由を失っていました。しかしイエスは、「起き上がって床を担ぎ、家に帰りなさい」と言われたのです。この病人は、「主よ、もし私をいやしてくださるならば、み言葉に従います」とも言えたでしょう。しかし、彼はキリストのみ言葉を信じ、自分がいやされたと信じてすぐに立って歩こうとしました。歩こうとしたときに、実際に歩くことができたのです。彼がキリストのみ言葉に頼って行動したので、神は彼に力をお与えになり、彼はすっかりいやされたのです。

**(質問6) 私たちはなぜ自分の努力では心を清めることができないのでしょうか？**

エレミア書 17 : 9

心はよろずの物よりも偽るもので、はなはだしく悪に染まっている。だれがこれを、よく知ることができようか。

#### 関連聖句

エレミア書 13 : 23 ; 16 : 12

詩篇 51 : 5 ; 53 : 1-3

創世記 6 : 5

ヨブ記 15 : 14-16

伝道の書 9 : 3

マルコによる福音書 7 : 21、22

ヤコブの手紙 1 : 14、15

ローマ人への手紙 7 : 14-20

エペソ人への手紙 2 : 3

罪人である私たちも同じです。過去の罪をあがなうことも、自分の心を変えることも、自分自身を清くすることもできません。しかし神は、こうしたことをすべてキリストを通してしよう、と約束してくださいました。あなたはまずそのみ約束を信じ、罪を告白し、みずからを神にささげ、神に仕えよう、と決心しなければなりません。これを実行しさえすれば、必ず神はそのみ約束を果たしてくださいます。神のみ約束を疑わず、ゆるされ、清められたと信じさえすれば、神はそれを事実としてくださるのです。この病人が、自分はいやされたと感じたときに、キリストから歩く力を与えられたのと同じように、あなたはいやされるのです。信じたようになるのです。

いやされたと感じるまで待つてはなりません。そして、「信じます。いやされています。私がそう感じるからではなく、神がこれを約束されたからです」と言いましょう。

**(質問7) 信仰によって赦しを求める人は、なぜ赦される確信を持つことができるのでしょうか？**

マタイによる福音書 7 : 11

このように、あなたがたは悪い者であっても、自分の子供には、良い贈り物を知っているとすれば、天にいますあなたがたの父はなおさら、求めてくる者に良いものを下さらないことがあるのか。

関連聖句

マルコによる福音書 11 : 24

ルカによる福音書 11 : 11

ヨハネの第一の手紙 5 : 14、15

詩篇 86 : 5 ; 103 : 11-13

ミカ書 7 : 18、19

ローマ人への手紙 5 : 8-10 ; 8 : 32

エペソ人への手紙 3 : 4-7

このみ約束には条件が一つあります。それは、神のみ旨に従って祈るということです。けれども、私たちの罪を清め、神の子らとして清い生活を送らせようとなさるのは、神のみ心です。ですから、これらの祝福を願い求め、それを受けたと信じて神に感謝してもよいのです。イエスのもとに来て清められ、恥じるどころなく掟の前に立つことができるのは、私たちの特権です。聖書にも、「こういうわけで、今やキリスト・イエスにある者は、罪に定められることがない。……肉

によらず霊によって歩く」（ローマ人への手紙 8 : 1、4）ためである、とあります。

（質問 8）私たちは神とのつながりをどうすれば保つことができるでしょう？

コロサイ人への手紙 2 : 6

このように、あなたがたは主キリスト・イエスを受け入れたのだから、彼にあって歩きなさい。

関連聖句

ヘブル人への手紙 11 : 6 ; 3 : 14

ガラテヤ人への手紙 5 : 16

ヨハネによる福音書 15 : 4—9

ヨハネの第一の手紙 2 : 6

コリント人への第二の手紙 5 : 7

エペソ人への手紙 5 : 1、2

マタイによる福音書 6 : 33

たった今から、私たちは自分のものではなく、価をもって買われたものです。「あなたがたが先祖伝来の空疎な生活からあがない出されたのは、銀や金のような朽ちるものによったのではなく、きずも、しみもない小羊のようなキリストの尊い血によったのである」

（ペテロの第一の手紙 1 : 18、19）とあります。神を信じるというこの簡単な行為によって、聖霊は私たちの心に新しい命を与えてくださいます。私たちは神の家族の子どもとして生まれたのです。ですから、神はみ子を愛されると同様に私たちを愛してくださるのです。さて、あなたは自分をキリストにささげたのですから、退いたり、また自分を取り戻したりしてはなりません。ただ日ごとに、「私はキリストのものです。私は自分をキリストにささげました」と言って、聖霊を与えられ、彼の恵みによって支えられるよう、祈りましょう。自己を神にささげ、神を信じる時に神の子となるのですから、神にあってそのように生活しなければなりません。

（質問 9）キリストのみもとに来る全ての人に何が約束されていますか？

マタイによる福音書 11 : 28

すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。

## 関連聖句

イザヤ書 11 : 10 ; 48 : 17、18

エレミヤ書 4 : 1

世の中には、自分たちは試験されているのであって、心を改めた証拠がなければ、神の祝福を受けることができないと考えている人々がいます。しかし、今すぐにでも祝福を求めて受けることができるのです。神の恵み、キリストの霊を受けて、みずからの弱さを補わなければ、悪に抵抗することはできません。イエスは、私たちが罪に汚れ、無力で頼りないまま、みもとに行くのを喜びになります。私たちは、弱さ、愚かさ、罪深さなどをみな持ったまま、悔いの涙をもって主の足もとにひざまずいてよいのです。主は愛のみ手のうちに私たちをいだき、傷を包み、すべての汚れから清めることをご自身のほまれとなさいます。

**(質問 10) 罪を悔い改める全ての人に、神はどのような確証を与えておられますか？**

イザヤ書 44 : 22

わたしはあなたのとがを雲のように吹き払い、あなたの罪を霧のように消した。わたしに立ち返れ、わたしはあなたをあがなったから。

## 関連聖句

イザヤ書 1 : 18 ; 43 : 25

エレミヤ書 33 : 8

テトスへの手紙 2 : 13、14

ヨハネの第一の手紙 1 : 9

多くの人が誤るのはこの点で、彼らは、イエスが個人的に、一人ひとりにゆるしを与えられることを信じないのです。彼らは神のみ言葉をそのとおりに信じません。しかし、だれでも条件に従うならば、いかなる罪のゆるしも価なく与えられることを、はっきり知ることができます。神のみ約束は自分のためではないなどという疑いは、捨てなければなりません。このみ約束は、悔い改める罪人一人ひとりのためのものです。キリストが備えておられた能力と恵みは、信じる魂一人ひとりにみ使いによって与えられます。どんなに罪深くて、彼らのために死なれたイエスから能力と純潔と義を受けることができないという人はいません。イエスは、罪に染まって汚れた衣を脱がせ、義の白い衣

を着せようと待っておられます。死ぬことなく生きなさい、と招いておいでになるのです。

**（質問 1 1）導きにしがたって悔い改めた人の罪を神はどうされるのでしょうか？**

詩篇 103 : 10-12

主はわれらの罪にしがたってわれらをあしらわず、われらの不義にしがたって報いられない。天が地よりも高いように、主がおのれを恐れる者に賜わるいつくしみは大きい、東が西から遠いように、主はわれらのとがをわれらから遠ざけられる。

関連聖句

詩篇 103 : 13-19 ; 130 : 3、4

エズラ記 9 : 13

ネヘミヤ記 9 : 31

ヨブ記 11 : 6

神は、人間が互いをあしらうように私たちをあしらわれません。彼の思いは、愛とあわれみといつくしみにあふれています。神は言われます。「悪しき者はその道を捨て／正からぬ人はその思いをを捨てて主に帰れ。そうすれば、主は彼にあわれみを施される。われわれの神に帰れ、主は豊かにゆるし与えられる」（イザヤ書 55 : 7）。「わたしはあなたのとがを雲のように吹き払い／あなたの罪を霧のように消した。わたしに立ち返れ、わたしはあなたをあがなったから」（イザヤ書 44 : 22）と。

「わたしは何人の死をも喜ばないのであると、主なる神は言われる。それゆえ、あなたがたは翻って生きよ」（エゼキエル書 18 : 32）。悪魔は、神からのこの尊い保証を奪い去り、人の心から希望と光を消し去ろうとしていますが、そうさせてはなりません。試みる者に耳を貸すことなく、こう言ってください。「イエスは、私が生きるために死んでくださいました。彼は私を愛し、私が滅びるのを喜ばれません。」

**（質問 1 2）罪の道から立ち返る人を天の父はどのように迎え入れられるのでしょうか？**

ルカによる福音書 15 : 20

そこで立って、父のところへ出かけた。まだ遠く離れていたのに、父は彼をみとめ、哀れに思って走り寄り、その首をだいて接吻した。

## 関連聖句

申命記 30 : 2-4

詩篇 86 : 5、15 ; 78 : 3 ;  
145 : 8

「立って、父のところへ帰って、こう言おう、父よ、わたしは天に対しても、あなたにむかって、罪を犯しました。もう、あなたのむすこと呼ばれる資格はありません。どうぞ、雇人のひとり同様にしてください。そこで立って、父のところへ出かけた」（ルカによる福音書 15:18-20）。

これは実に優しく、人の心を動かさずにはおかない物語ですが、これだけでは、まだ天の父の限りないあわれみを十分にあらわしていません。主は預言者を通して、「わたしは限りなき愛をもってあなたを愛している。それゆえ、わたしは絶えずあなたに真実をつくしてきた」（エレミヤ書 31 : 3）と言われました。父の家から遠く離れた異国で、罪人がまだ財産を浪費しているときに、父の心はその子の身の上を案じているのです。そして、神へ帰りたいという気持ちを彼の心に起こさせるのは、聖霊の優しい訴えの声であり、聖霊はさまよい出た者へ熱心に話しかけ、哀願し、父なる神の愛の心に引きつけようとしておられるのです。

**（質問 13）主を求めるすべての人にどのような約束が与えられていますか？**

ヨハネによる福音書 6 : 37

父がわたしに与えて下さる者は皆、わたしに来るであろう。そして、わたしに来る者を決して拒みはしない。

## 関連聖句

マタイによる福音書 11 : 28

ヘブル人への手紙 7 : 25

詩篇 102 : 17

イザヤ書 55 : 7

ヨハネの黙示録 22 : 17

ペテロの第二の手紙 3 : 9

ローマ人への手紙 8 : 31、32 ; 5 : 8

聖書には、こうしたみ約束がたくさんありますから、疑う余地はどこにもありません。哀れな罪人が帰りたいたいと思ひ、罪を捨てたいと願っているのに、罪を悔いて主の足もとに来る彼を主が拒まれるなどと考えられるのでしょうか。決してそのようなことを考えてはなり

ません。天の父がそのような方であると考えることほど、魂を傷つけるものはありません。神は罪を憎まれますが、罪人は愛されます。

神がキリストをお与えになったというのは、ご自分をお与えになったということでした。そして、望む者はだれでも救われ、栄光のみ国で限りない祝福にあずかることができるようにしてくださったのです。神が私たちに對する愛をあらわすためにお用いになった次の言葉ほど、強く、優しい言葉はありません。「女がその乳のみ子を忘れて、その腹の子を、あわれまないようなことがあろうか。たとい彼らが忘れようようなことがあっても、わたしはあなたを忘れることはない」

(イザヤ書 49 : 15)。

疑い、おののく人々よ、目を上げようではありませんか。イエスはなお生きて、私たちのために執り成しをしておられます。神が愛する独り子をお与えになったことを感謝するとともに、彼の死が無駄にならないように祈りましょう。聖霊は今日、あなたを招いておられます。全心をささげて、イエスのもとに行きましょう。そうすれば、主の祝福を自分のものとすることができますのです。

み約束を読むとき、それらは言いあらわすことのできない愛とあわれみの表現であるということ覚えましょう。神の無限の愛のみ心は、計り知れないあわれみをもって罪人に引き寄せられます。「わたしたちは、御子にあって、神の豊かな恵みのゆえに、その血によるあがない、すなわち、罪過のゆるしを受けたのである」(エペソ人への手紙 1 : 7)。そうです。あなたを助けることができるのは、ただ神のみであることを信じてください。神は、ご自身の真のかたちを人間のうちに回復したいと望んでおられます。告白と悔い改めによって神に近づくなれば、神はあわれみとゆるしをもって私たちに近づかれるのです。

**(質問 14) 神の家族の一員となった私たちにどんな素晴らしい約束が与えられていますか？**

イザヤ書 49 : 15

「女がその乳のみ子を忘れて、その腹の子を、あわれまないようなことがあろうか。たとい彼らが忘れるようなことがあっても、わたしは、あなたを忘れることはない。

ヘブル人への手紙 13 : 5

金銭を愛することをしないで、自分の持っているもので満足しなさい。主は、「わたしは、決してあなたを離れず、あなたを捨てない」と言われた。

### 関連聖句

申命記 31 : 6、8

マラキ書 3 : 17

ローマ人への手紙 8 : 38、39

エレミヤ書 31 : 33-35 ; 32 : 38-40

ヨハネによる福音書 10 : 27-30

神のみ言葉を学べば学ぶほど、私が心の扉を開くようにと聖霊の神が扉を叩いておられるのがわかりました。  
(ヨハネの黙示録 3 : 20)

( ) はい ( ) まだ分かりません。

私は救い主を必要とする迷える罪人だと認めます (ローマ人への手紙 3 : 23)

( ) はい ( ) まだ分かりません。

破滅の淵にいる私を救うために一人子イエスをこの世に送られた神の偉大な愛に驚いています。(ヨハネによる福音書 3 : 16、17) 今はイエスだけが救いの道だとわかりました。(ヨハネによる福音書 10 : 9)

( ) はい ( ) まだ分かりません。

誠実な心で罪を告白するなら、イエスが流された尊い血が私をあらゆる不義から清めて下さることを信じます。(ヨハネの第一の手紙 1 : 9)

( ) はい ( ) まだ分かりません。

今の質問に「はい」と答えた方へ :

信仰によってイエスを個人的な救い主として受け入れるという、あなたにとって最も大切な決心をするようにお勧めします。

そうすれば主の平和と力、絶え間ない愛の経験をするようになるでしょう。

次の祈りを心からささげてみてください。(ヨハネによる福音書 1 : 4 ; 12)





## 第 8 課

# 弟子としての証拠

(質問 1) 次の聖句は聖霊の働きをどのようにたとえていますか？

ヨハネによる福音書 3 : 8

風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞くが、それがどこからきて、どこへ行くかは知らない。霊から生れる者もみな、それと同じである」。

関連聖句

伝道の書 11 : 5

使徒行伝 2 : 2 ; 4 : 31

ヨハネによる福音書 3 : 5

人は、いつどこで悔い改めたか、あるいはどんな段階を経て回心したかを、はっきり語ることができないかもしれませんが、だからといって、その人が悔い改めていないとは言えません。キリストはニコデモに、風は目には見えませんが、風の通った結果は、はっきりと見たり、感じたりすることができます。聖霊が人の心に働くのも、ちょうど同じです。人の目には見えませんが、再創造の力が魂に新しい命を与え、神のみかたちに従って新しい人をつくるのです。聖霊の働きは音もなく、目にも見えませんが、その結果は明らかです。聖霊によって心が新たにされるならば、生活がその事実を証明します。

**(質問2) どのように人生と心は変えられ、新たにされるのでしょうか？**

コリント人への第二の手紙 5 : 17

だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである。

#### 関連聖句

エゼキエル書 11 : 19、20 ;

36 : 26 ; 18 : 27-31

エペソ人への手紙 2 : 10 ; 4 : 23、24

ローマ人への手紙 6 : 4-6 ; 8 : 10

私たちはどのようにしても自分の心を変えたり、神と調和したりすることができないのです。また、自己や自分の良い行いに頼ることもできませんが、心のうちに神の恵みを宿しているかどうかは、私たちの生活にあらわれてきます。性格に、習慣に、いっさいの行動に変化が起こりますから、過去と現在の間にはっきりと決定的な対照が見られるようになります。人の性格は時折の善行やあやまちでわかるのではなく、日常の言動の傾向によって知ることができるのです。

キリストの力によって新しくされなくても、人は外見だけ正しい行いを装うことができます。権勢を求め、人からよく思われたいという気持ちから、正しい生活を送ることもできるでしょう。自尊心も、私たちが人から悪く見られるのを防いでくれるかもしれませんが、あるいは、利己的な人が情け深い行為をすることもできるでしょう。では、私たちがどちらの側に立つのかを、どんな方法で決めることができるでしょ

うか。私たちの心を支配しているのはだれでしょうか。私たちはだれのことを考えているのでしょうか。だれのことを話すのが好きでしょうか。私たちが何よりも愛情をささげ、何よりも努力を傾けようとするのはだれのためでしょうか。もし私たちがキリストのものであれば、彼と一つの心になり、彼を思うのが最高の楽しみとなり、私たちの持ち物も、私たち自身も、すべて彼にささげてしまいます。そして、主のみかたちに似、主の霊を呼吸し、主のみ心をなし、すべてのことにおいて主を喜ばせたいと願うようになります。

**（質問3）真の生まれ変わりを経験した人はどのような品性を持つようになるでしょうか？**

ガラテヤ人への手紙 5 : 22、23

しかし、御霊の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制であって、これらを否定する律法はない。

関連聖句

ガラテヤ人への手紙 5 : 16、17

詩篇 92 : 12-14

マタイによる福音書 12 : 33

ルカによる福音書 8 : 14、15

キリスト・イエスにあって新しくつくられた者は、もはや以前の欲望に従って歩まず、神のみ子を信じてそのみ足跡にならって歩み、そのご品性を反映しながら清くあるように、みずからを清くするのです。以前は嫌っていたものを今は愛するようになり、かつて愛していたものは嫌うようになります。高慢、不遜な人は、柔和、謙遜になります。軽はずみで落ち着きのない人は、真面目で控え目になり、酒に酔う者はそれをやめ、放蕩者は純潔になります。世的なむなしい習慣や流行を追う気持ちがなくなり、クリスチャンは「外面の飾りではなく、かくれた内なる人、柔和で、しとやかな霊という朽ちることのない飾り」（ペテロの第一の手紙 3 : 3、4）を求めるようになります。

**（質問4）新しく生まれ変わった私は、今まで傷つけてきた相手に何をすべきでしょうか？**

ルカによる福音書 19 : 8

柔和、自制であって、これらを否定する律法はない。

## 関連聖句

出エジプト記 22 : 1

マタイによる福音書 5 : 23、24

ルカによる福音書 3 : 8

サムエル記上 12 : 3

サムエル記下 12 : 6

ですから、もし改革が起こらなければ、真に悔い改めたとは言えません。質としてあずかった物を戻し、奪ったものを返し、罪を告白し、神と人を愛するようになったならば、その人は確かに死から生に移っているのです。あやまちがあり、罪あるままの姿でキリストのもとに行き、ゆるしの恵みを受けるとき、心の中に愛がわき起こります。キリストが課すくびきは負いやすいのですから、すべての重荷は軽くなります。義務は喜びとなり、犠牲は楽しみになります。以前は暗黒に包まれていたように見えた道も、義の太陽に照らされて明るくなります。

**(質問5) キリストの慈しみによって新しくされた心に湧き出て満ち溢れる愛はどこから来るのでしょうか？**

テサロニケ人への第一の手紙 3 : 12

どうか、主が、あなたがた相互の愛とすべての人に対する愛とを、わたしたちがあなたがたを愛する愛と同じように、増し加えて豊かにして下さるよう。

## 関連聖句

ヨハネの第一の手紙 4 : 7-13

テサロニケ人への第一の手紙 4 : 9

ヤコブの手紙 1 : 17

ガラテヤ人への手紙 5 : 22

テモテへの第二の手紙 1 : 7

キリストのうるわしい人格が、彼に従う者のうちに見られるようになります。神のみ旨をなすことがキリストの喜びでした。神への愛と栄光をあらわそうとする情熱は、救い主の生涯を動かしていた力です。愛が救い主の行動をすべて美化し、高尚にしたのです。愛は神から来るものです。まだ清められていない心は、その愛を創出することも、生み出すこともできません。それはただ、イエスが支配する人の心の中にだけ見いだすことができます。「わたしたちが愛し合うのは、神がまずわたしたちを愛して下さったからである」

(ヨハネの第一の手紙 4 : 19)。神の恵みによつ

て新しくされた心の中では、愛が行為の原則となります。愛は性格を改変し、衝動を支配し、欲情を制御し、また敵意を抑え、愛情を高尚にします。この愛が心のうちに秘められ、あたりに高貴な感化を及ぼすのです。

**(質問6) 私たちは、神を愛していることをどのように現すでしょう？**

ヨハネによる福音書 14 : 15

もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである

関連聖句

ヨハネによる福音書 14 : 21 ;

15 : 10-14 : 21 : 15-17

マタイによる福音書 25 : 34-40

ヨハネの第一の手紙 2 : 3-6 ;

4 : 19-21

**(質問7) キリストと私の関係において、なぜ服従は欠かせないのでしょう？**

ヨハネの第一の手紙 2 : 4

「彼を知っている」と言いながら、その戒めを守らない者は、偽り者であって、真理はその人のうちにはない。

関連聖句

ヨハネの第一の手紙 1 : 6-10 ;

4 : 20、21

ヤコブの手紙 2 : 14-16

テトスへの手紙 1 : 16

テモテへの第二の手紙 3 : 5

ここに、神の子ら、特に神の恵みに頼り始めた者が陥りやすい誤りが二つあります。これは特別に注意しなければならない事柄です。第一の誤りは、前にも述べたように、自分の行為をながめ、自分の力を頼みとして神と調和しようとする事です。自分の行為によって掟を守り、清くなろうとしている人は、不可能なことをしようとしているのです。人がキリストなしにすることは、すべて利己心と罪に汚れています。信仰によるキリストの恵みだけが私たちを清めるのです。それとは反対ですが、同じように危険なことは、キリストを信じれば、人は神の掟を守らなくてもよいとい

う考えです。つまり、ただ信仰によってキリストの恵みにあずかるようになったのだから、行いは私たちの救いとまったく関係がないというのです。

**（質問8）キリストは新しく生まれ変わる私に何を約束しておられますか？**

ヘブル人への手紙 10 : 16

「わたしが、それらの日の後、彼らに対して立てようとする契約はこれであると、主が言われる。わたしの律法を彼らの心に与え、彼らの思いのうちに書きつけよう」と言い、

関連聖句

ヘブル人への手紙 8 : 8-10

エレミヤ書 31 : 33、34 ; 32 : 40

ローマ人への手紙 8 : 2-4

申命記 30 : 6

詩篇 37 : 31 ; 40 : 8

イザヤ書 51 : 7

エゼキエル書 11 : 19、20 ;  
36 : 26、27

しかし、服従というのは単なる外面的な従順ではなく、むしろ愛の奉仕であることに注目してください。神の掟は神の品性を表現したものであり、愛の原則を具体化したものですから、天にあっても地にあっても神のみ国の基礎です。私たちの心が神のみかたちに似て新しくされ、神の愛が心のうちに植えつけられるならば、神の掟は日々の生活に実行されるのではないのでしょうか。愛の原則が心に植えつけられ、私たちの心が創造主である神のみかたちに似て新しくされるとき、「わたしの律法を彼らの心に与え、彼らの思いのうちに書きつけよう」（ヘブル人への手紙 10 : 16）という新しい契約が初めて成就するのです。こうして掟が心に記されるとき、それはその人の生活を左右するのではないのでしょうか。服従、すなわち愛から出た奉仕と忠誠は、弟子であることの真のしるしです。聖書にも、「神を愛するとは、すなわち、その戒めを守ることである」（ヨハネの第一の手紙 5 : 3）、「『彼を知っている』と言いながら、その戒めを守らない者は、偽り者であって、真理はその人のうちにはない」（ヨハネの第一の手紙 2 : 4）と記されています。人は服従しなくてもよいというのではありません。信仰一た

だ信仰だけが、私たちがキリストの恵みにあずからせ、服従できるようにするのです。

**(質問9) 私たちが仕える主人が誰か、どうしたら分かるでしょう？**

マタイによる福音書 7 : 16、20

あなたがたは、その実によって彼らを見わけるであろう。茨からぶどうを、あざみからいちじくを集める者があるか。このように、あなたがたはその実によって彼らを見わけるのである。

関連聖句

ルカによる福音書 6 : 43-45

ヨハネによる福音書 15 : 4-7

ヤコブの手紙 3 : 12

私たちは服従によって救いを買うのではありません。救いは神から価なしに与えられる賜物であって、信仰によって受けるのです。服従は信仰の実です。「あなたがたが知っているとおりに、彼は罪を除くために現れたのであって、彼にはなんらの罪がない。すべて彼におる者は、罪を犯さない。すべて罪を犯す者は彼をを見たこともなく、知ったこともない者である。」(ヨハネの第一の手紙 3 : 5、6)。これが本当の試験です。もし私たちがキリストにあり、神の愛が私たちの心に内住するならば、私たちの感情も、思想も、行動も、神の聖い掟にあらわされた神のみ心に調和するようになります。「子たちよ。だれにも惑わされてはならない。彼が義人であると同様に、義を行う者は義人である」(ヨハネの第一の手紙 3 : 7)。義とは、シナイ山で与えられた十戒にあらわされた神の聖い掟の標準によって定められるものです。

**(質問10) キリストに心を全て明け渡した私に必要な二つのものは何でしょう？**

ヤコブの手紙 2 : 17

信仰も、それと同様に、行いを伴わなければ、それだけでは死んだものである。

関連聖句

ヤコブの手紙 2 : 14、19、20、26

テサロニケ人への第一の手紙 1 : 3

テモテへの第一の手紙 1 : 5

ペテロの第二の手紙 1 : 5-9

ガラテヤ人への手紙 5 : 6

テサロニケ人への第二の手紙 1 : 11

エペソ人への手紙 2 : 8-10

キリストを信じれば神に服従する義務はないというのは、信仰ではなく、憶測です。「あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである」

(エペソ人への手紙 2 : 8)とされています。けれども、「信仰も、それと同様に、行いを伴わなければ、それだけでは死んだものである」(ヤコブの手紙 2 : 17)とも記されています。またイエスご自身も、この地上に来られる前に、「わが神よ、わたしはみこころを行うことを喜びます。あなたの起きてはわたしの心のうちにあります」(詩編 40 : 8)と言い、ふたたび天にお帰りになる直前には、「わたしがわたしの父のいましめを守ったので、その愛のうちにおる」(ヨハネによる福音書 15 : 10)とされました。聖書には、「もし、わたしたちが彼の戒めを守るならば、それによって彼を知っていることを悟るのである。……『彼におると』言う者は、彼が歩かれたように、その人自身も歩くべきである。」(ヨハネの第一の手紙 2 : 3、6)

**(質問 1 1) 私たちの信仰と人生の模範はどなたですか？**

ペテロの第一の手紙 2 : 21

あなたがたは、実に、そうするようにと召されたのである。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、御足の跡を踏み従うようにと、模範を残されたのである。

**関連聖句**

マタイによる福音書 10 : 38、39

詩篇 85 : 13

エペソ人への手紙 5 : 1、2

ピリピ人への手紙 2 : 4、5

ヨハネの第一の手紙 2 : 3-6 ;

3 : 16-18

ルカによる福音書 9 : 23-25

ヘブル人への手紙 12 : 1、2

**(質問 1 2) キリストが飢え渴く人に与えると約束しておられるものは何ですか？**

マタイによる福音書 5 : 6

義に飢えかわいている人たちは、さいわいである、  
彼らは飽き足りるようになるであろう。

#### 関連聖句

ピリピ人への手紙 1 : 6 ; 3 : 9、12-14  
箴言 15 : 9  
テモテへの第一の手紙 6 : 11  
テモテへの第二の手紙 2 : 22

永遠の命を受ける条件は、私たちの祖先が罪に陥る前、  
すなわちパラダイスにいたときとまったく同じであっ  
て、それは神の掟に完全に服従すること、つまり完全  
に義であることです。もし永遠の命がこの条件以下で  
与えられるものであるとすれば、全宇宙の幸福は危険  
にさらされ、罪の道が開けて、あらゆる災いと悲惨が  
永久に絶えないでしょう。

**（質問 13）** 神は私たちにどのような特権を与えてお  
られるでしょう？

ペテロの第二の手紙 1 : 4

また、それらのものによって、尊く、大いなる約束が、  
わたしたちに与えられている。それは、あなたがたが、  
世にある欲のために滅びることを免れ、神の性質にあ  
ずかる者となるためである。

#### 関連聖句

エゼキエル書 36 : 25-27  
コリント人への第二の手紙 3 : 18 ;  
6 : 17、18  
エペソ人への手紙 4 : 23、24  
ヘブル人への手紙 8 : 10-12 ;  
12 : 10  
ヨハネによる福音書 1 : 12、13  
コロサイ人への手紙 3 : 10

**（質問 14）** 私たちを義としてくださるキリストの血  
がもたらす二つの賜物は何ですか？

エペソ人への手紙 1 : 7

わたしたちは、御子にあって、神の豊かな恵みのゆえ  
に、その血によるあがない、すなわち、罪過のゆるし  
を受けたのである。

## 関連聖句

コロサイ人への手紙 1 : 14  
コリント人への第一の手紙 1 : 30  
ローマ人への手紙 3 : 24-26  
ヘブル人への手紙 9 : 12-15 ;  
10 : 16-19  
ペトロの第一の手紙 1 : 18、19  
ヨハネの第一の手紙 2 : 2 ; 4 : 10  
ヨハネの黙示録 5 : 9  
詩篇 130 : 7

罪に陥る前、アダムは神の掟に服従することによって、正しい品性をつくり上げることができましたが、彼はこれに失敗し、彼の罪のために、私たちは生まれながらにして罪ある者となり、自分の力で義となることができなくなりました。私たちは罪深く、汚れているので、聖い掟に完全に従うことができません。神の掟の要求に応じるほどの義を持ち合わせていません。けれどもキリストは、私たちのために逃れる道を備えてくださいました。キリストは、この地上で私たちが遭わなければならない試練と誘惑の真ただ中で生活し、罪のない生涯を送られました。そして、私たちのために死に、今や私たちの罪を取り除いて、彼の義を与えようとしておられます。もしあなた自身をキリストにささげ、キリストを救い主として受け入れるならば、あなたの人生がこれまでいかに罪深いものであっても、彼のゆえに義とみなされるのです。キリストの品性があなたの品性のかわりとなり、神の前にまったく罪を犯したことの無い者として受け入れられるのです。

**(質問 15) キリストによる生まれ変わりを経験した私たちは、どのようにしてキリストの内に留まり、成長することができるでしょう？**

ガラテヤ人への手紙 2 : 20  
生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。しかし、わたしがいま肉にあって生きているのは、わたしを愛し、わたしのためにご自身をささげられた神の御子を信じる信仰によって、生きているのである。

## 関連聖句

ローマ人への手紙 1 : 17 ; 5 : 2  
ペテロの第一の手紙 1 : 5-9  
コリント人への第二の手紙 1 :

24 ; 5 : 7

ヘブル人への手紙 12 : 2 ;

11 : 6

それだけではなく、キリストは私たちの心も変えてくださいます。信仰によって、キリストは私たちの心の中に住まわれます。こうして、信仰と、絶えずキリストにみずからの意志を従わせることによって、キリストとの関係を持続するのです。このようにする限り、キリストはあなたのうちに働いて、み旨に従って望み、行うことができるようにしてくださいます。そのときこそ、「生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。しかし、わたしがいま肉にあって生きているのは、わたしを愛し、わたしのためにご自身を捧げられた神の御子を信じる信仰によって、生きているのである。」（ガラテヤ人への手紙 2 : 20）とすることができます。ですから、キリストも弟子たちに、「語る者は、あなたがたではなく、あなたがたの中にある父の霊である。」（マタイによる福音書 10 : 20）と言われました。こうしてキリストが私たちのうちに働かれるならば、私たちはキリストと同じ精神をあらわし、同じわざ—正しい行為、つまり服従をするようになるのです。

ですから、私たち自身のうちには何ら誇るどころがなく、自己を賞揚する何の根拠もありません。私たちの唯一の希望は、キリストの義が私たちの義とみなされることであり、それは、私たちのうちに働き、私たちを通して働いてくださる聖霊の働きによる以外にはないのです。

**（質問16）聖書は「ただ信じること」と「信仰を持つ」ことはどのように違うと言っていますか？**

ヤコブの手紙 2 : 19

あなたは、神はただひとりであると信じているのか。それは結構である。悪霊どもでさえ、信じておののいている。

関連聖句

ヤコブの手紙 2 : 20

マタイによる福音書 8 : 29

ルカによる福音書 4 : 34

使徒行伝 19 : 15

ペテロの第一の手紙 1 : 5

私たちが信仰について語る時、信仰には区別があることを心にとめておかなければなりません。つまり、本当の信仰とはまったく違う信仰があるのです。神の存在とその力、またみ言葉が真理であることは、悪魔もその軍勢も否定できない事実として心の底で信じています。聖書には、「悪霊どもでさえ、信じておののいている」（ヤコブの手紙 2：19）とありますが、これは信仰ではありません。神のみ言葉を信じるだけではなく、神に意志を服従させ、心をささげ、愛情を注いでこそ、信仰があると言えるのであって、そうした信仰は愛によって働き、魂を清めるのです。この信仰によって、心は神のみかたちにつくり変えられます。人の心というものは、新たに再生されなければ神の律法に従わず、また従う力を持ちません。しかし、聖い掟を喜ぶときに、詩編記者とともに次のように言うことができます。「いかにわたしはあなたのおきてを愛することでしょう。わたしはひねもすこれを深く思います」（詩編 119：97）。そして、掟の義が、「肉ではなく霊に従って歩む」（ローマ人への手紙 8：1）私たちのうちに全うされるのです。

**（質問 17）キリストが私たちの品性を忍耐強く磨かれるのはいつまでですか？**

ピリピ人への手紙 1：6

そして、あなたがたのうちに良いわざを始められたかたが、キリスト・イエスの日までにそれを完成して下さるにちがいないと、確信している。

関連聖句

ヘブル人への手紙 12：2：

13：20、21

ピリピ人への手紙 2：13

詩篇 138：8

テサロニケ人への第一の手紙 5：23、24

ペテロの第一の手紙 5：10

コリント人への第一の手紙 1：8、9

コリント人への第二の手紙 9：8

世にはキリストのゆるしの愛を知り、本当に神の子になりたいと望んでいながら、自分の性格が不完全で、生活にあやまちが多いために、果たして自分の心が聖霊によって新しくされたのだろうかと思ふ人がいます。こうした場合に、決して失望、落胆してはなりません。私たちは何度となく、欠点やあやまちを悔いてイエス

の足もとに泣き伏すことでしょう。けれども、そのために失望してはなりません。たとえ敵に敗れても、神に捨てられ、拒まれたのではありません。

**（質問 18）** もし品性を築いている最中に罪に陥ったらそれで失敗でしょうか？ それとも素晴らしい約束が与えられているのでしょうか？

ヨハネの第一の手紙 2 : 1

わたしの子たちよ。これらのことを書きおくるのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためである。もし、罪を犯す者があれば、父のみもとには、わたしたちのために助け主、すなわち、義なるイエス・キリストがおられる。

関連聖句

ローマ人への手紙 8 : 3 4

テモテの第一の手紙 2 : 5

ヘブル人への手紙 7 : 2 4、2 5 ; 9 : 2 4

キリストは神の右に座し、私たちのために執り成しておられます。使徒ヨハネは、「わたしの子たちよ、これらのことを書きおくるのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためである。もし、罪を犯すものがあれば、父のみもとには、わたしたちのために助けぬし、すなわち、義なるイエス・キリストがおられる」（ヨハネの第一の手紙 2 : 1）と言いました。また、「父御自身が、あなたがたを愛しておいでになるからである」（ヨハネによる福音書 16 : 27）という、キリストのみ言葉も忘れてはなりません。神は、あなたをご自分のもとに取り戻し、みずからの純潔と聖潔をあなたのうちに反映したいと望んでおられます。ただ神に従いさえすれば、すでにあなたのうちに良いことを始められた神は、イエス・キリストの日までその働きを続けてくださるのです。ですから、もっと熱心に祈り、もっと深く信じましょう。自分の力に信頼できなくなったとき、あがない主の力を信じ、私たちを助けてくださる主を賛美しましょう。

**（質問 19）** 生まれ変わりの後、キリストにある成長の過程に入る時、何に気がつくでしょう？

イザヤ書 64 : 5

あなたは喜んで義を行い、あなたの道にあつて、あなたを記念する者を迎えられる。見よ、あなたは怒

られた、われわれは罪を犯した。われわれは久しく罪のうちにあった。われわれは救われるであろうか。

### 関連聖句

イザヤ書 53 : 6

伝道の書 7 : 20

ヨブ記 15 : 16

エペソ人への手紙 2 : 1-3

詩篇 51 : 5 ; 130 : 3

ローマ人への手紙 7 : 18、24 ; 3 : 23

ヨハネの第一の手紙 1 : 8

ヨハネによる福音書 15 : 5

自分の罪深さを悟らない人の心には、イエスに対する深い愛も宿りません。キリストの恵みによって作り変えられた魂は、キリストの清い品性をほめたたえます。しかし、もし私たちが自分の道徳的欠陥を知らないとすれば、それは、キリストの美しく優れた品性をまだ見たことがないという明らかな証拠です。

自分が無価値なことを悟れば悟るほど、救い主の限りない純潔とうるわしさがわかってきます。自分の罪深いことを知って、ゆるしを与えられる救い主のもとに走り寄り、魂の力なさを悟ってキリストに手を伸べます。すると、キリストはご自身の力をあらわしてください。必要に迫られ、キリストと神のみ言葉に近づけば近づくほど、私たちはキリストの品性をもっとよく知るようになり、そのみかたちを一層反映するようになるのです。

私は神の恵みによってキリストを私の主として受け入れ、主の歩まれた道に従う決心をします。

私のうちに聖霊の実が結ばれて私の信仰と行いが、清く正しいキリストの品性を写し出すように祈ります。

( ) はい ( ) まだ分かりません。

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---



## 第9課

# キリストに向かっての成長

(質問1) キリストにあって新しく生まれたばかりの者として、キリストとのつながりを成長させるために私たちは何を望むべきでしょうか？

ペテロの第一の手紙 2 : 2

今生れたばかりの乳飲み子のように、混じりけのない霊の乳を慕い求めなさい。それによっておい育ち、救いに入るようになるためである。

### 関連聖句

ペテロの第一の手紙 1 : 2 3

詩篇 19 : 7

コリント人への第一の手紙 3 : 1、2

ヘブル人への手紙 5 : 1 2、1 3

心が変わり神の子となることを、聖書では生まれると言います。また、農夫のまいた良い種が芽を出すこ

とにもたとえられています。同様に、悔い改めてキリストを信じ始めたばかりの者も、「今生まれたばかりの乳飲み子」（ペテロの第一の手紙 2：2）として「成長し」（エペソ人への手紙 4：15）、キリスト・イエスにある完全な人にまで成長しなければなりません。あるいは、畑にまかれた良い種のように生長して実を結ばなければなりません。イザヤは、「こうして、彼らは義のかしの木ととなえられ、主がその栄光をあらわすために植えられた者となえられる」

（イザヤ書 61：3）と言っています。こうして自然界のいろいろな例があげられることで、私たちは霊的生活の不思議な真理をより理解できるのです。

人間がどんなに知恵と技巧を注いでも、自然界のいちばん小さなものの中にさえ、生命をつくり出すことはできません。植物にせよ、動物にせよ、生きることができるのは、ただ神が与えられた命によるのです。同じように、神から出る命によってのみ、霊的生命が人の心のうちに生まれます。人は「新しく生まれ」（ヨハネによる福音書 3：3）ない限り、命を受けることができません。キリストはその命を与えるために、この世界に降られたのです。

**（質問2）なぜ私たちは自分の力で霊的な成長ができないのでしょうか？**

コリント人への第一の手紙 2：14

生れながらの人は、神の御霊の賜物を受けいれない。それは彼には愚かなものだからである。また、御霊によって判断されるべきであるから、彼はそれを理解することができない。

関連聖句

コリント人への第一の手紙

1：18、23、25、27

マタイによる福音書 13：11

ヨハネによる福音書 3：6

ローマ人への手紙 8：5-8

命と同様に、成長に関してもそうです。つぼみから花を開かせ、実を結ばせるのは神です。種が生長し、「初めに芽、つぎに穂、つぎに穂の中に豊かな実ができる」（マルコによる福音書 4：28）のは、神の力によるのです。預言者ホセアはイスラエルについて、「彼はゆりのように花咲き……園のように栄え、ぶどうの木のように花咲き」（ホセア書 14：5、7）

と言っています。またイエスも、「野の花のことを考えて見るがよい」（ルカによる福音書 12：27）と私たちに言われました。木や花は、みずから思いわずらったり、努力して生長したりするのではなく、神が与えるものによって命を支えられ、生長します。子どもは、どんなに思いわずらい、どんなに努力しても、身長を伸ばすことができません。私たちもまったくこれと同じで、心づかいや自分の努力では霊的に成長できないのです。

（質問3）次の二つの聖句は、植物が成長するのに必要な二つの要素をたとえとして、私たちの霊的な成長に及ぼす主の影響を、象徴的に描写しています。この二つの要素は何でしょう？

詩篇 84：11

主なる神は日です、盾です。主は恵みと誉とを与え、直く歩む者に良い物を拒まれることはありません。

ホセア書 14：5

わたしはイスラエルに対しては露のようになる。彼はゆりのように花咲き、ポプラのように根を張り、

関連聖句

マラキ書 4：2

ミカ書 5：7

ヨハネによる福音書 1：9-12； 8：12

ヨハネの黙示録 21：23； 22：17

植物も、子どもたちも、周囲のものから命を支えるもの、すなわち空気、日光、食物などを受けて成長します。動物や植物にとって自然の賜物が必要なように、キリストに頼る者にはキリストが必要です。キリストは、彼らの「とこしえの光」（イザヤ書 60：19）、「刈り取った牧草の上にふる雨のごとく」（詩編 72：6）彼は生ける水です。「神のパンは、天から下ってきて、この世に命を与える」（ヨハネによる福音書 6：33）のです。

神は、み子という比べることのできない賜物を与えて、ちょうど空気が地球のまわりを取り巻いているように、恵みという大気で全世界を包まれました。この命を与える空気を吸いたいと望む者は、だれでも生きることができ、キリストにある完全な人となることができるのです。

ちょうど花が輝かしい光線の助けを借り、美しく咲こうとして太陽に向かうように、私たちも義の太陽を仰いで天の光に照らされ、私たちの品性がキリストのかたちに似るまで成長しなければなりません。

**（質問4） どうすれば私たちはキリストのうちに成長し、良い実を結ぶことができるでしょう？**

ヨハネによる福音書 15 : 5

わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人につながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。

関連聖句

ヨハネによる福音書 15 : 4-7

コロサイ人への手紙 2 : 6

ローマ人への手紙 6 : 22

詩篇 91 : 1

ヨハネによる福音書 14 : 16

「わたしにつながっていないさい。そうすれば、わたしはあなたがたとつながってしよう。枝がぶどうの木につながっていないければ、自分だけでは実を結ぶことができないように、あなたがたもわたしにつながっていないければ実を結ぶとができない。……わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである」

（ヨハネによる福音書 15 : 4、5）とのイエスのみ言葉は、これと同じことを教えています。木の枝が生長して実を結ぶには、その幹に連なっていないければならないのと同様に、清い生涯を送るには、キリストに頼らなければなりません。キリストを離れては、命も、誘惑を退ける力も、恵みと聖さに成長する力もありません。

しかし彼のもとにいれば、栄えるのです。キリストから命を受けるのですから、しぼむこともなければ、実を結ばないこともなく、川のほとりに植えられた木のように茂ります。

**（質問5） 私たちの信仰の源はどなたでしょう？ そして私たちがクリスチャンとして歩む過程で信仰はどのようにして成長するでしょう？**

ヘブル人への手紙 12 : 2

信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ、走ろうではないか。彼は、自分の前におかれている喜びのゆえに、恥をもちとわないで十字架を忍び、神の御座の右に座するに至ったのである。

#### 関連聖句

エペソ人への手紙 2 : 8

ルカによる福音書 17 : 5

ミカ書 7 ; 7

ヘブル人への手紙 2 : 10

イザヤ書 8 : 17 ; 45 : 22

さて、何か自分だけでしなければならないことがあると考えている人がたくさんいます。彼らはキリストに頼って罪のゆるしを得ていながら、正しい生活を自分の力で送ろうとするのです。しかし、そうした努力はすべて失敗に終わります。イエスは、「わたしを離れては、あなたがたは何もできない」と言われます。恵みに成長することも、私たちの喜びも、人のために役立つこともみな、キリストと一つになるか否かにかかっています。恵みに成長するのは、毎日、毎時、彼と交わり、彼のうちにとどまることによります。キリストは私たちの信仰の創始者であると同時に、信仰の完成者です。キリストは初めであり、終わりであり、常におられる方です。ですから、私たちの旅路の初めと終わりだけではなく、その道すがら一歩ごとに、キリストに同行していただくなくてはなりません。ダビデは、「わたしは常に主をわたしの前に置く。主がわたしの右にいますゆえ、わたしは動かされることはない」（詩編 16 : 8）と言いました。

**（質問6） どうすれば私たちはキリストにつながっていることができるでしょう？**

コロサイ人への手紙 2 : 6、7

このように、あなたがたは主キリスト・イエスを受け入れたのだから、彼にあって歩きなさい。また、彼に根ざし、彼にあって建てられ、そして教えられたように、信仰が確立されて、あふれるばかり感謝しなさい。

#### 関連聖句

コロサイ人への手紙 1 : 29

ヨハネの第一の手紙 5 : 11、12、20

ヨハネによる福音書 14 : 6

それは最初に主を受け入れたときと同じようにしたらよいのです。「わが義人は、信仰によって生きる」

(ヘブル人への手紙 10 : 38) とあります。あなたは自分を神にささげ、完全に神のものとなり、神に仕え、神に従い、キリストをあなたの救い主として受け入れたのです。あなたは、自分では自己の罪をあがなうことも、心を変えることもできませんでした。しかし、神に自己をささげ、神がこれをすべてキリストのゆえになされたと信じたのです。信仰によってキリストのものとなったのですから、信仰によってキリストのうちに成長するのです。これは、こちらからも与え、神からも受けることです。自分の心も、意志も、奉仕も、すべてを神にささげ、神のご要求にことごとく従わなくてはなりません。そして、服従する力を受けるには、あらゆる祝福に満ちあふれるキリストを心に宿し、キリストをあなたの力、義、永遠の助けとして受けなければなりません。

**(質問7) なぜ毎朝一番に主と交わり、主の知恵を求めることが大切なのでしょう？**

箴言 8 : 17

わたしは、わたしを愛する者を愛する、 わたしをせつに求める者は、わたしに出会う。

関連聖句

詩篇 143 : 8-10 ; 91 : 14-16

コリント人への第二の手紙 3 : 18

マタイによる福音書 5 : 6 ;

6 : 33 ; 7 : 7-11

毎朝、神に自己をささげ、これを最初の務めとして、次のように祈りましょう。「主よ、僕を完全にあなたのものでしてお受け入れください。私のすべての計画をあなたのみ前に置きます。どうか、僕を今日もあなたの働きのために用いてください。どうか、私とともにいて、すべてのことをあなたにあってなさせてください」と。これは毎日のことです。毎朝、その日一日神に献身して、すべての計画を彼にお任せし、摂理のままに実行するなり、中止するなりするのです。こうして、日ごとに生活を神のみ手にゆだねるとき、次第にあなたの生涯がキリストの生涯に似てくるのです。

## (質問8) 心に平安を保つ方法は何でしょう？

イザヤ書 26 : 3、4

あなたは全き平安をもって ころざしの堅固なものを守られる。 彼はあなたに信頼しているからである。 とこしえに主に信頼せよ、 主なる神はとこしえの岩だからである。

コリント人への第二の手紙 3 : 18

わたしたちはみな、顔おおいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つつ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。これは霊なる主の働きによるのである。

### 関連聖句

ローマ人への手紙 5 : 1

イザヤ書 57 : 19-21

ヨハネによる福音書 14 : 27 ; 17 : 3

エペソ人への手紙 2 : 14-16

キリストにある生活は平和な生活です。感情の興奮はないかもしれませんが、いつも変わらぬ安らかな信頼のある生活です。自分に望みがあるのではなく、キリストに望みがあるからです。自分の弱さはキリストの力に、無知はキリストの知恵に、もろさはキリストの辛抱強さと一つになります。すると私たちは、自分をながめて自分のことばかり考えないで、キリストをながめるようになるのです。キリストの愛を瞑想し、その性格の美しさ、完全さを心にとめて考えましょう。キリストの自己犠牲、キリストのへりくだり、キリストの純潔と聖さ、またその比べることができない愛を、魂の瞑想課題としましょう。キリストを愛し、キリストにならい、まったくキリストに頼ってこそ、私たちはキリストのみかたちに変えられるのです。

## (質問9) キリストは全ての人にどんな招きをお与えになりましたか？

マタイによる福音書 11 : 28

すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。

### 関連聖句

マタイによる福音書 11 : 29

エレミヤ書 6 : 16

イザヤ書 28 : 10-12 ;  
48 : 17、18  
詩篇 94 : 11-13 ; 116 : 7-9  
ヨハネの黙示録 22 : 17  
ヘブル人への手紙 4 : 1-9  
ヨハネによる福音書 6 : 37 ;  
7 : 37、38

イエスは、「わたしにつながっていなさい」と言われました。この言葉は、休み、安定、信頼という意味を含んでいます。また、イエスは私たちを招いて、「わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう」（マタイによる福音書 11 : 28）と言われました。詩編記者は同じ思想を、「主の前にもだし、耐え忍びて主を待ち望め」（詩編 37 : 7）と言っています。またイザヤも、「穏やかにして信頼しているならば力を得る」（イザヤ書 30 : 15）と言いました。この休みは、何もしない状態の中で得られるものではありません。というのは、救い主の休みの約束への招待は、働きに対する召しも伴っているからです。「わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう」（マタイによる福音書 11 : 29）。キリストにあって真に休息できる心は、最も熱心に、活動的に、キリストのために働くのです。

**（質問10）キリストとの一致と交わりから私たちを引き離そうとするサタンの三つの手段は何でしょう？**

マルコによる福音書 4 : 19  
世の心づかいと、富の惑わしと、その他いろいろな欲とがはいつてきて、御言をふさぐので、実を結ばなくなる。

#### 関連聖句

テモテへの第一の手紙 6 : 9、10、17  
ヨハネの第一の手紙 2 : 15-17  
ルカによる福音書 14 : 18-20 ;  
21 : 34-36

自己のことを考えていると、心は、力と命の源であるキリストから離れていきます。そして悪魔は、人の心を救い主からそらそうと絶えず努力して、キリストとの一致と交わりを妨げようとするのです。世の快樂、生活上の心配事、悩み、悲しみ、他人の欠点、または自分の欠点や不完全さ、こうしたもののすべて、また

はそのどれかに私たちの心を引こうと、悪魔は必死になっています。悪魔の策略に迷わされてはなりません。

**(質問 1 1) どのようにして私たちは永遠の命を得たことの確心を持って平安のうちに過ごせるでしょう？**

ヨハネの第一の手紙 5 : 1 2、1 3

御子を持つ者はいのちを持ち、神の御子を持たない者はいのちを持っていない。

これらのことをあなたがたに書きおくれたのは、神の子の御名を信じるあなたがたに、永遠のいのちを持っていることを、悟らせるためである。

関連聖句

ヨハネの第二の手紙 9

ヨハネによる福音書 1 7 : 2 ;

3 : 1 6-1 8 ; 1 0 : 2 8、

2 9 ; 1 : 1 2 ; 6 : 5 4-

5 8 ; 1 5 : 4-6

イザヤ書 4 1 : 1 0

本当に良心的で、神のために生きたいと望んでいる人々にさえ、悪魔は、自己の欠点や弱さのことばかり考えさせ、そうしてキリストから離し、ついには勝利を得ようと願っています。私たちは自己を中心に考えて、果たして自分は救われるだろうかと心配したり、恐れたりしてはなりません。これはみな、私たちの心を力の源である救い主から離してしまいます。魂をまったく神にゆだねて神を信頼し、イエスのことを語り、考え、自己をキリストのうちに消失させてしまわなければなりません。すべての疑惑を捨て、恐怖を退け、使徒パウロとともに、「生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。しかし、わたしがいま肉にあって生きているのは、わたしを愛し、わたしのためにご自身をささげられた神の御子を信じる信仰によって、生きているのである」(ガラテヤ人への手紙 2 : 2 0) と言いましょ。神を信じて平安でいまいしょ。神は、こうして自分を託す者を必ず守ってくださいます。もし神のみ手に自己を任せるならば、あなたを愛される神は、あなたを勝利者にしてくださるのです。

**(質問 1 2) 一度神の義を受けた後、罪の道に戻る人はどうなるでしょう？**

エゼキエル書 18 : 24

しかし義人がもしその義を離れて悪を行い、悪人のなすもろもろの憎むべき事を行うならば、生きるであろうか。彼が行ったもろもろの正しい事は覚えられない。彼はその犯したとがと、その犯した罪とのために死ぬ。

### 関連聖句

エゼキエル書 18 : 20-23 ;

3 : 20、21 ; 33 : 12-19

サムエル記上 15 : 11

詩篇 125 : 4、5

ペテロの第二の手紙 2 : 20-22 ;

1 : 10

ヘブル人への手紙 10 : 29、38、39 ;

6 : 4-6

キリストは人性をお取りになったとき、愛のきずなで人類をご自身に結びつけられました。このきずなは、人間が故意に離れない限り、どんな力でも切り離すことのできないものですが（ヘブル人への手紙 10 : 29 ; 箴言 28 : 18）、悪魔は常にこのきずなを断ち切ろうとして、私たちがみずから進んでキリストから離れるように誘惑してきます。

そこで私たちは、ほかの主を選ぶという誘いに陥らないように警戒し、努力して祈る必要があります。どちらを選ぶのも常に自由です。キリストから目を離さない限り、キリストは私たちを守ってくださいます。イエスをながめていれば、私たちは安全であって、何者もイエスのみ手のうちから私たちを奪うことはできません。常にイエスをながめることによって、私たちは「主の栄光を鏡に映すように見つ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく」（コリント人への第二の手紙・3 : 18）のです。

**（質問 13）**キリストの招きに応じる時、どのようにしてキリストに会うことができるでしょう？

エレミヤ書 29 : 13

あなたがたはわたしを尋ね求めて、わたしに会う。もしあなたがたが一心にわたしを尋ね求めるならば、

### 関連聖句

エレミヤ書 29 : 11-14

申命記 4 : 29-31 ; 30 : 2-6

イザヤ書 55 : 6、7

初期の弟子たちが愛する救い主に似るようになったのも、こうした方法によってでした。弟子たちはイエスのみ言葉を聞いて、自分たちはイエスを必要としていると感じたので、まず求め、見だし、ついにはイエスに従ったのです。彼らは、家の中でも、食卓でも、密室でも、野外でも、いつも主とともにいました。ちょうど教師と生徒が一緒にいるように、毎日主のくちびるから聖なる真理を学びました。また彼らは、僕が主人に仕えて職務を学ぶように、主を仰いだのでした。これらの弟子たちも、「わたしたちと同じ人間」（ヤコブの手紙 5：17）であって、彼らも罪に対して、私たちと同じように戦わなければなりません。清い生活を送るには、彼らも同じ恵みを必要としたのです。

（質問 14）次の聖句は、聖人たちも私たちと同じように誘惑と闘わなければならなかったことをどのように示していますか？

ローマ人への手紙 7：19

すなわち、わたしの欲している善はしないで、欲していない悪は、これを行っている。

関連聖句

ガラテヤ人への手紙 5：17

ヤコブの手紙 5：17

詩篇 119：5

ピリピ人への手紙 2：13；1：6

救い主のみかたちをいちばんよく反映したといわれる、愛された使徒ヨハネでさえ、美しい性格を生まれつき持っていたわけではありません。彼は差し出がましく、名誉心の強い人でした。そればかりではなく、血気にはやって、何か害でも受けるとすぐに怒りました。けれども、聖いキリストの性格を見せられたとき、彼は自分の欠点を知り、謙遜になりました。神のみ子の日常生活に接して、力強さと忍耐深さ、権威と優しさ、犯しがたい尊厳と謙遜というその姿をながめ、彼の魂は賞賛と愛で満たされました。日一日と、彼の心はキリストに引きつけられ、ついには主を愛するあまり自分を忘れてしまいました。怒りやすい、野心満々たる彼の気質は、キリストの感化力に屈服し、聖霊の更生力が彼の心を新しくしました。つまり、キリストの愛の力がヨハネの性格を一変させたのです。これは、イエスと一つになった確かな証拠です。キリストが心のうちに住まわれるとき、性格全体が変化し、キリストの

霊、キリストの愛が心を和らげ、魂を制御し、思想や欲求を神と天に向けるのです。

**(質問 15) 昇天された時、どんな慰めの約束をキリストは従う者たちに残されましたか？**

マタイによる福音書 28 : 20

あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」。

関連聖句

ヨハネによる福音書 14 : 3、

12、16、18、26

ルカによる福音書 24 : 50、51

イザヤ書 41 : 10、13

キリストが昇天されたときも、主はなおともにおられるという確信を弟子たちは持ちました。それは、愛と光に満ちた個人的存在としてでした。弟子たちとともに歩み、語り、祈り、彼らの心に希望と慰めを与えられた救い主イエスは、平和の言葉を語りながら彼らを離れて天に上げられました。そして、天使の群れがイエスを受け止めたとき、弟子たちに聞こえたのは、「見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいる」(マタイによる福音書 28 : 20) という救い主のみ言葉でした。イエスは人のかたちのまま昇天なさいました。弟子たちは、イエスが神のみ座の前にあっても、なお彼らの友であり、救い主であること、その思いやりが変わらないこと、主が苦しむ人類と今も一体であられることを知っていました。イエスは、あがなわれた者たちのために支払われた価を思い出させる傷ついた手足を示して、ご自分の尊い血の功績を神に差し出されるのです。弟子たちは、イエスが場所を用意するために天に昇られたこと、そしてふたたび来て、自分たちを受け入れてくださるということも知っていました。

**(質問 16) どのようにしてイエスは常に従う者の心の中にいることができるでしょう？**

ヨハネによる福音書 14 : 16

わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。

## 関連聖句

ヨハネによる福音書 14 : 17、23 ; 1  
6 : 7-11 ; 15 : 26  
ローマ人への手紙 8 : 14-16

主の昇天後、彼らは集まって、イエスのみ名によって天の父に熱心に願いをささげました。厳粛なうやうやしい気持ちをもって頭をたれ、確証の言葉をくり返しながら祈りました——「あなたがたが父に求めるものはなんでも、わたしの名によって下さるであろう。今までは、あなたがたはわたしの名によって求めたことはなかった。求めなさい、そうすれば、与えられるであろう。そして、あなたがたの喜びが満ちあふれるであろう」（ヨハネによる福音書 16 : 23、24）。また、「キリスト・イエスは、死んで、否、よみがえって、神のみぎに座し、また、わたしたちのためにとりなしてくださるのである」（ローマ人への手紙 8 : 34）という確かなあかしをもって、彼らは信仰の手を高く高く伸ばしたのです。こうしてキリストが、「あなたがたのうちにいる」（ヨハネによる福音書 14 : 17）と言われた慰め主なる聖霊が、五旬祭のときに与えられました。キリストは、「わたしが去って行くことは、あなたがたの益になるのだ。わたしが去って行かなければ、あなたがたのところに助け主はこないであろう。もし行けば、それをあなたがたにつかわそう」（ヨハネによる福音書 16 : 7）と言われましたが、それ以来、キリストは聖霊を通して常にその子らの心のうちに住まわれるのです。こうして彼らは、この地上に主がおられたときより一層近く主と一つになることができたのです。内住するキリストの光、愛、そして力が弟子たちから輝き出たので、人々は「不思議に思った。そして彼らがイエスを共にいた者であること」（使徒行伝 4 : 13）を知るようになったのでした。

**（質問 17）弟子たちのために祈られた時、イエスは他にだれのために祈られましたか？**

ヨハネによる福音書 17 : 20  
わたしは彼らのためばかりではなく、彼らの言葉を聞いてわたしを信じている人々のためにも、お願いいたします。

## 関連聖句

ヨハネによる福音書 17 : 9 ; 16 : 26

ヘブル人への手紙 7 : 25 ; 9 : 24

ヨハネの第一の手紙 2 : 1、2

キリストは、最初の弟子たちに対してなされた同じことを、今日もその子らになそうと望んでおられます。イエスは、私たちのためにも祈り、ご自身が天の父と一つであられたように、私たちも天の父と一つになれるようお願いになりました。これはなんと尊い一致でしょう。救い主もご自身について、「子は……自分からは何事もすることができない」（ヨハネによる福音書 5 : 19）、「父がわたしのうちにおられて、みわざをなさっているのである」（ヨハネによる福音書 14 : 10）と言われました。

（質問 18）日々私たちがキリストにつながっており、キリストと共に愛を持って人々に真理を分かち合う働きをするなら、どのような結果になるでしょう？

エペソ人への手紙 4 : 15

愛にあって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達するのである。

関連聖句

ペテロの第一の手紙 1 : 22 ; 2 : 2

ヨハネによる福音書 15 : 5

ヨハネの第一の手紙 3 : 18、19、22

箴言 11 : 25

もしキリストが私たちの心のうちに住んでおられるならば、キリストは私たちのうちに働いて、「その願いを起こさせ、かつ実現に至らせ」（ピリピ人への手紙 2 : 13）てくださるのです。キリストがお働きになったように私たちも働き、その同じ精神をあらわすようになります。こうしてキリストを愛し、キリストのうちにあって、私たちは「あらゆる面で、頭であるキリストに向かって成長」するようになるのです。

キリストのもとにくる時、私は生涯を通して神が私の内に働かれる成長の過程に踏み出したということがわかりました。

（ ）はい （ ） まだ分かりません。





## 第 10 課

# 人生と活動

(質問 1) イエスは私たちにどんな天の原則に従うように求めておられますか？

ヨハネによる福音書 13 ; 34

わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える、互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。

### 関連聖句

ヨハネの第一の手紙 4 : 7-

12、16、21 ; 2 : 8-10 ;

3 : 14-18、23

ヨハネの第二の手紙 1 : 5、6

ヨハネによる福音書 15 : 12、13、17

レビ記 19 : 18、34

ローマ人への手紙 12 : 10

エペソ人への手紙 5 : 2

ヤコブの手紙 2 : 8

ペテロの第一の手紙 1 : 22

神は宇宙の命であり、光であり、喜びの源です。ちょうど太陽の光のように、また泉からわき出る水の流れのように、祝福が神からすべてのつくられたものに流れ出ます。そして、神の命が人の心のうちに宿っていれば、どこであっても、それは愛となり、祝福となつてほかの人に流れていきます。

私たちの救い主は、墮落した人間を向上させてあがなうことを喜ばれます。そうであればこそ、彼はご自分の命を惜しまず、十字架をしのび、恥をもいとわれませんでした。天使たちもまた、他者の幸福のために働き、これを喜びとしています。利己的な人々は、不運な人々、また性格や階級が劣った人々のために働くことは恥であると思っていますが、そのような仕事を罪のない天使たちがしているのです。天に満ちあふれているのは、キリストの自己犠牲的愛の精神です。これこそ、天国の幸福の本質ともいうべきものであって、キリストに従う者が持たなければならない精神であり、しなければならない働きなのです。

キリストの愛が心のうちに宿るとき、それはかぐわしいかおりのように隠すことができません。その清い感化は、この人に接するすべての人に感じられます。心のうちにキリストの精神が宿っていれば、それは砂漠の泉のように流れ出てすべてをうるおし、今にも死にそうな人に命の水を飲ませます。

**(質問2) なぜイエスはこの世に来られたのでしょうか？**

マタイによる福音書 20 : 28

それは、人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人をあがないとして、自分の命を与えるためであるのと、ちょうど同じである」。

**関連聖句**

ルカによる福音書 22 : 27 ;

5 : 31、32

イザヤ書 61 : 1-3 ; 53 : 4、5

ピリピ人への手紙 2 : 4-8

詩篇 146 : 7-9

エペソ人への手紙 5 : 2

ヘブル人への手紙 9 : 28

イエスを愛するならば、人類の祝福と向上のために、イエスが働かれたように働きたいと望むようになります。そして、天の父の保護のもとにあるすべてのつくられたものを優しく愛し、同情するようになります。地上における救い主の生涯は、安楽な自己中心の生活ではありませんでした。彼は根気強く、熱心に、失われた人類の救いのために労されました。かいばおけからカルバリーに至るまで、彼は自己犠牲の道をたどり、至難なわざや困難な旅など、いかなる労苦をも避けようとなさいませんでした。「人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また、多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためである」（マタイによる福音書二〇章二八節）と、彼は言われました。これがその生涯の大きな目的であり、そのほかのことは第二義的なもの、付随的なものでした。神のみ心をなし、神のみわざを成し遂げることは、救い主の食物でした。彼の働きのうちには、私心とか私欲とかは、まったく見られませんでした。

**（質問3）** パプテスマのヨハネのようにキリストの恵みにあずかる者となる時、聖霊は私たちがどのような証を宣言するように導かれるでしょう？

ヨハネによる福音書 1 : 29

その翌日、ヨハネはイエスが自分の方にこられるのを見て言った、「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。

#### 関連聖句

ペテロの第一の手紙

1 : 19、20

ヨハネの黙示録 5 : 12、13 ; 13 : 8

ガラテヤ人への手紙 1 : 4

ヨハネの第一の手紙 2 : 2 ;

3 : 5 ; 4 : 10

イザヤ書 53 : 5-7

そのように、キリストの恵みにあずかった人々は、喜んでどんな犠牲をも払い、キリストが命をお与えになったほかの人々も天の賜物を受けることができるようにします。彼らは最善を尽くして、この世を少しでも住み良い場所にします。真に悔い改めた者の心には、必ずこうした精神が見られるようになるのです。人は、ひとたびキリストのもとに来るや否や、イエスがいか

に尊い友であるかをほかの人に知らせたいと望みます。人を救い、清める真理は、どうしても心のうちに秘めておくことができません。私たちがキリストの義の衣をまとい、内住する聖霊の喜びで満たされているならば、黙っていることはできないはずです。もし主の恵みを味わい悟ることができたならば、何か言いたくなるものです。フィリポが救い主を見いだしたときのように、ほかの人々を主のみ前に誘わずにはいられなくなるでしょう。そして、彼らにキリストの美と、世界の見えない現実について話したいと思うでしょう。また、イエスがたどられた道を歩みたいと熱心に願い、周囲の人々に「世の罪を取り除く神の小羊」を仰がせたいと切望するようになるでしょう。

**（質問4）人のために無欲の働きをするとどんな結果になるでしょう？**

箴言 11 : 25

物惜しみしない者は富み、人を潤す者は自分も潤される。

関連聖句

箴言 28 : 27

イザヤ書 58 : 7-11

ヨブ記 29 : 13-17

マタイによる福音書 5 : 7 ;

25 : 34-36

コリント人への第二の手紙 9 : 6-13

他人を祝福しようとする努力は、かえって自分自身の祝福となって戻ってきます。神が私たちをあがない、計画の一部に携わらせてくださるのは、このためです。神は、人に神の性質を持つ特権をお与えになりましたが、これはほかの人に祝福を分かたためです。これは、神が人類にお与えになることのできる最高の栄誉、最大の喜びです。こうして愛の働きの共労者となる者は、創造主の最も近くにいるのです。

神は、福音宣伝の働きをはじめ、すべての愛の奉仕の働きを天使にお任せになることもできました。また、別の方法によって目的を達成なさることもできました。しかし、神は限りない愛をもって、神、キリスト、天使とともに働く者として私たちを選び、自己を忘れて働くことから来る祝福、喜び、霊的向上に私たちをあずかせてくださったのです。

(質問5) キリストはどのような自己犠牲の模範を示されましたか？

コリント人への第二の手紙 8 : 9

あなたがたは、わたしたちの主イエス・キリストの恵みを知っている。すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられた。それは、あなたがたが、彼の貧しさによって富む者になるためである。

関連聖句

ペテロの第一の手紙 2 : 21

ピリピ人への手紙 2 : 6-8

マルコによる福音書 10 : 44、45

ヨハネによる福音書 13 : 3-5

テモテへの第一の手紙 6 : 17-19

ヤコブの手紙 2 : 5

ヘブル人への手紙 2 : 9-18

マタイによる福音書 6 : 33

私たちはキリストと苦しみをともにすることによって、キリストと一つになります。他人の幸福のためになされる自己犠牲の行為は、その行為をなす者たちの心を一層情け深くし、「主は豊かであったのに、あなたがたのために貧しくなられた。それは、主の貧しさによって、あなたがたが豊かになるためだったのです」

(コリントの信徒への手紙二・八章九節)と記されている世のあがない主に一層近く結びつけます。こうして、私たちを創造された神の目的を果たすときに初めて、生きていることが私たちの祝福となるのです。

もしキリストが弟子たちに望まれたように働き、主に魂を導こうとするならば、私たちは神についてさらに深い経験とさらに広い知識の必要を感じ、飢え渴くように義を慕うようになります。こうして神に求めるならば、信仰は強められ、魂は救いの泉から思う存分飲むことができます。反対や試練に遭えば、かえって聖書に親しみ、祈るようになり、ますます恵みとキリストの知識に成長し、豊かな経験に導かれるのです。

(質問6) わたしたちが周りの人たちに手を差し伸べたいという願望を与えてくれるのはどなたでしょう？

ピリピ人への手紙 2 : 13

あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである。

#### 関連聖句

ヘブルへの手紙 13 : 20、21

歴代誌下 30 : 12

イザヤ書 26 : 12

エレミヤ書 31 : 33

ヨハネによる福音書 3 : 27

列王記上 8 : 58

テサロニケ人への第二の手紙 1 : 11、12

テモテへの第二の手紙 1 : 9

**(質問7) 人のために自己犠牲の働きをする人にはどのような祝福があるでしょう？**

イザヤ書 58 : 10、11

飢えた者にあなたのパンを施し、苦しむ者の願いを満ち足らせるならば、あなたの光は暗きに輝き、あなたのやみは真昼のようになる。

主は常にあなたを導き、良き物をもってあなたの願いを満ち足らせ、あなたの骨を強くされる。あなたは潤った園のように、水の絶えない泉のようになる。

#### 関連聖句

詩篇 41 : 1-3 ;

112 : 4-9

申命記 15 : 7-10

箴言 11 : 24、25 ;

14 : 31 ; 28 : 27

マタイによる福音書 10 : 39

自己を忘れて他人のために働く精神は、その人の性格に深さと落ち着き、キリストのようなるわしさを加え、平和と幸福をもたらします。彼の抱負は高められ、怠惰とか利己心の余地はなくなります。こうしてクリスチャンの美德を実行する人は、成長し、強くなり、神のために働きます。彼らは霊的なことをはっきりと理解するようになり、動揺することなく、信仰に成長し、祈りにおいて力を増します。神の霊が人の心に触れて働くと、心はそれに応えて清い調べをかなでます。このように、他人の益のために我を忘れて働く者は、必ず自分の救いを全うするのです。

**（質問8）聖霊が祝福し、私たちの霊的な成長に最も結びつく方法は何でしょう？**

ヤコブの手紙 1：25

これに反して、完全な自由の律法を一心に見つめてたゆまない人は、聞いて忘れてしまう人ではなくて、実際に行う人である。こういう人は、その行いによって祝福される。

**関連聖句**

ヤコブの手紙 2：12

ルカによる福音書 6：49； 11：28

ヨハネによる福音書 8：31；

13：17； 15：9、10

ローマ人への手紙 11：22

テモテへの第一の手紙 4：16

詩篇 119：2、3

コリント人への第一の手紙 15：58

ヨハネの黙示録 22：14

恵みに成長するただ一つの方法は、キリストがお命じになった働きを自己を忘れてすることであり、助けを必要としている人に、私たちの力の及ぶ限り、助けと祝福を与えることです。力は使えば出てきます。生きるには活動しなければなりません。恵みによって与えられる祝福を受動的に受け、キリストのために何もしないでいながら、クリスチャンの命を保とうと努力している人は、働かずに食べるばかりで生きようとしているのと同じです。自然界と同じように霊界でも、これでは衰えるしかありません。手足を使わないでいれば、やがて手足を動かす力を失ってしまいます。それと同様に、神がお与えになった力を使わないクリスチャンは、キリストにまで成長しないばかりではなく、すでに持っていた力さえ失ってしまうのです。

**（質問9）キリストは教会にどのような使命を与えられましたか？**

マタイによる福音書 28：19、20

それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」。

## 関連聖句

使徒行伝 1 : 8 ; 26 : 16-18 ; 2  
2 : 14、15  
イザヤ書 49 : 6、22 ; 52 : 10  
マルコによる福音書 16 : 15-18  
ルカによる福音書 24 : 47、48  
マタイによる福音書 5 : 13-16 ;  
24 : 14

キリストの教会は、人類の救いのために神がお定めになった機関であって、世界に福音を伝えることがその使命です。そして、その義務はクリスチャン一人ひとりの肩に負わせられていて、だれもが、その力と機会に応じて、救い主のご命令を全うしなければなりません。私たちにはキリストの愛があらわされたのですから、キリストを知らないすべての人々にそれを知らせる義務があります。神は、私たちのためばかりではなく、ほかの人をも照らすために光を与えられたのです。もしキリストに従う者がみな、自分の義務に目覚めるならば、今日ただ一人いるところに数千の者がいて、異邦の地に福音を宣べ伝えていることでしょう。また、直接、個人的にみわざに従事できない人は、資金によって、または同情や祈りによって、それを支えることができます。キリスト教国にあっても、もっと熱心な努力があつてよいはずで

**(質問10) クリスチャンとして私たちはどのような働きに召されているでしょう？**

コリント人への第一の手紙 7 : 24  
兄弟たちよ。各自は、その召されたままの状態、神のみまえにいるべきである

## 関連聖句

使徒行伝 16 : 25  
コリント人への第一の手紙 10 : 31  
コロサイ人への手紙 3 : 17、23、24  
イザヤ書 6 : 8  
ピリピ人への手紙 4 : 11  
コリント人への第二の手紙 3 : 3  
マタイによる福音書 25 : 36 ; 28 : 19、20  
ヤコブの手紙 1 : 27  
使徒行伝 22 : 21 ; 26 : 16、17

もしキリストのためになすべき働きが家庭にあるとすれば、私たちは異邦の地に行ったり、家庭から離れたりする必要はありません。家庭内でも、教会内でも、あるいは私たちと交際する人、取り引きする人々の間においてでも働くことができます。

イエスは、この世の生涯の大部分をナザレの大工小屋で忍耐強く働きながら過ごされました。命の主が、人から認められも、あがめられもせず、農夫や労働者と肩を並べてお歩きになったときにも、奉仕の天使は主に付き添っていました。イエスは貧しい家業にいそしんでおられたときも、病人をいやしたり、ガリラヤ湖の荒れ狂う波の上をお歩きになったときと同じように、忠実にその使命を果たされました。ですから私たちも、この世のどんな卑しい仕事をしていても、またどんな低い地位にあっても、イエスとともに歩き、イエスとともに働くことができます。

使徒は、「各自は、その召されたままの状態、神のみまえにいるべきである」（コリント人への第一の手紙 7：24）と言っています。例えば実業家であれば、誠実に仕事をして、主に栄光を帰すことができます。もしその人が真のクリスチャンであるならば、すべて自分の信じている宗教に従って行動し、キリストの精神を人にあらわします。また職人であれば、勤勉に、忠実に働いて、ガリラヤの丘で卑しい仕事に励まれたイエスを代表することができます。キリストのみ名を名乗る者はだれでも、ほかの人がその良い行いを見て、創造主、あがない主なる主をあがめるように導かなければなりません。

**（質問 1 1）** どんな謙虚なことでも、キリストの働きのために自分の能力を使うことは何故大切なのでしょう？

ヨハネによる福音書 15：2

わたしにつながっている枝で実を結ばないものは、父がすべてこれをとりのぞき、実を結ぶものは、もっと豊かに実らせるために、手入れしてこれをきれいになさるのである。

関連聖句

ルカによる福音書 19：17、  
24； 12：48； 8：18  
マタイによる福音書 25：28  
コリント人への第一の手紙 1：  
27-29； 15：10

ほかの人のほうが、自分よりも優れた才能と機会に恵まれているからという口実をもうけて、自分の賜物をキリストのために用いない人がたくさんいます。ただ特別な才能を持っている者だけが、神のために才能をささげて奉仕するように要求されていると一般に考えられています。また、才能は一部の特別な人々にだけ与えられているので、それ以外の人々は働きをするように召されてもいなければ、報いをもとに受けることもないと思っている人がいます。しかしたとえ話には、そのようにあらわされてはいません。この家の主人は僕たちを呼んで、おのおのに仕事を与えました。

**（質問 1 2）心が神の愛に満たされる時、私たちは日常の謙虚な職務にどのように臨みましょう？**

エペソ人への手紙 6 : 6、7

人にへつらおうとして目先だけの勤めをするのではなく、キリストの僕として心から神の御旨を行い、人ではなく主に仕えるように、快く仕えなさい。

関連聖句

コロサイ人への手紙 3 : 2 2、2 3

テサロニケ人への第一の手紙 2 : 3、4

マタイによる福音書 7 : 2

ペテロの第一の手紙 2 : 1 5 ; 4 : 2

ヘブル人への手紙 1 3 : 5

テモテへの第一の手紙 6 : 6

ガラテヤ人への手紙 1 : 1 0

愛の精神をもって、この世のどんな卑しい仕事も「主に対してするように」（コロサイ人への手紙 3 : 2 3）することができます。神の愛が心のうちがあれば、それは生活にあらわれてきます。キリストの良いかおりが私たちを囲み、私たちの感化はほかの人々を高め、祝福するのです。

**（質問 1 3）もし神との関係が正しい状態ならば、何事をするにも私たちの動機はどのようなものになるでしょう？**

コロサイ人への手紙 3 : 2 3

何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心から働きなさい。

関連聖句

コロサイ人への手紙 3 : 17  
コリント人への第一の手紙 10 : 31  
歴代誌下 31 : 21  
詩篇 103 : 1; 119 : 10、34、145

神のために働くといっても、何か大きな機会を待つ必要はなく、非凡な才能など持たなくてもよいのです。人からどのように思われるかなどと、気にする必要もありません。もし日常の生活が、その信仰の純潔、真実なことをあかしし、人々のために何か益になりたいと望んでいることが人々にわかれば、その努力は決してむだにはならないのです。

**(質問 14) 信仰を分かち合う生活はどのような結果を生みますか？**

コリント人への第二の手紙 9 : 6  
わたしの考えはこうである。少ししかまかない者は、少ししか刈り取らず、豊かにまく者は、豊かに刈り取ることになる。

#### 関連聖句

ルカによる福音書 6 : 38  
箴言 11 : 18、24 ; 22 : 9  
テモテへの第一の手紙 5 : 25  
詩篇 41 : 1-3  
伝道の書 11 ; 1、6  
ガラテヤ人への手紙 6 : 7-9  
ヘブル人への手紙 6 : 10

イエスのどんなに卑しく貧しい弟子でも、ほかの人々への祝福となることが出来ます。彼らは、自分が特別に良いことをしているとは少しも気づかないかもしれませんが、知らず知らずの間に与えた感化が祝福の波となり、それがますます広く、ますます深くなっていきます。しかもその結果は、最後の報いの日まで決してわからないでしょう。何か大きなことをしていると感ずることも、知ることありませんが、成功するかどうかなど思いわずらう必要もありません。ただ静かに前進して、神が摂理のもとに与えられた仕事を忠実にすれば、その生涯はむだにならず、魂はますますキリストに似てきます。彼らはこの世で神と働いて、来るべきみ国での一層高い働きと変わらない喜びにあずかるのにふさわしい者となるのです。





## 第 11 課

# 神についての知識

(質問 1) 神とその驚くべき栄光を明らかにするものがあなたの周りにありますか？ それは何ですか？

詩篇 19 : 1

もろもろの天は神の栄光をあらわし、大空はみ手のわざをしめす。

関連聖句

ローマ人への手紙 1 : 19、20

イザヤ書 40 : 22、26

ヨブ記 31 : 26-28

創世記 1 : 1-20

神は多くの方法を用いてご自身を私たちに知らせ、私  
たちを神との交わりに導いておられます。自然は絶え  
ず私たちに話しかけていますから、心を開いているな  
らば、神のみ手のわざにあらわされた神の愛と栄光に  
強く打たれるのです。また、耳を傾けて聞けば、  
自然界を通して神がお語りになっているのを知ること  
ができます。緑の野、大きな樹木、花やつぼみ、過ぎ  
て行く雲、雨のしずく、ささやく小川、天の栄光など  
はみな、私たちの心に語りかけ、これらいっさいを創  
造された神を知るようにと招いています。

私たちの救い主は、自然界の事物に関連づけて尊い教  
訓をお語りになりました。木や鳥、谷間の花、丘や湖、  
美しい天、それから日常のいろいろな出来事を真理の  
み言葉と結びつけて、人々がどんなに忙しい仕事に追  
われているときでも、その教訓を思い出すことができ  
るようになさいました。

神は、ご自分の子らがみ手のわざを感謝し、また、私  
たちの地上の住みかを単純に、しかも落ち着いた美し  
さをもって飾ってくださったことを喜ぶよう望まれま  
す。神は美を愛されますが、外面的などんな美しさよ  
りも品性の美しさを愛されます。神は、私たちが花の  
ように純潔、単純で、静かな優しさを養うよう望んで  
おられるのです。

**（質問2）忙しい毎日の生活で、どうすれば神の声を  
見たり聞いたりできるでしょう？**

詩篇 4 : 4

あなたがたは怒っても、罪を犯してはならない。床  
の上で静かに自分の心に語りなさい。

関連聖句

詩篇 33 : 8、9

ハバクク書 2 : 20

私たちが耳を傾けさえすれば、神の創造のみわざは、  
従順と信頼の尊い教訓を教えています。広く果てしな  
い天空の中、太古から定められた軌道を進む星から、  
微細な原子に至るまで、自然界のものはみな、創造者  
のみ旨に従っています。

**（質問3）創造された全てのものに対する思いやりを  
神はどのように表されるでしょう。**

マタイによる福音書 10 : 29、30

二羽のすずめは一アサリオンで売られているのではないか。しかもあなたがたの父の許しがないければ、その一羽も地に落ちることはない。またあなたがたの頭の毛までも、みな数えられている。

#### 関連聖句

ルカによる福音書 12 : 24-28

詩篇 103 : 1-17 ;

104 : 27、28 ; 139 :

1-18 ; 136 : 25 ;

145 : 15、16

哀歌 3 : 22、23

神は、創造されたすべてのものを守り、支えておられます。広い宇宙の無数の諸世界を支えられる神は、同時に、何の恐れもなくさえずっている小さなすずめの必要をも顧みられるのです。人が一日の働きに出て行くときも、祈るときも、夜休むときも、朝起きるときも、また金持ちが立派な邸宅で宴会をするときも、貧しい人が子どもたちを集めて粗末な食事をするときも、その一つひとつを天の父は優しく見守っておられます。どんな涙も神の目にとまらないものはなく、どんなほほえみも見過ごしにされることはありません。

**（質問4）主を愛して、主に私たちの人生をお委ねする時、どのような保障が与えられるでしょう？**

ローマ人への手紙 8 : 28

神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。

#### 関連聖句

ローマ人への手紙 8 : 35-39

イザヤ書 26 : 3

詩篇 46 : 1、2

エレミヤ書 29 : 11-13

ゼカリヤ書 13 : 9

ヘブル人への手紙 12 : 6-12

ペテロの第一の手紙 1 : 7、8

もし私たちがこうしたことを信じるならば、余計な思いわずらいはなくなります。そして、人生も今のように失望ばかりではなくなります。神はどんなに心配や

苦勞をおかけしても、それに圧倒されたりしません。ですから、どんなに大きなことも、小さなことも、すべて神のみ手にお任せすることができます。こうして私たちは、多くの人々が長い間知らなかった心の平安を味わうことができるのです。

**（質問5）贖われた人々にとって、万事が想像にも及ばない栄光となるように、神は何をなさるでしょう？**

ヨハネの黙示録 21:5

すると、御座にいますかたが言われた、「見よ、わたしはすべてのものを新たにする」。また言われた、「書きしるせ。これらの言葉は、信ずべきであり、まことである」。

関連聖句

ヨハネの黙示録 21:1-4

イザヤ書 65:17; 43:

18、19; 42:9

コリント人への第一の手紙 2:9

この地上の美しさに心が魅せられるとき、罪にも死にもむしばまれない、来るべき世界のことを考えてみましょう。そこには、もはや呪いの影は見られません。救われた者の家庭を考えてみましょう。それは、最高の想像力をもってしても描き出せないほどすばらしいものであることを覚えましょう。神は自然界を美しく飾られますが、それでも私たちは神の栄光のかすかな光を見ているにすぎません。

詩人や学者は、自然について多くのことを歌い、あるいは語りますが、真に鑑賞する力をもってこの地上の美を楽しむことができるのは、クリスチャンだけです。なぜなら、彼らは天の父のみ手のわざを認め、花や木にあらわれた神の愛に気づくからです。丘や谷、川や海をながめても、それが人類に対する神の愛のあらわれだとわからない人は、その存在の意義を十分に悟ることができません。

**（質問6）聖霊の感化に心を開く時、神についてどのような教訓が与えられるでしょう？**

詩篇 33:5

主は正義と公平とを愛される。地は主のいつくしみで満ちている。

## 関連聖句

詩篇 104 : 24 ; 119 :  
64、68 ; 97 : 2  
ヨハネの黙示録 15 : 3、4

神は摂理を通して、または心にささやく聖霊の感化を通してお語りになります。私たちの事情や環境、私たちのまわりで毎日起きている変化の中からも、私たちが心を開いて見ようとさえすれば、尊い教訓を得ることができます。

**（質問7）何故聖書には、信仰の父祖や預言者たちの経験が記録されているのでしょうか？**

ローマ人への手紙 15 : 4

これまでに書かれた事からは、すべてわたしたちの教のために書かれたのであって、それは聖書の与える忍耐と慰めとによって、望みをいだかせるためである。

## 関連聖句

コリント人への第一の手紙 9 : 10 ;  
10 : 6  
テモテへの第二の手紙 3 : 16  
ローマ人への手紙 4 : 23、24

神は、み言葉によって私たちに語られます。聖書は、神のご品性、人類に対する神の扱い、また贖罪の偉大な働きを、ずっと明快な言葉で啓示しています。そしてそこには、父祖たち、預言者たち、また昔の聖者たちの歴史が繰り広げられています。彼らは、「わたしたちと同じ人間」（ヤコブの手紙 5 : 17）であり、私たちと同じように失望と戦い、私たちと同じように誘惑に負けましたが、ふたたび勇気を出して、神の恵みによって勝利を得ました。このことを知るとき、私たちが義を追い求めて戦っていかなければならないと励まされるのです。彼らに与えられた尊い経験、彼らが受けた光と愛と祝福、彼らが受けた恵みによって成した働きなどについて私たちが読むとき、彼らに靈感を与えたのと同じ霊が、私たちの心の中に聖なる競争意識や、彼らの品性に似る者になりたい、彼らのように神とともに歩きたいという願望を起こしてください。

**（質問8）聖書を研究することによって、明らかにされる二つの特別な祝福は何でしょう？**

ヨハネによる福音書 5 : 39

あなたがたは、聖書の中に永遠の命があると思って調べているが、この聖書は、わたしについてあかしをするものである。

#### 関連聖句

ルカによる福音書 24 : 27

マタイによる福音書 22 : 29

箴言 6 : 23 ; 8 : 33、34

イエスは旧約聖書について、「聖書はわたしについて証しをするものだ」（ヨハネによる福音書五章三九節）と言われましたが、新約聖書については、なおさらそう言えます。私たちの永遠の命の希望は、あがない主なる主にあります。聖書全体がキリストについて語っています。「できたもののうち、一つとしてこれによらないものはなかった」（ヨハネによる福音書 1 : 3）という創造の最初の記録から、「見よ、わたしはすぐに来る」（ヨハネの黙示録 22 : 12）という最後の約束に至るまで、私たちはキリストのみわざについて読み、キリストのみ声を聞くのです。もし救い主を知りたいと思えば、聖書を研究してください。

**（質問9）神の言葉を学び、瞑想することによって神を知るのはどうしてそんなに大切なのでしょう？**

ヨハネによる福音書 6 : 63

人を生かすものは霊であって、肉はなんの役にも立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、また命である。

#### 関連聖句

詩篇 119 : 103-105

コロサイ人への手紙 3 : 16

テモテへの第二の手紙 3 : 14-17 ;  
2 : 15

神のみ言葉で心を満たしましょう。神のみ言葉こそ、渴きをいやす生ける水、天からの生けるパンです。イエスも、「人の子の肉を食べず、また、その血を飲まなければ、あなたがたの内に命はない」（ヨハネによる福音書 6 : 53）と言われました。そして、みずからそれを説明して、「わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、また命である」（ヨハネによる福音

書 6 : 63) と言われたのです。私たちの体は、私たちが飲んだり食べたりするもので成り立っています。霊界においても自然界と同じであって、私たちの考える事柄が私たちの霊性に力と健康を与えるのです。

**(質問 10) パウロのように聖書のどの偉大なテーマを探り調べ、人と分かち合うべきでしょう？**

コリント人への第一の手紙 2 : 2

なぜなら、わたしはイエス・キリスト、しかも十字架につけられたキリスト以外のことは、あなたがたの間では何も知るまいと、決心したからである。

関連聖句

ガラテヤ人への手紙 6 : 14

ピリピ人への手紙 3 : 8-10

コリント人への第一の手紙

1 : 17、18、23

さて、罪のあがないの問題は、天使たちも研究したいと望んでいるもので、それは永遠にわたってあがなわれた者たちの科学であり、歌です。ですから、罪のあがないの問題は、今でも熱心に研究する価値があるのではないのでしょうか。イエスの無限のあわれみと愛、また私たちのために払われた犠牲は、私たちが真面目に考えなければならぬ問題です。私たちは、愛するあがないの主、仲保者のご品性をよく考え、民を罪から救うためにこの世に来られたその使命を深く瞑想しなければなりません。こうして天の事柄を考えると、私たちの信仰と愛はますます強くなり、私たちの祈りはいよいよ神に受け入れられるものとなります。というのは、信仰と愛が一層祈りのうちに織りこまれるようになるからです。その祈りは理知的な祈りとなり、真心のこもったものとなります。そして、イエスをますます熱く信じ、彼によって神に来るすべての者を救うイエスのみ力を、日ごとに身をもって経験するようになります。

**(質問 11) 私たちの品性を強めるために、どのような感化の下にいるようにと聖書は勧めていますか？**

ピリピ人の手紙 4 : 8

最後に、兄弟たちよ。すべて真実なこと、すべて尊ぶべきこと、すべて正しいこと、すべて純真なこと、す

べて愛すべきこと、すべてほまれあること、また徳といわれるもの、称賛に値するものがあれば、それらのものを心にとめなさい。

#### 関連聖句

ローマ人の手紙 12 : 9、10 ; 13 : 14  
ガラテヤ人への手紙 5 : 22-26  
詩篇 119 : 11、37、40

(質問12) 神の言葉を通して神の清さを瞑想することによって、神についての知識が深まりますが、それは私たちにどのような感化を与え、周りの人たちにどのような証になるでしょう？

コリント人への第二の手紙 3 : 18

わたしたちはみな、顔おおいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つつ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。これは霊なる主の働きによるのである。

#### 関連聖句

コリント人への第一の手紙 15 : 48、19  
創世記 30 : 37-39  
列王記上 11 : 2、4  
ローマ人への手紙 12 : 2  
エペソ人への手紙 4 : 23、24  
詩篇 106 : 35

救い主の完全さを瞑想するとき、私たちもまったく変えられて救い主の純潔なみかたちに一新され、尊い救い主のようになりたいと、それこそ飢え渴くほど願うようになります。キリストのことを考えれば考えるほど、キリストのことをほかの人に話すようになり、世の人々にキリストをあかしする者となります。

(質問13) どのような人を神の言葉は啓蒙し、賢くするでしょう？

詩篇 19 : 7

主のおきては完全であって、魂を生きかえらせ、主のあかしは確かであって、無学な者を賢くする。

#### 関連聖句

コリント人への第一の手紙 2 : 9-16 ;  
1 : 18-31

ローマ人への手紙 8 : 5、6  
ヨハネの第一の手紙 4 : 5、6  
ヨハネによる福音書 16 : 13 ;  
14 : 17  
テモテへの第一の手紙 6 : 19-21

聖書は、学者のためだけに書かれたものではありません。むしろ、一般の人のために書かれたのであって、救いに必要な大真理は、真昼のように明らかに記されています。このはつきりとあらわされた神のみ心の代わりに、自分の判断に従ったりしなければ、だれも誤ったり、道を見失ったりすることはありません。

**（質問 14）神の言葉を個人的に学ぶことは何故そんなに大切なのでしょうか？**

テモテへの第二の手紙 2 : 15  
あなたは真理の言葉を正しく教え、恥じるところのない錬達した働き人になって、神に自分をささげるように努めはげみなさい。

#### 関連聖句

テモテへの第二の手紙 3 : 15-17  
ペテロの第二の手紙 1 : 5、10、15  
詩篇 119 : 24、41、105、130  
コリント人への第一の手紙 10 : 6、11  
ローマ人への手紙 15 : 4  
ヨハネによる福音書 17 : 17

聖書の教えていることについては、人のあかしに頼ったりせず、自分で神のみ言葉を研究しなければなりません。もし私たちが当然自分で考えるべきことを他人に任せるなら、せつかくの活力はそがれ、才能は衰えてしまいます。尊い能力も、集中して思考する価値ある問題がないために萎縮し、ついには神のみ言葉の深い意味を悟る力を失ってしまいます。聖句と聖句を対照し、聖書の問題がどう関連しているかを研究するならば、知力は必ず発達します。

聖書の研究ほど知力を強めるのに適切なものはありません。どんな書物でも、聖書の高尚で広範な真理ほど、人の思想を高め、才能を強めるものではありません。もし神のみ言葉を正しく研究するならば、人は広い知力と、高尚な品性、確固たる目的を持つことができますが、今日そうした人は非常にまれです。

**(質問 15) どのような聖書研究の仕方が最も益となるでしょう？**

詩篇 119:11

わたしはあなたにむかって 罪を犯すことのないように、心のうちにみ言葉をたくわえました。

関連聖句

詩篇 119:97; 1:2;

37:31; 40:8

ヨブ記 22:22

エレミヤ書 15:16

コロサイ人への手紙 3:16

ただし、聖書を急いで読んだのでは、ほとんど益はありませんし、たとえ聖書全体を通読しても、その美しさを認めることはできず、奥深いところに隠された意味を理解することができません。しかし、わずか一節でも、その意味が心にはっきりするまで研究し、それと救いの計画との関係を明らかにすることは、多くの章を定めた目的もなく、何らこれといった教訓も得ないで読むより、はるかに価値があります。いつも聖書を持って、機会あるごとに読み、暗唱しましょう。例えば、道を歩いているときでさえ、一節を読んで黙想することができます。そうすると、それが頭に残るのです。

**(質問 16) 隠された深い真理を正確に理解するにはどのような態度で聖書を学ぶべきでしょう？**

イザヤ書 28:10

それは教訓に教訓、教訓に教訓、規則に規則、規則に規則。ここにも少し、そこにも少し教えるのだ」。

関連聖句

イザヤ書 28:13

テモテへの第一の手紙 4:15、16

ヨハネによる福音書 14:26;

16:13

エレミヤ書 29:13

ヨハネによる福音書 5:39

使徒行伝 17:11

祈りとともに熱心に学ばなければ、知恵を得ることはできません。聖書にはわかりやすく書かれていて間違

う余地のないところもあれば、表面に意味があらわれておらず、ひと目見ただけでは少しもわからないところもあります。聖句は聖句とよく比較して、注意深く研究し、祈りのうちによく考えなければなりません。そのような研究は豊かに報いられます。鉱夫が地下深く掘り下げて、隠れている価値ある鉱脈を発見するように、神のみ言葉を、隠れている宝のように辛抱強く探す人は、不注意な探求者の目にはとまらない価値ある真理を発見することができます。そして、心の中で熟考された靈感によるみ言葉は、命の泉からわき出る流れのようになるのです。

**（質問 17）何故、聖書を研究する前に聖霊の啓発を祈ることが大切なのでしょう？**

エレミヤ書 33 : 3

わたしに呼び求めよ、そうすれば、わたしはあなたに答える。そしてあなたの知らない大きな隠されている事を、あなたに示す。

関連聖句

エレミヤ書 29 : 12

ヨハネによる福音書 14 : 26 ;

16 : 13

詩篇 145 : 18

コリント人への第一の手紙 2 : 9-11

聖書は、決して祈りをささげずに研究してはなりません。ページを開くときは、聖霊の導きを祈らなければなりません。この導きは必ず与えられます。ナタナエルがイエスのもとに来たとき、救い主は、「見なさい。まことのイスラエル人だ。この人には偽りが無い」と驚きの叫びをあげられました。ナタナエルが、「どうしてわたしを知っておられるのですか」と尋ねると、イエスは、「ピリポがあなたを呼ぶ前に、わたしはあなたが、いちじくの木の下にいるのを見た」（ヨハネによる福音書 1 : 47、48）とお答えになりました。イエスは、私たちが真理を知ることができるように光を求めるとき、それが隠れた場所の祈りであってもご覧になっています。心を低くして神の導きを求める者には、天使が光の世界から送られるのです。

**（質問 18）神の真理は誰があらわすのでしょうか？**

ヨハネによる福音書 16 : 13

けれども真理の御霊が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう。それは自分から語るのではなく、その聞くとこを語り、きたるべき事をあなたがたに知らせるであろう。

### 関連聖句

ヨハネによる福音書 16 : 8 ;  
14 : 17、26 ; 15 : 26  
ガラテヤ人への手紙 5 : 16  
ゼカリヤ書 12 : 10  
ペテロの第二の手紙 1 : 21

聖霊は救い主をあがめ、救い主に誉れを帰します。また、キリストとその純潔な義を指し示し、キリストによって私たちに与えられる大きな救いを示すのがその役目です。聖霊は「わたし〔イエス〕のものを受けて、それをあなたがたに知らせる」（ヨハネによる福音書 16 : 14）と、イエスは言われました。真理の霊だけが、神の真理を本当に教えることのできる力ある教師です。神が人類のためにその独り子を与えて死なせ、また聖霊を与えて人の教師、継続的な案内者としたことから見ても、どれほど人類を価値あるものとみなしておられるのかがわかります。

神の言葉には学び、忍耐、慰め、希望があることが分かります。真理を心に留めて罪を犯さないようになるため、聖書を研究する強い願いを神からいただけるように祈ります。

( ) はい ( ) まだ分かりません。

聖霊がわたしの教師となってくださり、へり下った心で聖書を一句ずつ、一行ずつ正確に理解できるようになりたいと祈ります。

( ) はい ( ) まだ分かりません

心をつくし、精神をつくし、思いをつくして主を求め、聖霊の導きを理解して、永遠の命につながる道を照らす聖書の光に従っていくことができるように望んでいます。

( ) はい ( ) まだ分かりません



## 第12課 祈りの特権

(質問1) 祈りを通して神と交わることがなぜそれほど大切なのでしょうか？

エレミヤ書 29 : 12

その時、あなたがたはわたしに呼ばわり、来て、わたしに祈る。わたしはあなたがたの祈を聞く。

関連聖句

エレミヤ書 31 : 9

詩篇 50 : 15 ; 102 : 17

イザヤ書 65 : 24

神は、自然と啓示、摂理と聖霊の感化を通して私たちに語られます。しかし、それだけでは十分ではありません。私たちもまた、神に心を注ぎ出す必要があります。霊的生命と力を得るためには、私たちの天の父と実際に交わらなければなりません。私たちは、心が神に引かれ、神のみわざ、あわれみ、祝福などを瞑想するでしょうが、これは、十分な意味での神との交わりではありません。神と交わるためには、私たちの実生活について何か神に話すことがなければなりません。

祈りとは、友だちに語るように心を神に打ち明けることです。これは、何も私たちがどんな者であるかを神に知らせる必要があるからではなく、私たちが神を受け入れるのに必要だからです。祈りは、神を私たちにまで呼び降ろすのではなく、私たちが神のもとへ引き上げるのです。

**(質問2) 祈りを通してイエスのもと行き、どうするように教えられているでしょう？**

ペテロの第一の手紙 5 : 7

神はあなたがたをかえりみていて下さるのであるから、自分の思いわずらいを、いっさい神にゆだねるがよい。

関連聖句

ピリピ人への手紙 4 : 6、7

詩篇 55 : 16-18 ;

34 : 5-8 ; 62 : 8

エレミヤ書 33 : 3

歴代志下 7 : 14

この世においでになったとき、イエスは弟子たちに祈る方法を教え、毎日の必要を神に求め、どんな心配事もみな神に任せるようお命じになりました。そして、彼らの祈りは必ず聞かれるという保証をお与えになりましたが、それはまた、私たちに対する保証でもあるのです。

**(質問3) キリストがこの世で働かれながら祈りによる父なる神との交わりについてどのような模範を示されたでしょう？**

マルコによる福音書 1 : 35

朝はやく、夜の明けるよほど前に、イエスは起きて寂しい所へ出て行き、そこで祈っておられた。

### 関連聖句

マルコによる福音書 6 : 4 6

マタイによる福音書 6 : 6 ; 14 : 2 3

ルカによる福音書 6 : 1 2

ペテロの第一の手紙 2 : 2 1

この世においでになったとき、イエスは弟子たちに祈る方法を教え、毎日の必要を神に求め、どんな心配事もみな神に任せるようお命じになりました。そして、彼らの祈りは必ず聞かれるという保証をお与えになりましたが、それはまた、私たちに対する保証でもあるのです。イエスご自身も、この世に住んでおられたときによく祈られました。救い主は、私たちと同じように欠乏と弱さを覚えて、義務と試練に耐えられる新しい力を天父から受けるために、熱心に祈り求める者となりました。彼は、すべてのことにおいて私たちの模範です。彼は、弱い私たちの兄弟となり、「あらゆる点において、わたしたちと同様に試練に遭われ」

(ヘブライ人への手紙四章一五節) ましたが、罪のない方だったので、そのご性格が悪を退けたのでした。彼は罪の世にあって、激しい心の戦いと苦悩に耐え抜かれました。彼の人間性は祈りを必要とし、また特権としました。イエスは父なる神と交わって、慰めと喜びをお受けになりました。もし人類の救い主である神の子でさえ、祈りの必要をお感じになったのであれば、弱く、罪深い人間は、熱く絶え間ない祈りの必要性をもっと感じるべきです。

**(質問4) 祈りによってどのように神に近づくことが出来るでしょう？**

ヘブル人への手紙 4 : 1 6

だから、わたしたちは、あわれみを受け、また、恵みにあずかって時機を得た助けを受けるために、はばかりことなく恵みの御座に近づこうではないか。

### 関連聖句

ピリピ人への手紙 4 : 6、7

エペソ人への手紙 2 : 1 8 ; 3 : 1 2

イザヤ書 55 : 6

マタイによる福音書 7 : 7-1 1

ペテロの第一の手紙 5 : 7

私たちの天の父は、あふれるばかりの祝福を私たちに与えたいと待っておいでになります。限りない愛の泉のほとりで思う存分飲むことは、私たちの特権です。それなのに、私たちが少ししか祈らないというのは、なんと不思議なことでしょう。神は、その子らのどんな卑しい者であっても、心からの祈りにはいつでも喜んで耳を傾けてくださいます。それにもかかわらず、私たちのほうで私たちの要求をなかなか神に告げようとしない有様です。神は、限りない愛をもって人類をみ心にかけて、いつでも私たちが求めたり、思ったりする以上に与えようとしておいでになるのに、誘惑にさらされている哀れで無力な人間が、格別祈ることに努めず、信仰の薄い様子を見て、天使たちはいったいどう思うでしょう。天使は神のみ前にひざまずき、神のみそばにいることを好み、神と交わることをこの上ない喜びとしています。それなのに、神のほかにも与えることのできない助けを最も必要としている地上の子らが、聖霊の光も神との交わりもなしに満足して歩んでいるように思えるのです。

#### (質問5) 誘惑に勝利する二つの鍵は何でしょう？

マタイによる福音書 26 : 41

「誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていなさい。心は熱しているが、肉体が弱いのである」。

#### 関連聖句

ルカによる福音書 21 : 36

マルコによる福音書 14 : 38 ; 13 : 37

ガラテヤ人への手紙 5 : 16

ヤコブの手紙 4 : 7、8 ; 1 : 2-5

ローマ人への手紙 13 : 14

マタイによる福音書 7 : 7

悪魔は、祈りをおろそかにする者を暗黒に閉ざし、誘惑の言葉をささやいて罪へおびき入れます。それというのも、ただ私たちが、神の定められた祈りの特権を用いないからです。祈りは、全能の神の無限の資財が蓄えられている天の倉を開く信仰の手に握られた鍵です。それにもかかわらず、神の子らは、なぜ祈りをおろそかにするのでしょうか。常に祈り、忠実に見張っていなければ、私たちは次第に不注意になって、正しい道からそれる危険があります。敵は恵みのみ座への道を遮って、私たちが熱心な祈りと信仰によって誘惑

に抵抗する恵みと力を受けることができないように、絶えず働いています。

(質問6) ダビデはどのような信仰を持って祈ったので神は答えられたのでしょうか？ あなたは同じ信仰、真剣さで祈っていますか？

詩篇 63 : 1

神よ、あなたはわたしの神、わたしは切にあなたをたずね求め、わが魂はあなたをかわき望む。水なき、かわき衰えた地にあるように、わが肉体はあなたを慕いこがれる。

関連聖句

イザヤ書 44 : 3 ;

41 : 17 ; 48 : 21

ヨハネによる福音書 4 : 10 ;

7 : 37-39

ヨハネの黙示録 15 : 3、4

神が私たちの祈りを聞き、それに答えてくださるためには一定の条件があります。第一に、私たちは、神の助けが必要なことを感じなければなりません。「わたしは乾いている地に水を注ぎ／乾いた土地に流れを与える」(イザヤ書四四章三節)と、神は約束しておられます。飢え渴くように義を慕い、神を慕う者は、必ず満たされるのです。聖霊の感化を受け入れられるように心を開かなければ、神の祝福を受け入れることはできません。

(質問7) 祈りに必要な三つのステップは何でしょう？

ルカによる福音書 11 : 9

そこでわたしはあなたがたに言う。求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。

関連聖句

エレミヤ書 33 : 3

マタイによる福音書 21 : 22

詩篇 50 : 15 ;

118 : 5 ; 91 : 14、15

イザヤ書 55 : 6

私たちが大いに必要としていること、それ自体が動かすことのできない理由であり、私たちのために最も雄弁に語ってくれます。けれども私たちは、こうした必要を満たすために、主を求めようとしなければなりません。彼は、「求めなさい。そうすれば、与えられる」（マタイによる福音書七章七節）と言われます。また、「その御子をさえ惜しまず死に渡された方は、御子と一緒にすべてのものをわたしたちに賜らないはずがありませんか」（ローマの信徒への手紙八章三二節）ともおっしゃいます。

**（質問8）神に背いたまま祈るなら、聞き入れられるでしょうか？**

箴言 28 : 9

耳をそむけて律法を聞かない者は、その祈でさえも憎まれる。

関連聖句

イザヤ書 1 : 15、16

ゼカリヤ書 7 : 11-13

箴言 15 : 8-10

詩篇 66 : 18 ; 109 : 7

もし心に不義のあることを知り、罪と知りながらそれに執着しているならば、主は私たちの祈りに耳を傾けられません。けれども、心の砕けた、悔い改めた者の祈りは、必ず聞かれます。心に覚えのある悪をすべて正したときに、神は私たちの祈りを聞いてくださると信じることができるのです。私たち自身のどんな行為も、神の恵みを受けるには何の価値もありません。私たちを救うのはイエスの功績であり、私たちを清めるのはイエスの血です。しかし受け入れられるには、私たちもしなければならぬことがあります。

**（質問9）祈りが答えられるために何が必要でしょうか？**

マルコによる福音書 11 : 24

そこで、あなたがたに言うが、なんでも祈り求めることは、すでになえられたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになるであろう。

関連聖句

ヤコブの手紙 1 : 6

マタイによる福音書 21 : 22

力ある祈りのもう一つの要素は、信仰です。「神に近づく者は、神が存在しておられること、また、神は御自分を求める者たちに報いてくださる方であることを、信じていなければならないからです」（ヘブライ人への手紙一章六節）。イエスも、「祈り求めるものはすべて既に得られたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになる」（マルコによる福音書一章二四節）と弟子たちに言われました。私たちは、み言葉をそのまま受け入れているでしょうか。

この保証は広大無辺ですが、誠実な神のみ約束です。私たちは、祈ったときに求めたとおりのものが与えられないとしても、主が私たちの祈りを聞き、これに答えてくださることを信じ続けなければなりません。私たちは間違いが多く、先を見ることができないので、自分の祝福にならないものを時折願います。けれども天の父は、愛のうちにその祈りに答え、私たちのために最も良いものをお与えになります。それは、もし私たちが天からの光に目が開かれ、すべてのもののありのままの姿をながめることができたならば、私たち自身も必ず求めるものです。私たちの祈りが聞かれないように思えるときも、み約束にかたく頼らなければなりません。なぜなら、祈りが答えられる時は必ず来て、私たちが最も必要とする祝福を受けることができるからです。けれども、祈りはいつも私たちが望むままに答えられ、望むものが必ず与えられると考えるのは、独断もはなはだしいことです。知恵に満ちておられる神は、決して誤ることがなく、また、正しく歩む者に良きものを拒むこともありません。ですから、たとえ祈りがすぐに答えられなくても、恐れずに神を信頼し、「求めなさい。そうすれば、与えられる」（マタイによる福音書七章七節）という神のかたいみ約束に頼らなければなりません。

（質問10）私たちがへりくだった信仰と謙虚さをもって自らの必要を神に願い出るなら、神はどのような素晴らし約束を与えておられるでしょうか？

ヨハネの第一の手紙 5 : 14、15

わたしたちが神に対していただいている確信は、こうである。すなわち、わたしたちが何事でも神の御旨に従って願い求めるなら、神はそれを聞きいれて下さるということである。そして、わたしたちが願い求めるこ

とは、なんでも聞きいれて下さるとわかれば、神に願い求めたことはすでにかえられたことを、知るのである。

### 関連聖句

マタイによる福音書 7 : 7-11

エペソ人への手紙 3 : 12-14

ヘブル人への手紙 3 : 14 ; 10 : 35

疑いや恐れに支配され、はっきりわからないことをみな解決したうえで信仰を持つとうとするならば、私たちはますます迷いの深みに陥るばかりです。けれども、もし私たちがありのままの姿で、自分の無力さ、頼りなさを感じながら神のもとに行き、限りない知恵をお持ちの神に、謙虚な信頼をもって私たちの必要を告げるならば、万物を見守り、み旨とみ言葉ですべてを支配しておられる神は、私たちの叫びに耳を傾け、光で心を照らしてくださいます。真心からの祈りによって、私たちは限りない神のみ心に触れるのです。そのとき、あがない主が愛とあわれみに満ちて私たちをながめておいでになるという特別な証拠がなくても、それは事実です。彼のみ手の接触を実際に感じなくても、愛とあわれみに満ちた優しいみ手は、私たちの上に置かれているのです。

**（質問 11）神に罪が赦されるか、赦されないかはどのように決まるのでしょうか？**

マタイによる福音書 6 : 14、15

もしも、あなたがたが、人々のあやまちをゆるすならば、あなたがたの天の父も、あなたがたをゆるして下さるであろう。もし人をゆるさないならば、あなたがたの父も、あなたがたのあやまちをゆるして下さらないであろう。

### 関連聖句

マタイによる福音書 6 : 12 ;

18 : 21-35

ルカによる福音書 7 : 40-

48 ; 11 : 4 ; 13 : 14

神のあわれみと祝福を求めるときは、私たちの心のうちに愛とゆるしの精神を持っていなければなりません。「わたしたちの負い目を赦してください、わたしたちも自分に負い目のある人を赦しましたように」（マタイによる福音書六章一二節）と祈りながら、他人をゆ

るさない気持ちを持っていられるでしょうか。もし自分の祈りが聞かれるように期待するならば、自分がゆるされたいと望むような態度と程度で、同じように人をゆるさなければなりません。

**（質問 1 2） 私たちは神と繋がり続けるためにどれくらい祈りが必要でしょうか？**

コロサイ人へ手紙 4 : 2

目をさまして、感謝のうちに祈り、ひたすら祈り続けなさい。

関連聖句

コロサイ人へ手紙 4 : 1 2

ルカによる福音書 2 1 : 3 6

テサロニケ人への第一の手紙 5 : 1 7

詩篇 5 5 : 1 7 ; 8 6 : 3

エペソ人への手紙 6 : 1 8

忍耐して祈ることは、聞かれるためのもう一つの条件です。信仰と経験において成長しようと望むならば、私たちは常に祈らなければなりません。私たちは「たゆまず祈り」（ローマの信徒への手紙一二章一二節）、「目を覚まして感謝を込め、ひたすら祈」（コロサイの信徒への手紙四章二節）らなければなりません。ペトロは信者に、「思慮深くふるまい、身を慎んで、よく祈りなさい」（ペトロの手紙一・四章七節）と勧めています。パウロは、「何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい」（フィリピの信徒への手紙四章六節）と教えています。またユダは、「愛する人たち、あなたがたは最も聖なる信仰をよりどころとして生活しなさい。聖霊の導きの下に祈りなさい。神の愛によって自分を守り……なさい」（ユダの手紙二〇、二一節）と言っています。絶えることのない祈りとは、魂が常に神と一致していることであって、神の命が私たちの命に流れこみ、私たちの生活から純潔と聖さが神に流れ戻ることです。祈りは努めてしなければなりません。何物にも邪魔されてはなりません。イエスとあなたの魂との交わりを常に保つことができるよう、全力を尽くさなければなりません。そして、祈りがささげられるところへは、機会あるごとに努めて行かなければなりません。神と本当に交わりたいと求める人は、祈禱会に出席し、自分の義務を忠実に果たし、できる限りの利益





## 第 13 課 祈りの力

(質問 1) 一人で祈ることによってどのような祝福が得られるでしょう？

マタイによる福音書 6 : 6

あなたは祈る時、自分のへやにはいり、戸を閉じて、隠れた所においでになるあなたの父に祈りなさい。すると、隠れた事を見ておられるあなたの父は、報いてくださるであろう。

関連聖句

詩篇 34 : 15-19 ;

86 : 5-7 ; 50 : 15 ; 55 : 16

イザヤ書 65 : 24

ヘブル人への手紙 4 : 16

ローマ人への手紙

8 : 26、27 ; 10 : 12

ヤコブの手紙 5 : 16

また、家族とともに祈らなければなりません。とりわけ、密室の祈りをおろそかにしてはなりません。これは魂の命だからです。祈りをおろそかにしていながら、魂の健全を願うことはできません。家族の祈りや公の祈りだけでは不十分です。人のいないところに退いて、心を探られる神のみ前に心をすっかり開かなければなりません。密室の祈りは、祈りを聞かれる神にだけ聞かれるべきで、好奇心にかられた人が聞いたりすべきではありません。密室の祈りでは、心は周囲の影響を受けたり、興奮したりすることがありません。静かに、しかし熱心に、神に近づこうとします。そのとき、隠れたことをご覧になり、心からの祈りに耳を傾けられる神から、うるわしく、永久的な感化が感じられるのです。穏やかで単純な信仰によって、魂は神との交わりを保ち、神から光を受け、悪魔との戦いにおいて強められ、支えられるのです。神は私たちの力のとりです。密室で祈りましょう。毎日の仕事をするときにも、しばしば心を神に向けなければなりません。エノクはこのように神とともに歩んだのです。黙禱は、恵みのみ座の前に尊いかおりのように昇っていきます。こうして神に心を委ねた人に、悪魔は勝つことができません。

**（質問2） 次の聖句は祈りの大切さについてどのように教えていますか？**

テサロニケ人への第一の手紙 5 : 17

絶えず祈りなさい。

関連聖句

歴代志下 7 : 14

詩篇 145 : 18、19

エレミヤ書 29 : 12、13

神に祈りをささげるのに、不適當な時とか場所とかはありません。熱心な祈りの精神で心を天に向けるのを妨げるものは何もありません。雑踏の中でも、商売の最中でも、ちょうどネヘミヤがアルタクセルクセス王の前で自分の願いを告げたときのように、神に願いをささげて、導きを請うことができます。祈りの密室はどこにでもあります。私たちは絶えず心の戸を開いて、イエスに天来の客として心のうちに住んでいただくよ

う、招かなければなりません。たとえ私たちは、汚れ、腐敗した空気に包まれていても、その毒気を吸う必要はなく、天の聖い空気の中で生きることができます。真剣に祈って心を神の前に高め、不潔、不正な思いが入らないよう、あらゆる戸を閉じることができます。神の助けと祝福を受けようと心を開いている者は、この世の人より清い雰囲気の中を歩き、絶えることのない交わりを天と続けることができます。

**(質問3) 絶えずキリストと繋がり続けることによってどのような結果が得られるでしょう？**

イザヤ書 26 : 3

あなたは全き平安をもって ころざしの堅固なものを守られる。 彼はあなたに信頼しているからである。

関連聖句

ピリピ人への手紙 4 : 6、7

ヨハネによる福音書 14 : 27 ; 16 : 33

詩篇 91 : 10 ; 57 : 1

エレミヤ書 17 : 7、8

私たちはイエスをもっとはつきりながめ、永遠なるものの価値をもっと十分に知らなければなりません。神の子らの心は、清い美しさに満たされなければなりません。そして、これが成就するために、私たちは天の事柄をあらわしていただくよう、神に求めなければなりません。

神が天の雰囲気の一息でも呼吸させてくださるよう、心を世から離して天へ向けましょう。もし私たちが神のそば近くにいれば、どんな試みが不意に襲ってきても、ちょうど花が太陽のほうを自然に向いているように、私たちの心も神に向くようになります。

**(質問4) 打ち砕かれた心を持つ人に神はどのような憐れみに満ちた約束を与えているでしょう？**

詩編 147 : 3

主は心の打ち砕かれた者をいやし、その傷を包まれる。

関連聖句

詩篇 51 : 17 ; 34 : 18

イザヤ書 57 : 15 ; 61 : 1

ホセア書 6 : 1

どんな望み、喜び、悲しみ、わずらい、恐れもみな、神の前に置きましょう。神は重荷で苦しんだり、疲れたりなさいません。頭の髪の毛でさえ数えられる神は、子どもたちの必要に無関心ではありません。「主がいかに慈愛とあわれみとに富んだかたであるかが、わかるはずである」（ヤコブの手紙 5：11）。愛に満ちた神のみ心は、私たちが悲しみを口にすることにさえ、心を痛められます。心をわずらわすことは何でも神に申し上げます。神は諸世界を支え、宇宙のすべてを支配しておられるのですから、神にとって重すぎて負いきれないものはありません。私たちの平和に関わることであれば何でも、小さすぎてお気づきにならないことはありません。私たちのどんなに暗い経験も、暗すぎてお読みになれないことはありません。また、どんなに難しい問題も、神には解釈できないということがありません。神の子らのごく小さい者に降りかかる災いも、心を悩ます不安も、喜びの声も、くちびるからほとばしる真剣な祈りも、天の父はことごとく注意し、深い関心を払っておられるのです。神は、「心の打ち砕かれた者をいやし、その傷を包まれ」（詩編 147：3）ます。神と各々の魂との関係は、あたかも神がただ一人を見守られるかのように、あたかも神がただ一人のために愛するみ子を与えられたかのように、はっきりとした完全なものです。

### （質問5）誰の名前によって祈るべきですか？

ヨハネによる福音書 15：16

あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして、あなたがたを立てた。それは、あなたがたが行って実をむすび、その実がいつまでも残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものはなんでも、父が与えて下さるためである。

### 関連聖句

マタイによる福音書 28：18

ローマ人への手紙 1：5

使徒行伝 2：38

マラキ書 1：11

イエスは次のようにおっしゃいました。「その日には、あなたがたは、わたしの名によって求めるであろう。わたしは、あなたがたのために父に願ってあげようと

は言うまい。父ご自身があなたがたを愛しておいでになる」（ヨハネによる福音書 16：26、27）。「わたしがあなたがたを選んだのである。……わたしの名によって父に願うものはなんでも、父が与えて下さる」（ヨハネによる福音書 15：16）。しかし、イエスの名によって祈るというのは、ただ祈りのあとにイエスのみ名を唱えるということではなく、イエスの心と精神をもって祈り、同時にイエスのみ約束を信じ、その恵みに頼り、彼のみわざに励むことです。

**（質問6） 祈りと礼拝に加えてどのような具体的な行いがクリスチャンの生活に伴うべきでしょう？**

ヤコブの手紙 1：27

父なる神のみまえに清く汚れのない信心とは、困っている孤児や、やもめを見舞い、自らは世の汚れに染まらずに、身を清く保つことにほかならない。

ヤコブの手紙 2：16

あなたがたのうち、だれかが、「安らかに行きなさい。暖まって、食べ飽きなさい」と言うだけで、そのからだに必要なものを何ひとつ与えなかったとしたら、なんの役に立つか。

関連聖句

マタイによる福音書 25：34-46

ヨハネの第一の手紙 3：17-19

テモテへの第一の手紙 1：5

ヨブ記 29：12、13

イザヤ書 1：17；58：6-11

ガラテヤ人への手紙 5：6；6：9、10

神は、私たちが礼拝に専心するために、この世から逃れて世捨て人や修道僧になることを望んではおられません。私たちの生涯はキリストの生涯のように、山と群衆の間になければなりません。祈るばかりで働かない人は、まもなく祈ることをやめるか、その祈りはただ形式的な習慣になるでしょう。人が社会生活から離れてクリスチャンとしての義務と十字架を負うことを避け、彼らのために熱心に働かれた主のために働くことをやめるとき、祈る主題を失い、神を拝する刺激もともに失ってしまいます。彼らの祈りは個人的で利己的なものになります。人類の必要やキリストのみ国の建設のために祈ることも、また働く力を求めることもできなくなります。

## (質問7) クリスチャンの交わりの目的はなんでしょう？

ヘブル人への手紙 10 : 25

ある人たちがいつもしているように、集会をやめることはしないで互に励まし、かの日が近づいているのを見て、ますます、そうしようではないか。

### 関連聖句

テサロニケ人への第一の手紙 5 : 11

マタイによる福音書 18 : 20

使徒行伝 2 : 42 ; 20 : 7

神に奉仕するうえで互いに力づけ、励まし合うために交わる特権を軽視すれば、必ず損失を招きます。神のみ言葉の真理は、私たちの心の中であざやかさと重要さを失います。そして私たちの心は、真理によって照らされることも、覚醒されることもなく、霊的に衰えてしまうのです。クリスチャンとしての交わりのうちにもお互いの同情がなければ、大きな損失です。自分一人で閉じこもっている者は、神が計画されたその人の役割を果たしていません。私たちが社交性を適切にじっくり育てていくなら、他人にも同情できるようになり、神に奉仕するうえで成長し、力強くなれます。もしクリスチャンがともに交わり、神の愛と尊い贖罪の真理について語り合うならば、自分の心がうるおされ、お互いの心がうるおされるでしょう。私たちは日ごとに、天父についてもっと学び、神の恵みを新たに受けるのです。そうすると、神の愛について語りたいと思うようになり、そして人に話せば、自分の心が温められ、励まされるのです。もし私たちがもっとイエスのことを話し、より少なく自分のことを考えるならば、一層彼のご臨在を感じるすることができます。

## (質問8) 平安の内に留まるために、あなたの愛や考えの中心をどこに置くべきでしょうか？

イザヤ書 26 : 3、4

あなたは全き平安をもって ころろざしの堅固なものを守られる。 彼はあなたに信頼しているからである。 とこしえに主に信頼せよ、 主なる神はとこしえの岩だからである。

コロサイ人への手紙 3 : 2

あなたがたは上にあるものを思うべきであって、地上のものに心を引かれてはならない。

## 関連聖句

イザヤ書 57 : 19-21

ヨハネによる福音書 14 : 27

詩編 91 : 14 ; 119 : 36-40

箴言 23 : 5

マタイによる福音書 16 : 23

ローマ人への手紙 8 : 4-6

ヨハネの第一の手紙 2 : 15

神は私たちが常に守っておられますから、いつも神のことだけを考えたと思えば、常に心に神を宿し、喜んで神について語り、神を賛美しなければなりません。私たちがこの世的なことを話すのは、それに興味を持っているからです。友のことを話すのは、その友を愛し、喜びも悲しみも彼らと結ばれているからです。けれども私たちには、この地上の友を愛する以上に神を愛する大きな理由があります。ですから、何よりもまず神のことを思い、神のあわれみ深さや神のみ力について語ることは、まったく自然なことではなればなりません。神が私たちに与えてくださった賜物が豊かなために、私たちの思いや愛情がそれに奪われ、神にお返しするものが何もないようではいけません。むしろ、これらの賜物は、常に神のことを思い出させ、愛と感謝のきずなで私たちが恵み深い神に結びつけるためのものです。私たちは、とかくこの世のことに心を奪われがちですが、天の開かれた聖所の扉を見上げ、「彼によって神に来る人々を、いつも救うことができ」（ヘブル人への手紙 7 : 25）るキリストのみ顔に神の栄光が輝いているのをながめましょう。

## （質問9）祈りには何が欠かせないでしょう？

コロサイ人への手紙 4 : 2

目をさまして、感謝のうちに祈り、ひたすら祈り続けなさい。

## 関連聖句

コロサイ人への手紙 2 : 7 ;

3 : 15、17

ピリピ人への手紙 4 : 6

テサロニケ人への手紙 5 : 16-18

私たちは、「主のいつくしみと、人の子らになされたくすしきみわざとのために、主に感謝する」（詩編 107 : 8）よう、もっと神をほめたたえなければな

りません。私たちの祈りは、ただ求めること、与えられることだけであってはなりません。いつも自分の欠乏ばかり考えていて、受けた恵みを忘れることがないようにしましょう。私たちは祈ることが本当に少ないうえに、感謝の念に乏しい者です。絶えず神のあわれみを受けていながら、感謝を言いあらわすことがなんと少なく、神が私たちのためにしてくださったことを賛美することがなんと少ない者でしょう。

**(質問 10) 人生の全てを喜んでキリストに捧げる人に、聖書はどのように勧めているでしょう？**

申命記 12 : 7

そこであなたがたの神、主の前で食べ、あなたがたも、家族も皆、手を労して獲るすべての物を喜び楽しまなければならない。これはあなたの神、主の恵みによって獲るものだからである。

関連聖句

申命記 26 : 11

詩編 111 : 1-5 ; 9 : 1 ; 103 : 1-5

神の栄光のためになされることは、賛美と感謝の歌をもって喜んでなされるべきであって、悲しい気持ちや憂うつな気持ちでなされてはなりません。

私たちの神は、優しく憐れみ深い父です。神に仕えることは、悲しい心重いこととみなされてはなりません。神を礼拝し、みわざに携わることは、喜びでなければなりません。こんなにも大きな救いを備えてくださった神は、その子らが、神をかたくなで無情な監督であるかのようにみなし、そのようにふるまうことを好まれません。神は私たちの最良の友です。そして、私たちが神を礼拝するときには、ともにいて私たちを祝福し、慰め、その心を喜びと愛で満たそうとしてください。主は、ご自分の子どもたちが仕えることに慰めを得、困難よりも喜びをみわざに見いだすよう望まれます。また神は、礼拝に集まる人々が、神の配慮と愛を深く感じながら帰り、日常生活のあらゆる務めに喜びを感じ、神の恵みによって、すべてのことを正直に忠実に行うよう望んでおられます。

**(質問 11) 私たちの考え方、会話や祈りを通して神を讚美し、栄光を帰するとき、神は何を示してくださるでしょう？**

詩編 50 : 23

感謝のいけにえをささげる者はわたしをあがめる。  
自分のおこないを慎む者にはわたしは神の救を示す」。

#### 関連聖句

詩篇 50 : 14、15 ; 85 : 9

ローマ人の手紙 15 : 6、9

ペテロの第一の手紙 2 : 9

私たちは、十字架のもとに集まらなければなりません。キリスト、それも十字架につけられたキリストが、私たちの瞑想、会話、最も喜ばしい感情の主題でなければなりません。神から受けたすべての恵みを心にとめ、その大いなる愛を悟ったならば、私たちのために十字架に釘づけられたみ手に、喜んですべてをお任せしなければなりません。

**（質問12）神の慈愛を知った者の口からどのような言葉が流れ出てくるでしょう？**

詩編 107 : 21、22

どうか、彼らが主のいつくしみと、人の子らになされたくすしきみわざとのために、主に感謝するように。彼らが感謝のいけにえをささげ、喜びの歌をもって、そのみわざを言いあらわすように。

#### 関連聖句

詩篇 107 : 15、31、32 ;

34 : 3 ; 92 : 1、2 ; 147 : 1

イザヤ書 63 : 7

私たちの魂は、賛美の翼に乗って天に近づきます。神は天の宮廷で、歌と音楽をもって礼拝を受けておられます。ですから、私たちも感謝をささげるならば、天の軍勢の礼拝に近づくことができるのです。「感謝のいけにえをささげる者は、わたしをあがめる」（詩編50 : 23）とあります。私たちも「感謝と歌の声」（イザヤ書 51 : 3）をもって、喜びのうちにもうやうやしく創造主のみ前に行きましょう。

毎日の個人的または公の祈りを通して神といつもつながっている必要があることを認めています。

（ ）はい （ ） まだ分かりません。





## 第14課 疑いをどうするべきか

(エレン・ホワイト著 「キリストへの道」の第12章  
“疑いをどうするべきか”から)

(質問1) イエスは、ご自分の神性を疑う人たちに  
なんと答えられたでしょう？

マタイによる福音書 12:38、39

そのとき、律法学者、パリサイ人のうちのある人々が  
イエスにむかって言った、「先生、わたしたちはあなた  
から、しるしを見せていただきとうございます」。

すると、彼らに答えて言われた、「邪悪で不義な時代は、しるしを求める。しかし、預言者ヨナのしるしのほかには、なんのしるしも与えられないであろう。

#### 関連聖句

マタイによる福音書 16 : 1-4

ルカによる福音書 11 : 16、29、30

マルコによる福音書 8 : 11

ヨハネによる福音書 2 : 18 ; 4 : 48

多くの人、特にまだ信仰に入って日の浅い人々は、心に疑惑をいだいて悩むことがあります。聖書の中には、説明のできないこと、理解に苦しむことがたくさんあるので、悪魔はそれらを用いて、聖書は神の啓示であるという信仰を揺さぶろうとします。彼らは、「正しい道を知るには、どうしたらよいのだろうか。もし聖書が本当に神のみ言葉であるとすれば、私はどうやってこのような疑いや当惑から逃れることができるのだろうか」と尋ねます。

神は私たちに、信仰の基礎を置くのに十分な証拠を与えたうえでなければ、信じるようお求めになりません。神の存在も、品性も、み言葉の真実性もみな、私たちの理性に訴えるあかしによって立証されており、しかもそのあかしは大量にあります。けれども神は、疑う余地をまったく取り除かれたのではありません。私たちの信仰は、外見的なものの上ではなく、証拠の上に築かれねばなりません。疑おうと思う者には疑うことができますが、本当に真理を知りたいと求めている人は、信仰の基礎となる十分な証拠を発見することができます。

**（質問2）人はなぜ神の道を完全に理解できないのでしょうか？**

イザヤ書 55 : 8、9

わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、わが道は、あなたがたの道とは異なっていると主は言われる。天が地よりも高いように、わが道は、あなたがたの道よりも高く、わが思いは、あなたがたの思いよりも高い。

#### 関連聖句

詩篇 92 : 5 ; 77 : 19

マタイによる福音書 11 : 25

ローマ人への手紙 11 : 34-36

限りある心をもって、限らない神のご性質やみわざを十分に悟ることは不可能です。どんなに鋭い知能の持ち主にも、どれほど教育を受けた人にも、聖い神は神秘に包まれていてよくわかりません。「あなたは神能深い事を究めることができるか。全能者の限界を窮めることができるか。それは天より高い、あなたは何をなしうるか。それは陰府よりも深い、あなたは何を知りうるか」（ヨブ記 11：7、8）とあります。使徒パウロは、「ああ深いかな、神の知恵と知識との富は。そのさばきは窮めがたく、その道は測りがたい」（ローマの信徒への手紙 11：33）と言っています。しかし、たとえ「雲と暗やみとはそのまわりに」あっても、「義と正とはそのみくらの基である」（詩編97：2）のです。こうして私たちは、神が私たちを扱われる方法、またなぜそうされるのかという動機を理解して、無限のみ力に限りない愛とあわれみが結びついているのを認めることができます。また、私たちの益である限り、神の目的を知ることができます。しかしそれ以上は、全能者のみ手と愛のみ心に一任しなければなりません。

（質問3） 聖句の意味がよく分からないときは何に注意すべきですか？

ペテロの第二の手紙 3：16、17

彼は、どの手紙にもこれらのことを述べている。その手紙の中には、ところどころ、わかりにくい箇所もあって、無学で心の定まらない者たちは、ほかの聖書についてもしているように、無理な解釈をほどこして、自分の滅亡を招いている。愛する者たちよ。それだから、あなたがたはかねてから心がけているように、非道の者の惑わしに誘い込まれて、あなたがた自身の確信を失うことのないように心がけなさい。

関連聖句

ローマ人への手紙 16：17；18：2

テモテへの第二の手紙 3：5-7；

2：16、23

エレミヤ書 23：35、36

神のみ言葉には、その著者であられる神のご性質と同じく、限りある人間には十分に理解できない神秘があります。罪がこの世に入ったこと、キリストの受肉、新生、復活ほか、聖書に記されている多くの問題は、きわめて深い神秘ですから、とうてい人間の頭脳では

説明することも、十分に理解することもできません。けれども、神の摂理の奥義を理解できないからといって、神のみ言葉を疑う理由にはなりません。自然界においても、私たちのわからない不思議なことがいつも身のまわりで起こっています。最も単純な生物でさえ、どんなに賢い学者でも説明に苦しむ問題を投げかけています。どこを見ても、私たちの理解しえない驚異があるのですから、霊の世界において計り知ることのできない不思議があるからといって、私たちは驚くべきでしょうか。問題はただ、人の知力が弱く、見解が狭いことにあるのです。神は聖書の中に、聖書が神からのものであるという証拠を十分に与えておられるのですから、神の摂理をことごとく理解できないからといって、み言葉を疑ってはなりません。使徒ペトロは、聖書の中には「分かりにくい箇所もあって、無学で心の定まらない者たちは、ほかの聖書についてもしているように、無理な解釈をほどこして、自分の滅亡を招いている」（ペテロの第二の手紙 3：16）と言っています。聖書の難解なことが、懐疑論者たちによって聖書に反対する論拠として挙げられてきましたが、このことはかえって聖書が神の靈感によるものであるという有力な証拠です。もし聖書の神についての記録がわかりやすいことばかりで、神の偉大さと崇高さが限りある心で理解できるとすれば、聖書は間違いなく神からのものであるという信頼を失うでしょう。聖書に示されている主題がとても大きく、深遠であることが、聖書は神のみ言葉であるという信仰を生じさせるのです。

**（質問4）なぜこの世の知恵では聖書が理解できないのでしょうか？**

コリント人への第一の手紙 2：14

生れながらの人は、神の御霊の賜物を受けいれない。それは彼には愚かなものだからである。また、御霊によって判断されるべきであるから、彼はそれを理解することができない。

関連聖句

コリント人への第二の手紙 2：12、13

マタイによる福音書 13：11

ヨハネによる福音書 3：6；8：43；

16；13；14：26

箴言 14：6

ローマ人への手紙 8：5、6

聖書は真理を単純に、しかも人の心の必要や願いへの適用とともに説明するので、最高の教養ある人たちを驚かせ、引きつけると同時に、何の教養もない卑しい者たちにも、救いの道を知らせることができます。それにもかかわらず、単純に述べられたこれらの真理は、高尚深遠な問題、人間の理解力をはるかに超えた問題をとらえているので、神がそれらを述べられたという理由だけで、そのまま受け入れることができるのです。このように、あがないの計画は明らかに示されていますから、だれでも神に向かって悔い改め、主イエス・キリストを信じ、神の定められた方法に従って救われるために進む道を知ることができます。しかし、このように易しく理解できる真理の裏側に、神の栄光の隠れ家である神秘が潜んでいるのです。この神秘は、研究する者の心を圧倒しますが、真面目に真理を求めている人には敬虔と信仰の念を起こさせます。そして、聖書を研究すればするほど、それが生きている神のみ言葉であるという確信が深められ、人間の理性は偉大な神の啓示の前にひれ伏すのです。

聖書の偉大な真理を十分に理解することができないと認めることは、限りある人知では無限を悟るに不十分であることを認めることにほかなりません。つまり人間は、限られた知識で全能者の目的を悟ることはできないのです。

**(質問5)** 私たちの心に何を持ち込まないようにと忠告されているでしょう？

ヘブル人への手紙 3 : 12

兄弟たちよ。気をつけなさい。あなたがたの中には、あるいは、不信仰な悪い心をいだいて、生ける神から離れ去る者があるかも知れない。

関連聖句

ヘブル人への手紙 3 : 19 ; 10 : 38

マタイによる福音書 13 : 58 ; 17 : 20

ローマ人への手紙 3 : 3、4 ; 11 : 20

懐疑論者や無神論者は、すべての神秘を計り知ることができないという理由のもとに、神のみ言葉を否定します。そして、聖書を信じると公言する者でさえ、こうした危険に陥らないとも限りません。使徒は、「兄弟たちよ。あなたがたのうちに、信仰のない悪い心を抱いて、気をつけなさい。あなたがたの中には、あるいは、不信仰な悪い心をいだいて、生ける神から離れ

去る者があるかも知れない」（ヘブル人への手紙 3：12）と言いました。聖書の教えを詳しく調べ、聖書に示されている限り、「神の深みまでも」（コリント人への第一の手紙 2：10）探ることは正しいことですが、「隠された事は、われわれの神、主に」あり、「表されたことは長くわれわれとわれわれの子孫に属し」（申命記 29：29）ています。けれども、悪魔は人の研究心を曲げようと働いているのです。聖書の真理を研究するにあたって、ある種の誇りが起こり、聖書のあらゆる部分を満足できるまで説明できないと短気を起こし、失望する人がいます。靈感によるみ言葉を理解できないとみずから認めることが、彼らにはあまりにも屈辱なのです。そして、神が適当なときにその真理を示されるまで、忍耐して待とうとしません。また、何の援助もなく、人間の知恵だけで十分に聖書を理解できると考え、それができないとなると、実質的に聖書の権威を否定するのです。確かに、聖書の教理として一般に信じられているものの中には、聖書にそのような根拠をまったく持たないばかりか、神の示された主旨と正反対のものも少なくありません。こうしたことが、多くの人たちに疑いと困惑を与えています。しかし、これは神のみ言葉のせいではなく、み言葉を曲解した人間のせいです。

**（質問6）わたしたちは永遠に神を完全に理解することができないのでしょうか？**

申命記 29：29

隠れた事はわれわれの神、主に属するものである。しかし表わされたことは長くわれわれとわれわれの子孫に属し、われわれにこの律法のすべての言葉を行わせるのである。

関連聖句

ローマ人への手紙 11：33、34

ダニエル書 2：22

マタイによる福音書 13：35

使徒行伝 1：7

もしつくられた者たちが、神とそのみわざを完全に理解することができ、その段階に達したのであれば、これ以上の真理の発見も、知識の成長も、頭脳や心の発達もないでしょう。そうなれば、神はもはや至上者ではなく、知識と学識の限界に到達した人類は、進歩す

ることがないでしょう。しかし、そうでないことを神に感謝しなければなりません。神は無限です。「キリストのうちには知恵と知識との宝が、いっさい隠れている」（コロサイの人への手紙 2：3）。そして、人が永遠に探し求め、学び続けても、神の知恵、神の慈悲、神の力の財宝は、決して尽きることがないのです。

**（質問7）神の知恵は一箇所でしかみつけれられません。どこでしょう？**

コリント人への第一の手紙 2：12

ところが、わたしたちが受けたのは、この世の霊ではなく、神からの霊である。それによって、神から賜わった恵みを悟るためである。

関連聖句

ヤコブの手紙 1：5

ローマ人への手紙 8：1、5、6

コリント人への第二の手紙 4：4

ヨハネによる福音書 16：14、15

ヨハネの第一の手紙 2：20、27； 5：20

神は、この世においても、み言葉の真理をいつもその民にあらわしたいと望んでおられますが、この知識を得る道はただ一つしかありません。み言葉は聖霊によって与えられたのですから、その聖霊の光に照らされて初めて、み言葉を理解することができます。「神の思いも、神の御霊以外には、知るものはない」、「御霊はすべてのものをきわめ、神の深みまでもきわめる」（コリント人への第一の手紙 2：11、10）。

**（質問8）聖霊が聖書の学びを導くのを受け入れるとき、何を発見しますか？**

ヨハネによる福音書 16：13

けれども真理の御霊が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう。それは自分から語るのではなく、その聞くとこを語り、きたるべき事をあなたがたに知らせるであろう。

関連聖句

ヨハネによる福音書 14：17、26； 15：6； 8：32； 7：16-18

ヨハネの第一の手紙 4：6

神は、人間が理性の力を働かせるように望まれます。聖書の研究は、ほかのどんな研究にもまさって知力を強め、高尚にします。しかし、理性を偶像化しないように気をつけなければなりません。これは弱い人間にありがちなことです。聖書が難しく理解できないとか、ごく明白な真理でさえ理解できないとかいうことがないようにするには、幼な子のような単純さと信仰を持ち、学ぼうという心構えで聖霊の助けを求めなければなりません。神の力と知恵を悟り、神の偉大さはどうてい私たちには理解できないことを知れば、それは私たちを謙遜にし、聖書を開くときでさえ、神の面前に出るかのような、うやうやしい気持ちにさせます。聖書を学ぶにあたっては、そこに私たちの理性以上の権威を認め、心も知能も「わたしはある」と言われた偉大な神のみ前にひざまずかなければなりません。

(質問9) わたしたちの知恵の源はどなたでしょう？

ヤコブの手紙 1 : 5

あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせずに惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。

関連聖句

ヤコブの手紙 1 : 17 ; 3 : 17

ヨブ記 28 : 12-28

箴言 3 : 5-7 ; 9 : 4-6 ; 2 : 3-11

マタイによる福音書 7 : 7-11

一見したところ、難しく不明瞭なことが聖書には多いのですが、神は、それを理解しようと求める人々には、わかりやすく単純にしてくださいます。けれども、聖霊の導きがなければ、聖書の意味を曲解したり、誤解したりする危険があります。聖書を読んでも何の益も受けず、かえって大きな害をこうむっている人々もいます。敬虔な心と祈りなしに神のみ言葉を開いたり、思いと愛情が神に向いていなかったり、または、神のみ心に調和しないでいると、心は疑惑の雲でおおわれ、聖書研究をしていながら懐疑心が強められるのです。敵が思想を支配して、正しくない解釈を暗示します。人が言葉にも行いにも神と一致しようと求めていなければ、いくら教育がある人でも、聖書の解釈を誤りやすくなりますから、彼らの解釈を頼りにするのは危険です。矛盾を見いだそうと思って聖書を探る人は、霊

の目がまだ開かれていない人です。偏見を持って見るので、実はわかりやすく単純な事柄でも、何かと理屈を言って疑い、信じようとしません。

**（質問 10）知りつつ罪を犯し続けるなら、神と私の関係はどうなるでしょう？**

イザヤ書 59 : 2

ただ、あなたがたの不義が あなたがたと、あなたがたの神との間を隔てたのだ。 またあなたがたの罪が 主の顔をおおったために、お聞きにならないのだ。

関連聖句

イザヤ書 57 : 17

箴言 15 : 29

エレミヤ書 5 : 25

申命記 31 : 17、18 ; 32 : 20

エゼキエル書 39 : 24

ミカ書 3 : 4

いろいろな仮面をかぶってはいますが、疑いと不信の真の原因は、たいていの場合、罪を愛することにあります。神のみ言葉の教えと訓戒は、罪を愛する高慢な人々には歓迎されません。神の要求に従うことを喜ばない者は、み言葉の権威をすぐ疑います。真理に到達するには、真理を知りたいという真面目な望みを持ち、それに喜んで従わなければなりません。こうした精神で聖書を研究する人は、聖書が神のみ言葉であるという証拠をたくさん見だし、その真理を理解し、会得して、救いに至るのです。

**（質問 11）新しい光が与えられる前に、神は何を要求されるでしょう？**

ヨハネによる福音書 7 : 17

神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。

関連聖句

ヨハネによる福音書 8 : 31、32

詩篇 119 : 10、101、102

ミカ書 4 : 2

使徒行伝 17 : 11

キリストは、「神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう」（ヨハネによる福音書 7：17）と言われました。わからないことを疑ったり、理屈を並べたりしないで、すでに与えられている光に従うならば、さらに大きな光が与えられるのです。はっきり理解できた義務をすべてキリストの恵みによって実行すれば、今は疑いを持っていることもやがてわかり、実行できるようになります。最高の教育を受けた者にも、最も無学な者にも、はっきり示される証拠は、経験という確証です。神は、み言葉の真実なこと、み約束の真実であることを私たち自身が試すようにと招いておられます。神は私たちに、「主の恵みふかきことを味わい知れ」（詩編 34：8）とお命じになりました。ほかの人の言葉に頼らないで、自分で味わってみなければなりません。神は、「求めなさい、そうすれば、与えられ」（ヨハネによる福音書 16：24）とのおっしゃるのですから、この約束を間違いなく果たしてください。神の約束は、今まで果たされなかったこともなければ、これからも果たされないことはありません。そして、私たちがイエスに近づき、イエスのあふれる愛にひたるとき、イエスのご臨在の光に私たちの疑いも、暗さも、消え去ってしまうのです。

（質問 12）イエスとの交わりが深まるにつれ、わたしたちの証はどのように変わるでしょう？

コロサイ人への手紙 1：13

神は、わたしたちをやみの力から救い出して、その愛する御子の支配下に移して下さった。

関連聖句

エペソ人への手紙 5：7-9

ペテロの第一の手紙 2：9

ヨハネの第一の手紙 2：8

ローマ人への手紙 6：20-

22； 4：20、21

テトスへの手紙 3：3-7

使徒パウロは、神が「わたしたちをやみの力から救い出して、その愛する御子の支配下に移して下さった」（コロサイ人への手紙 1：13）と言っています。そして、死から生へ移った人々はだれでも、「神がまことであることを、たしかに認め」（ヨハネによる福

音書 3 : 33) ることができるのです。そして、その人はあかしして言います。「私には助けが必要でしたが、その助けは、イエスから与えられました。すべての欠乏は補われ、魂の飢えは満たされました。今では、聖書は私にとってイエス・キリストの啓示となりました。私がどうしてイエスを信じるのか、とお尋ねになりますか。それは、イエスが私にとって、天からの救い主であられるからです。どうして私が聖書を信じるのかと言えば、それは、聖書が私の魂にとって神のみ声であるとわかったからです」と。私たちは体験によって、聖書は真実であり、キリストは神の子であるということをあかしすることができます。私たちは、巧みなつくり話を信じているのではないということを知っているのです。

**(質問 13) 与えられた光に従うことは、私たちの霊的生活にどのような影響をもたらすでしょう？**

ペテロの第二の手紙 3 : 17、18

愛する者たちよ。それだから、あなたがたはかねてから心がけているように、非道の者の惑わしに誘い込まれて、あなたがた自身の確信を失うことのないように心がけなさい。そして、わたしたちの主また救主イエス・キリストの恵みと知識とにおいて、ますます豊かになりなさい。栄光が、今も、また永遠の日に至るまでも、主にあるように、アアメン。

関連聖句

ルカによる福音書 24 : 32

詩篇 92 : 12

ホセア書 14 : 107

マラキ書 4 : 2

エペソ人への手紙 4 : 15

テサロニケ人への第二の手紙 1 : 3

ペテロの第一の手紙 2 : 2-5

ペテロは、「わたしたちの主また救主イエス・キリストの恵みと知識とにおいて、ますます豊かになりなさい」(ペテロの第二の手紙 3 : 18)と言いました。神の民は、神の恵みのうちに成長するにつれて、神のみ言葉をますます明瞭に理解することができるようになります。そして、聖い真理に新しい光と美を認めるのです。これは、各時代の教会史を通じて歴史が証明しています。ていますが、なお終末までこうして継続するので

す。「正しい者の道は、夜明けの光のようだ、いよいよ輝きを増して真昼となる」（箴言 4：18）。

（質問14）次の聖句は、やがて私たちが神の摂理をどのように理解するようになると描写しているでしょう？

コリント人の第一の手紙 13：12

わたしたちは、今は、鏡に映して見るようにおぼろげに見ている。しかしその時には、顔と顔とを合わせて、見るであろう。わたしの知るところは、今は一部分にすぎない。しかしその時には、わたしが完全に知られているように、完全に知るであろう。

関連聖句

コリント人への第一の手紙 6：3； 15：52

コリント人への第二の手紙 3：18

ローマ人への手紙 8：18

ヨハネの第一の手紙 3：2

私たちは、信仰によって将来をながめます。そして、人間の機能が神と結合し、魂のあらゆる能力が光の源と直接接触合うとき、神が約束されたように知能が伸びることを信じます。そのとき、神のみ摂理のうちに私たちが悩んだことはみな明らかにされ、わからなかったことも説明できるようになります。そして、私たちの限りある心では、ただ混乱と矛盾ばかりであったところに、最も完全な美と調和を見ることでしょう。「わたしたちは、今は、鏡に映して見るようにおぼろげに見ている。しかしその時には、顔と顔とを合わせて、見るであろう。……その時には、わたしが完全に知られているように、完全に知るであろう」（コリント人への第一の手紙 13：12）。

この世界の歴史の最後に、多くの人が神の存在に疑いを持つことが分かりました。わたしは、神が示された証拠に基づいた信仰を持って、神を信じたいと思います。

（ ）はい （ ）まだ分かりません。

誰にも理解できない神の知恵があることを知って、安心しています。神がすべてのことに権威をもっておられるので、わたしの人生を神におまかせしたいと思います。

（ ）はい （ ）まだ分かりません





## 第 15 課 主にある喜び

(質問 1) キリストの慈しみ、恵み、そして愛を、わたしたちクリスチャンは誰に示すべきでしょう？

イザヤ書 12 : 4、5

その日、あなたがたは言う、「主に感謝せよ。そのみ名を呼べ。そのみわざをもろもろの民の中につたえよ。そのみ名のあがむべきことを語りつけよ。主をほめうたえ。主はそのみわざを、みごとになし遂げられたから。これを全地に宣べ伝えよ。

関連聖句

イザヤ書 66 : 19

ヨハネによる福音書 17 : 18  
歴代志上 16 : 8  
詩篇 9 : 11 ; 96 : 3 ;  
105 : 1 ; 107 : 22

神の子らはキリストの代表者として召されたのですから、主の恵みとあわれみを示さなければなりません。イエスが天の父の真の品性を私たちにあらわされたように、私たちも、キリストの優しいあわれみ深い愛を知らない世の人に、キリストを示さなければなりません。

**(質問2) キリストを受け入れて従う私たちにはどのような役割があるでしょう？**

コリント人への第二の手紙 3 : 2、3  
わたしたちの推薦状は、あなたがたなのである。それは、わたしたちの心にしるされていて、すべての人に知られ、かつ読まれている。そして、あなたがたは自分自身が、わたしたちから送られたキリストの手紙であって、墨によらず生ける神の霊によって書かれ、石の板にではなく人の心の板に書かれたものであることを、はっきりとあらわしている。

関連聖句

ペテロの第一の手紙 3 : 15  
使徒行伝 4 : 20  
ローマ人への手紙 1 : 8、16、17  
テサロニケ人への第一の手紙 1 : 8

イエスは、神の子らの一人ひとりを手紙としてこの世に送られました。もしキリストに従う者であれば、キリストはその人を手紙として、その住んでいる家族へ、村へ、町へお送りになるのです。イエスは人の心に内住して、まだイエスを知らない人の心に話しかけたいと望んでおいでになります。おそらくその人々は、聖書を読むことも、聖書が彼らに語る声を聞くこともないでしょう。また、神のみわざを見ても、神の愛を悟らないかもしれませぬ。けれども、もしイエスの真の代表者がいるならば、世の人々はその人を見て、神の恵みを悟ることができ、イエスを愛し、仕えるように導かれるのです。

**(質問3) キリストに仕え、世に光を掲げるわたしたちは、どのような品性を反映するでしょう？**

テモテへの第一の手紙 6 : 6

しかし、信心があつて足ることを知るのは、大きな利得である。

### 関連聖句

ピリピ人への手紙 4 : 1 1

詩篇 34 : 5 ; 4 : 3

ガラテヤ人への手紙 5 : 2 2、2 3

テモテへの第一の手紙 2 : 2 ;

4 : 8 ; 6 : 1 1

箴言 19 : 2 3 ; 30 : 8

伝道の書 4 : 6

クリスチャンは、天国への道を照らす燈火として置かれているのですから、キリストから輝き出した光を世の人々に反映しなければなりません。クリスチャンの生活と品性は、人々が見てキリストとキリストの奉仕を正しく知るに足るものでなければなりません。

もし私たちがキリストを代表する者であるならば、キリストに仕えることが実際にどれほど楽しいものであるかを人々に示すでしょう。心が憂うつと悲しみで満たされ、不平不満を言ったり、つぶやいたりしているクリスチャンは、神について、またクリスチャン生活について、人々の誤解を招いています。そして、神はご自分の子らの幸福をお喜びにならないかのような印象を人々に与え、天の父に対して偽りのあかしをしているのです。

**(質問4) 不信仰や落胆、また神についてのサタンの偽りに惑わされないように、わたしたちがいつも心にとめて置くべき基本的な原則はなんでしょう？**

詩篇 125 : 1

主に信頼する者は、動かされることなく、とこしえにあるシオンの山のようなものである。

### 関連聖句

詩篇 4 : 5 ; 64 : 1 0 ;

57 : 1 ; 40 : 4 ; 34 : 8 ;

141 : 8

箴言 29 : 2 5 ; 30 : 5 ; 3 : 5

悪魔は、神の子らが不信仰を起こして落胆するのを喜びます。また、私たちが神に信頼せず、私たちを救おうとする神のお気持ちと力を疑うことを喜びます。ま

た、神が摂理のうちに害を私たちに与えられるかのように思わせ、神をあわれみと同情に欠けておられるかのように見せるのは、悪魔の働きです。彼は、神に関する真理を曲解し、神に関する間違った思想を私たちの心に満たすのです。私たちも、ともすれば、天の父に関する真理にかたく立つ代わりに、悪魔の誤った言葉に惑わされ、神を信頼せず、つぶやいて神をはずかしめます。悪魔は信仰生活を憂うつなものにしようと絶えず努めています。また、骨が折れて困難なもののように見せかけます。そして、クリスチャンが自分の生活によってこのような宗教観を示すならば、その不信仰の結果、悪魔の偽りを支持したことになるのです。

**(質問5) 人生の行く手で困難を経験した時、私たちはどのように対応すべきでしょうか？**

コリント人への第二の手紙 12 : 9、10

ところが、主が言われた、「わたしの恵みはあなたに対して十分である。わたしの力は弱いところに完全にあらわれる」。それだから、キリストの力がわたしに宿るように、むしろ、喜んで自分の弱さを誇ろう。だから、わたしはキリストのためならば、弱さと、侮辱と、危機と、迫害と、行き詰まりとに甘んじよう。なぜなら、わたしが弱い時にこそ、わたしは強いからである

関連聖句

コリント人への第二の手紙 3 : 5

ヨシュア記 1 : 9

イザヤ書 43 : 2-5

エレミヤ書 1 : 6-9

コリント人への第一の手紙 10 :

13 ; 15 : 10

人生という道を歩みながら、自分の間違いや欠点や失望ばかりを考えて、悲しみと落胆に満たされている人がたくさんいます。茨やあざみは、ただ傷つけ、悲しませるばかりです。こういったものばかりを集めて、ほかの人にも与えるならば、それは神の恵みをみずから軽視するばかりではなく、周囲の人々を命の道へ導く妨げになるのではないのでしょうか。過去の生涯の不愉快な思い出、罪や失望ばかりをかき集め、それらを語り、嘆き、落胆で打ちのめされてしまうことは、決して賢明ではありません。失望した魂は暗闇におおわ

れ、心から神の光を閉ざしてしまい、ほかの人々の行く手にも影を投げかけます。あなたの経験のうちに、何か明るいことはなかったでしょうか。聖霊を感じて、喜びで心がときめいた尊い瞬間はなかったでしょうか。今までの生涯の経験を振り返って見るとき、何か楽しかった出来事はなかったでしょうか。神の約束は、道ばたに一面に咲いているかおり高い花のようなものではないでしょうか。私たちはその美しさと甘いかおりを心から喜ぼうではありませんか。

**（質問6）救われる価値のない罪人が贖いの計画を理解する時、どのような証をするようになるでしょうか？**

イザヤ書 12 : 4

その日、あなたがたは言う、「主に感謝せよ。そのみ名を呼べ。そのみわざをもろもろの民の中につたえよ。そのみ名のあがむべきことを語りつけよ。

関連聖句

イザヤ書 12 : 5

詩篇 106 : 47、48 ;

117 : 1、2 ; 105 ; 1

歴代史上 16 : 8-11

しかし、神が描いてくださった輝かしい光景を感謝しましょう。私たちは神の愛の確証を集めて、常にそれをながめるようにしましょう。すなわち、神のみ子が、悪魔の勢力から人を救うために父のみ座を捨て、人性をもって神性をおおわれたこと、また私たちに代わって勝利を得、天を開き、栄光に輝く神のみ座を人にあらわされたこと、さらに罪のために陥った滅びの淵から墮落した人類を救い出し、無限の神との交わりに入れてくださったこと、そして人は、あがない主を信じて神の与えられる試練に耐えるならば、キリストの義を着せられ、神のみ座にまで高められることなど、こうしたことを私たちが瞑想するように、神は望んでおられるのです。

**（質問7）神の私たちへの愛は疑う余地もありませんが、それはどのように証明されているでしょうか？**

ローマ人への手紙 8 : 32

ご自身の御子をさえ惜しまないで、わたしたちすべての者のために死に渡されたかたが、どうして、御子のみならず万物をも賜わらないことがあるのか。

## 関連聖句

ローマ人への手紙 5 : 6-11

ヨハネによる福音書 3 : 16

コリント人への第二の手紙 5 : 21

ヨハネの第一の手紙 4 : 10

神の愛を疑い、神の約束に信頼しないならば、神をはずかしめ、聖霊を悲しませます。例えば、母親が子どもの幸福と慰めのためにあらゆる努力を尽くしてきたにもかかわらず、子どもたちが一向にそのようなことに気をとめず、不平ばかり言うならば、母親はどう感じるでしょうか。もし子どもたちが母の愛を疑うとしたら、母親はどれほど悲しむでしょうか。どんな親でも、子どもからそのように扱われるならば、どういう気持ちがするでしょうか。同様に天の父は、私たちに命を得させるために独り子をお与えになったその愛を私たちが信じないとき、私たちのことをどう思われるでしょうか。使徒は、「その御子をさえ惜しまず死に渡された方は、御子と一緒にすべてのものをわたしたちに賜らないはずがありませんか」（ローマの信徒への手紙八章三二節）と言っています。けれども、口で言わなくても行いによって、「神は、私に対してはそう思っておられない。神はほかの人を愛しておられるかもしれないが、私のことは愛しておられない」と語っている人がたくさんいます。

**（質問8）霊的なことについて疑いを抱いたり、その疑いの思いを他の人と共有するのは、なぜいけないのでしょうか？**

ローマ人への手紙 14 : 7、13

すなわち、わたしたちのうち、だれひとり自分のために生きる者はなく、だれひとり自分のために死ぬ者はない。それゆえ、今後わたしたちは、互にさばき合うことをやめよう。むしろ、あなたがたは、妨げとなる物や、つまずきとなる物を兄弟の前に置かないことに、決めるがよい。

コリント人への第一の手紙 8 : 9、12

しかし、あなたがたのこの自由が、弱い者たちのつまずきにならないように、気をつけなさい。このようにあなたがたが、兄弟たちに対して罪を犯し、その弱い良心を痛めるのは、キリストに対して罪を犯すことなのである。

## 関連聖句

ルカによる福音書 12 : 29  
マタイによる福音書 12 : 36  
レビ記 19 : 14  
マタイによる福音書 16 : 23  
ヘブル人への手紙 11 : 6  
ローマ人への手紙 14 : 23  
テモテへの第一の手紙 2 : 8

こうしたことはすべて、あなたの魂に害を及ぼします。というのは、疑いの言葉を口にすれば、それはみな悪魔の誘惑を招くからです。そして、ますます疑惑を深め、奉仕の天使を悲しませます。ですから、悪魔に試みられるとき、ひと言も疑いや暗い言葉を口にしてはなりません。もし悪魔のささやきに耳を傾けるならば、心は不信と反抗的な疑問で満たされるでしょう。また、自分の感情を口に出し、疑いの言葉を語るならば、それは自分に返ってくるばかりではなく、種のように他人の生涯にまかれて芽を出し、実を結び、あなたの言葉の影響を取り消すことができなくなってしまいます。あなた自身は一時の誘惑に打ち勝ち、悪魔の罠から逃れることができるかもしれませんが、その言葉に感化された人々は、その不信から逃れることができないかもしれません。ですから、霊的な力と命を与える事柄だけを話すというのは、本当に大切なことです。

**(質問9) 神の救いを人に明らかにするためにはどのように話すべきでしょう？**

詩篇 50 : 23

感謝のいけにえをささげる者はわたしをあげめる。  
自分のおこないを慎む者にはわたしは神の救を示す」。

## 関連聖句

詩編 50 : 14 ; 86 : 12 ;  
34 : 1 ; 104 : 33  
ヨブ記 28 : 12-28  
ペテロの第一の手紙 2 : 9

天使たちは、あなたが世の人々に天の神についてどんなあかしをするか、耳を傾けて聞いています。ですから、人と会話するときは、今生きて父の前で執り成しをしてくださっているキリストについて語りましょう。友の手を握るときも、くちびると心をもって神をほめ

たたえましょう。そうすれば、友人の思いをイエスに引きつけることができます。

**（質問 10） 疑いや落胆に関して聖書にはどのような助言があるでしょう？**

ピリピ人への手紙 2 : 14

すべてのことを、つぶやかず疑わないでしなさい。

関連聖句

ローマ人への手紙 12 : 8 ; 14 : 1

コリント人への第二の手紙 12 : 19、20

エペソ人への手紙 4 : 31

テモテへの第一の手紙 6 : 4-6

だれでも、試練、耐えがたい悲しみ、抵抗しがたい誘惑を持っています。自分の悩みを友に語るのではなく、何事も祈りによって神に訴えなければなりません。疑いや失望の言葉はひと言も口にしないようにしましょう。希望と清い喜びに満ちた言葉を語ることによって、ほかの人をさらに明るく強く生きるように導くことができます。世の中には、試みによってひどく苦しめられ、自我や悪の勢力との戦いに気を失うほどになっている勇敢な人々がたくさんいます。激しい戦いの中にあるそのような人を失望させず、勇気と希望に満ちた言葉で励まし、前進させなければなりません。こうして、キリストの光があなたから輝き出るのは、「わたしたちの中には、だれ一人自分のために生きる人」（ローマ人への手紙 14 : 7）はいません。私たちが気づかずに及ぼす感化が、人々を励まし、強めることもあれば、人々を失望させ、キリストと真理から遠ざけることもあるのです。

**（質問 11） 誰の存在のうちに喜びと豊かな楽しさを見出すことができるでしょう？**

詩編 16 : 8、11

わたしは常に主をわたしの前に置く。主がわたしの右にいますゆえ、わたしは動かされることはない。あなたはいのちの道をわたしに示される。あなたの前には満ちあふれる喜びがあり、あなたの右には、とこしえにもろもろの楽しみがある。

関連聖句

使徒行伝 2 : 28

また世には、キリストの生涯と品性を誤解している人が多く、キリストは温かさも明るさも持っておいでにならず、厳格、苛酷で、何の喜びも味わわれなかったと考えています。そして、すべての宗教経験がこのような陰うつな見解に色どられていることが多いのです。イエスは泣かれたが、ほほえまれたことは一度もない、とよく言われます。確かに、私たちの救い主は心を開いて、人類のあらゆる悲しみを受けられたのですから、悲しみの人であって、悩みを知っておられたに違いありません。イエスの生涯は自己否定の生涯であり、悲痛の陰におおわれてはいましたが、その気力はくじけることはありませんでした。み顔には、苦しみや不平の色がなく、いつも変わらない平和な落ち着いた表情が漂っていました。また、イエスのみ心は命の泉であり、彼はどこに行こうと、休息と平和、楽しみと喜びをもたらされました。私たちの救い主は、実に真面目で熱心でしたが、決して憂うつでもなければ、気難しくもありませんでした。救い主にならう人々の生活は真剣な目的にあふれ、彼らは個人的責任を深く感じるようになり、軽率な行為はなくなり、騒々しい楽しみや礼儀をわきまえない冗談はなくなります。しかし、イエスの宗教は川のような平和を与えるのです。それは喜びの光を消したり、快活さを抑制したり、明るい笑顔をくもらせたりするものではありません。キリストは仕えられるためではなく、仕えるために来られました。そして、ひとたびキリストの愛が心を支配するとき、私たちは彼の模範に従うでしょう。

父なる神様、救いのためにあなたの一人子イエスを下さることで、わたしに対する愛を、疑う余地のないほどにされたことを感謝します。イエスが与えようと望んでおられる喜びと楽しみに満たされる経験をするために、イエスの内に留まる決心です。

( ) はい ( ) まだ分かりません。

クリスチャンとよばれる名誉を感謝を持って受け入れます。キリストの内に留まることによっていただく喜び、平和、幸せを、周りの人たちに分かち合いたいと思います。





## 第 16 課 今と永遠の喜び

(質問 1) 人に傷つけられたときに、どうしたらよいでしょう？

エペソ人への手紙 4 : 3 2

互に情深く、あわれみ深い者となり、神がキリストにあってあなたがたをゆるして下さったように、あなたがたも互にゆるし合いなさい。

箴言 19 : 1 1

悟りは人に怒りを忍ばせる、あやまちをゆるすのは人の誉である。

## 関連聖句

箴言 12 : 16 ; 14 : 29 ;

15 : 1、18 ; 16 : 32 ;

17 : 14

コロサイ人への手紙 3 : 12、13

もし私たちが他人の不親切や不正な行為をしっかりと覚えているなら、キリストが私たちが愛されたようにその人々を愛することはできません。けれども、もしキリストの驚くほどの愛とあわれみのことを考えていれば、その同じ精神がほかの人へも流れ出て行きます。私たちは、どんなに互いの欠点や不完全さが見えても、互いに愛し合い、尊敬しなければなりません。謙遜な心を養い、自己に頼ることをやめ、他人の欠点に優しく忍耐強くならなければなりません。そうすれば、狭い利己心は根を絶ち、寛大な心を持つことができるようになります。

**（質問2）落胆や失望の広がりをどのように防ぐことができるでしょう？**

箴言 3 : 5

心をつくして主に信頼せよ、自分の知識にたよってはならない。

## 関連聖句

詩篇 37 : 5-7 ; 62 : 8 ;

115 : 9-11 ; 125 : 1

イザヤ書 26 : 3、4

エレミア書 17 : 7、8

詩編記者は、「主に信頼し、善を行え。この地に住み着き、信仰を糧とせよ」（詩編37 : 3）と言いました。「主に信頼」しましょう。私たちには一日として重荷や心配、苦勞のない日がありませんから、そうした困難や試練をすぐ他人に話したくなります。いろいろな取り越し苦勞をしたり、恐れや心配を口に出したりするので、あたかも、すべての祈りを聞き、必要なときにはいつも助けてくださるあわれみと愛に満ちた救い主がおられないかのように人に思わせます。

**（質問3）どのような状況にあっても神が決して見捨てられないことはどんな約束によって分かるでしょう？**

ヘブル人への手紙 13 : 5

金銭を愛することをしないで、自分の持っているもので満足しなさい。主は、「わたしは、決してあなたを離れず、あなたを捨てない」と言われた。

### 関連聖句

申命記 31 : 6、8

ヨシュア記 1 : 5

サムエル記上 12 : 22

歴代史上 28 : 20

ある人たちは、常に恐れ、取り越し苦労をしています。毎日、彼らは神の愛のしるしに囲まれ、毎日、神の摂理の恵みをたくさん受けながら、目の前の祝福を見過ぎしにしています。彼らは、何か不愉快なことが起こりはしないかと、そんなことばかり考えています。また、実際に存在する困難は、小さなものであるにもかかわらず、彼らはそのために目がくらんで感謝すべき多くのものを見ることができません。ですから困難に遭えば、唯一の助けの源である神のもとに行く代わりに、かえって不安と不満の念を起こして、神から離れてしまうのです。このように不信仰であってよいのでしょうか。どうして感謝と信頼の念がないのでしょうか。イエスは私たちの友です。全天は私たちの幸福を願っています。日常生活の困難や労苦に悩まされることがあっても、失望してはなりません。もしそうしたことを気にしていれば、悩みの種はいつまでも尽きないのです。心配してはなりません。それはただ、私たちを悩まし、疲れさせるばかりで、試練に耐える何の助けにもなりません。

**(質問4) 主を認め、信頼する人に主はどのような約束をしていますか？**

箴言 3 : 6

すべての道で主を認めよ、 そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。

### 関連聖句

箴言 16 : 3、9

詩篇 25 : 8、9 ; 32 : 8

イザヤ書 30 : 21 ; 48 : 17

エレミア書 10 : 23

仕事の上でいろいろな困難が起こり、前途はますます暗くなり、損失の危機にさらされることもあるでしょ

う。しかし、失望してはなりません。心配事をみな神に任せて、平静、快活にしましょう。賢く物事を処理できる知恵を神に祈り求めるとき、損失、失敗を免れることができます。良い結果をもたらすために、全力を尽くして自分の分を果たさなければなりません。イエスが助けを約束しておられるからといって、何も努力しなくてよいわけではありません。私たちの助け主に頼んで最善を尽くしたならば、結果は何でも喜んで受け入れましょう。

**(質問5) わたしたちが困難に出会う時、主はどのような励ましを下さるでしょう？**

ヨハネによる福音書 16 : 33

これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」。

関連聖句

ヨハネによる福音書 14 : 27

詩篇 85 : 8-11

ローマ人への手紙 5 : 1、2

ピリピ人への手紙 4 : 6、7

神の民が心配事で心を重くしているのは、神のみ心ではありません。しかし主は、私たちがだまされたりなさいません。主は私たちに、「何も恐れることはない。前途には何の危険もない」とはおっしゃらないのです。試練や危険があることをよく知っておられて、はっきりとそのように対処してください。ご自分の民を罪と悪の世から取り去ろうとはなさらず、間違いのない逃れの場所を示してください。

**(質問6) わたしたちの毎日の必要についてどのような約束が与えられているでしょう？**

マタイによる福音書 6 : 33

まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。

関連聖句

列王記上 3 : 11-13 ; 17 : 13 ;

マラキ書 3 : 10、12

ルカによる福音書 12 : 31

ヨハネによる福音書 6 : 27

歴代誌下 31 : 10

ルカによる福音書 5 : 6、7

キリストは山上の説教の中で、神に頼ることの必要性について、尊い教訓を弟子たちに与えられました。これは、各時代を通じて神の子らを励ますためのもので、今日においても教えと慰めに満ちています。救い主は、空の鳥が楽しく神をたたえ、少しも心配せず、「種も蒔かず、刈り入れもせず」にいるのを見なさい、とおっしゃいました。それでも、大いなる父は小鳥の必要を満たされます。「あなたがたは、鳥よりも価値あるものではないか」（マタイによる福音書六章二六節）と救い主は問われました。人にも、獣にも、豊かに与えられる神は、すべてのつくられたものの必要を満たしてください。空の鳥でさえ、神の目からもれることはありません。神は食物をくちばしの中に落とすことはなさいませんが、必要は満たされます。小鳥は、神が散らされた穀類を集めなければなりません。また、巣を作る材料を用意し、ひなを養わなければなりません。小鳥はそれでも、歌いながら働きに出て行きます。というのも、「あなたがたの天の父は鳥を養ってください」からです。「あなたがたは、鳥よりも価値あるもの」なのです。理性を備え、霊をもって礼拝する人間は、空の鳥よりはるかに優れているのではないのでしょうか。私たちをつくられた神、私たちの命を支えられる神、私たちをご自分のかたちにかたどられた神は、私たちが神に信頼してさえいれば、私たちの必要を満たしてくださるのではないのでしょうか。

**（質問7）キリストが愛を持って私たちを見守るとい  
う保証をどこで知ることができるでしょうか？**

マタイによる福音書 6 : 28-30

また、なぜ、着物のことで思いわずらうのか。野の花がどうして育っているか、考えて見るがよい。働きもせず、紡ぎもしない。しかし、あなたがたに言うが、栄華をきわめた時のソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。きょうは生えていて、あすは炉に投げ入れられる野の草でさえ、神はこのように装って下さるのなら、あなたがたに、それ以上よくして下さらないはずがあるろうか。ああ、信仰の薄い者たちよ。

## 関連聖句

マタイによる福音書 6 : 25、31

ルカによる福音書 22 : 35

キリストは、野の花が人に対する神の愛の表現として一面に咲き誇り、天の父から与えられた素朴な美を競っているのを指さして、「野の花がどのように育つのか、注意して見なさい」（マタイによる福音書6 : 28）と弟子たちにおっしゃいました。ソロモンの栄華でさえ、自然の花のこうした美しさにはとうてい及ばなかったのです。芸術的技巧をこらして生み出したどんな華麗な装いも、神がつくられた花の自然な華麗さには比べることはできません。イエスは、「今日は生えていて、明日は炉に投げ込まれる野の草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことではないか、信仰の薄い者たちよ」（マタイによる福音書6 : 30）と言われます。もし天の芸術家である神が、一日で枯れてしまう草花にさえ、このように繊細でいろいろな色彩を与えられたのだとすれば、神ご自身にかたどってつくられた者たちには、どれほど心をとめておいでになることでしょうか。キリストのこの教えは、信仰の薄い人が心にいただく思いわずらい、悩み、疑いに対する譴責なのです。

主は、神の子らがみな、幸福、平和、従順であるように望んでおられます。イエスは、「わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな」、「これらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたの内にあり、あなたがたの喜びが満たされるためである」（ヨハネによる福音書14 : 27、15 : 11）と言われました。

**（質問8）** 周りの人たちに助けの手を伸べることによって、わたしたち自身が幸せと本当の満足を受けることができます。このような神への愛の犠牲的な奉仕を、実際の日常生活の中から六つ考えてみましょう。

イザヤ書 58 : 6、7

わたしが選ぶところの断食は、悪のなわをほどき、くびきのひもを解き、しえたげられる者を放ち去らせ、すべてのくびきを折るなどの事ではないか。また飢えた者に、あなたのパンを分け与え、さすらえる貧しい者を、あなたの家に入れ、裸の者を見て、これを着せ、自分の骨肉に身を隠さないなどの事ではないか。

## 関連聖句

イザヤ書 58 : 8-11  
ヤコブの手紙 1 : 27  
詩篇 112 : 9  
伝道の書 11 : 1、2  
箴言 25 : 21 ; 28 : 27  
ダニエル書 4 : 27  
マタイによる福音書 25 : 35-40

義務の道はずれて、利己的な動機から求めた幸福は、均衡が取れていないために変わりやすく、一時的なものです。それが過ぎ去ると、心は寂しさと悲しみで満たされます。けれども、神に仕えることには喜びと満足があります。クリスチャンは疑わしい道を歩いたり、悲しみや失望の中に捨てられることはありません。たとえ、この世に楽しみがなくても、やがて来る世を待ち望んで喜ぶことができます。

**(質問9) キリストとの交わりを喜び、福音を分かちあっているわたしたちに、どのような安らぎの約束が与えられているのでしょうか？**

マタイによる福音書 28 : 20  
あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」。

## 関連聖句

詩編 46 : 7、11  
イザヤ書 41 : 10  
マルコによる福音書 16 : 20  
ヨハネによる福音書 14 : 18  
テモテへの第二の手紙 4 : 17

しかし、この世にあっても、クリスチャンにはキリストと交わる喜びがあります。また、キリストの愛の光を持ち、ともにおられる彼から絶えることのない慰めを得ることができます。人生の歩みの一步一步が私たちをイエスに近づけ、イエスの愛をより深く経験し、祝福された平和な家庭にまた一歩近づけるのです。ですから、私たちの確信を投げ捨てないで、ますます信頼を深めなければなりません。「今まで、主は我々を助けてくださった」（サムエル記上七章一二節）とありますが、神は終りまで私たちを助けてくださるのです。

(質問 10) 神から与えられた祝福を忘れずに覚えておくことは、なぜそれほど大切なのでしょうか？

申命記 4 : 9

ただあなたはみずから慎み、またあなた自身をよく守りなさい。そして目に見たことを忘れず、生きながらえている間、それらの事をあなたの心から離してはならない。またそれらのことを、あなたの子孫に知らせなければならぬ。

関連聖句

ヘブル人への手紙 2 : 1

申命記 6 : 7

箴言 4 : 20-23 ; 3 : 1-3

主が私たちに慰め、滅ぼす者の手から私たちを救われた際の記念の塔をながめましょう。神は涙をぬぐい、痛みを和らげ、心労を除き、恐怖を取り去り、必要を満たし、祝福をさずけられたのですが、こうした神のあわれみの数々を常に心にとめて自分自身を励まし、私たちの前途に横たわる残りの旅路を進まなければなりません。

(質問 11) 将来直面する試練や難局に私たちが耐えるために、どのような約束が与えられていますか？

コリント人への第一の手紙 10 : 13

あなたがたの会った試練で、世の常でないものはない。神は真実である。あなたがたを耐えられないような試練に会わせることはないばかりか、試練と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さるのである。

関連聖句

ペテロの第一の手紙 1 : 6、7 ;

5 : 8-10

ヨブ記 23 : 10

エペソ人への手紙 6 : 12、13

ヨハネの黙示録 2 : 10 ; 3 : 10

私たちは、やがて来る争闘において新しい困難が起こることを避けられませんが、将来を見るとともに過去も振り返って、「あなたのかんぬきは鉄と青銅。あなたの力はどこしえに続く」(申命記 33 : 25)とすることができます。試練は、それを乗り越えるため

に私たちに与えられる力を上回ることがありません。ですから、どんなことが起きようと、試練に釣り合った力が与えられることを信じて、見いだすままに私たちの仕事を始めましょう。

**（質問 1 2）** 悲惨な試練を目撃したり経験したとしても、私たちは何を知っていることで平安と慰めを保てるでしょう？

ローマ人への手紙 8 : 2 8

神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。

関連聖句

ローマ人への手紙 8 : 3 5-3 9 ;

5 : 3-5

申命記 8 : 2、3、1 6

詩篇 4 6 : 1、2

ゼカリヤ書 1 3 : 9

コリント人の第二の手紙 4 : 1 5-1 8

**（質問 1 3）** 神の恵みによって勝利していくわたしたちに、どのような素晴らしい言葉が与えられると約束されているでしょう？

マタイによる福音書 2 5 : 3 4

そのとき、王は右にいる人々に言うであろう、『わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい。』

関連聖句

マタイによる福音書 2 5 : 2 1、2 3 ;

5 : 3-1 2

ルカによる福音書 1 2 : 3 2

テモテへの第二の手紙 4 : 8

やがて、天の門が神の子らのために開かれ、栄光の王の口から、「わたしの父に祝福された人たち、天地創造の時からお前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい」（マタイによる福音書二五章三四節）という祝福の言葉がすばらしい音楽のように響いてきます。こうして、あがなわれた者たちは、イエスが彼らのために備えられた住居に迎えられますのです。そこで彼ら

が交わる人々は、地上の悪人、偽りを言う者、偶像を拝む者、汚れた者、不信仰な者ではなく、悪魔に打ち勝ち、神の恵みによって完全な品性を形づくった人々です。この地上で彼らを苦しめたあらゆる罪の傾向、あらゆる不完全さは、すべてキリストの血によって除かれ、太陽の輝きよりはるかに優れたキリストの栄光の美と輝きが、彼らに与えられるのです。そして、彼らを通して輝く人格の美、キリストの品性の完全さは、この世の外見の麗しさがとうてい及ぶものではありません。彼らは神の大いなる白いみ座の前に罪のない者とされ、天使たちの尊厳と特権にあずかるのです。

（質問 14）善と悪との大争闘の終わりが近づいている今、私たちに重要な問いかけがなされています。それはなんでしょう？

マタイによる福音書 16 : 26

たとい人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんの得になろうか。また、人はどんな代価を払って、その命を買いもどすことができようか。

関連聖句

マタイによる福音書 5 : 29

ルカによる福音書 9 : 25 ;

12 : 20、21

ヨブ記 27 : 8

詩篇 49 : 8、15

こうした輝かしい嗣業を思うとき、人は「人はどんな代価を払って、その命を買いもどす」（マタイによる福音書 16 : 26）ことができるでしょうか。人は、たとえ貧しくても、この世が与えることのできない富と尊厳を自分のうちに持っています。罪からあがなわれ、清められ、神の働きにその尊い力のすべてをささげた魂は、この上もなく価値あるものです。天では、一人でも救われるなら、神と聖なる天使たちの間に喜びがあります。そしてその喜びは、聖なる凱歌となって表現されるのです

自分の知恵と理解を信頼する結果は失望だと気づきました。み国に導いてくださると言う神の誠実な約束に感謝しています。

( ) はい ( ) まだ分かりません

過去に与えられた祝福をいつも心に留めて、わたしの現在と将来に対する神の導きを疑うことのないようにしようと決心します。

( ) はい ( ) まだ分かりません

この聖書研究を通して神に近づく道を神が示してくださったことを感謝します。そして、「良い忠実な僕よ、よくやった。あなたのためにわたしが用意したすまいに迎えよう。」との素晴らしい言葉を聞くのを待ち望みます。

( ) はい ( ) まだ分かりません